

前項ニ依リ出納簿ノ登記ヲ省署シタルトキハ第百十三條受取人ノ領收證書ヲ以テ出納簿ニ代用スルモノモス

第百十二條 會計規則第六十六條但書ノ場合ニ於テハ縣金庫ノ預リ證書裏面ニ本人ニ還付スヘキ旨ヲ記入シ出納吏捺印ノ上之ヲ本人ニ交付シ現金ト引換ヘシムヘシ

第百十三條 第百十一條ノ現金又ハ證券ヲ還付スルトキハ會計規則第六十二條ニ依リ交付シタル納付書ニ領收ノ旨與書捺印セシメ領收證書ニ代用セシムヘシ

第百十四條 年度末日ニ於テ歳入歳出外現金ノ仕拂殘額アルトキハ更ニ翌年度ニ委託替ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第百一條第百四條及第百九條ノ規定ノ準用ス

第百十五條 仕拂切符發行ニ關スル手續ハ仕拂命令發行ニ關スル規定ヲ準用ス

第百十六條 現金前渡ヲ受ケタル出納吏ノ現金仕拂ニ關シ必要アルトキハ本則ノ外特ニ其規定ヲ設クルコトアルヘシ

第六章 計算報告

第百十七條 歳入ノ現金收入歳出ノ現金前渡ヲ受ケタル出納吏ハ毎月收入支出ノ報告書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月二日迄ニ各麻出納吏ハ其麻長ニ警察分署ノ出納吏ハ本屬警察署長ニ其他ハ直ニ縣廳ニ差出スヘシ但報告書差出後ニ於テ科目ノ組替其他異動ヲ生シタルモノアルトキハ更正報告書ヲ差出スモノトス

各麻長ニ於テ出納吏ヨリ收入報告書ヲ受ケタルトキハ其證憑書類及豫テ縣金庫ヨリ送付ヲ受ケタル歳入金拂込通知書ニ照合シ之ヲ調査スヘシ

各麻長ニ於テ現金前渡ヲ受ケタル出納吏ヨリ支出報告書ヲ受ケタルトキハ其證憑書類ニ照合調査シ其仕拂濟額ヲ自己ノ計算ニ併算スヘシ

第百十八條 收入支出命令ノ委任ヲ受ケタル官吏々員及其他ノ職員ハ毎月末日帳簿ノ結果ニ依リ收入支出ノ報告書ヲ調製シ證憑書類及縣金庫ノ月計表ヲ添ヘ翌月五日迄ニ縣廳ニ差出スヘシ但報告書差出後ニ於テ科目ノ組替其他異動ヲ生シタルモノアルトキハ更正報告書ヲ差出スモノトス

罹災救助基金ニ係ル收入報告書ニハ前項ノ外尙收入濟額仕譯書ヲ添付スルモノトス

第百十九條 出納吏ハ毎年度歳入ノ現金收入歳出ノ現金前渡歳入歳出外ノ現金證券ノ出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌年度四月三十日迄ニ麻長ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ但現金前渡ヲ受ケタル出納吏ハ其仕拂ヲ完了シタルトキ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第百二十條 第百十七條乃至第百十九條ニ依リ收入支出ノ報告書及計算書ニ添付スヘキ收支ノ證憑書類ハ別ニ定ムル規定ニ依リ之ヲ整理提出スヘシ

第百二十一條 會計規則第三十二條ノ現計書ハ各款別ニ之ヲ調製シ出納閉鎖後五日以内ニ之ヲ差出スヘシ但出納閉鎖期日前ニ於テ收支出納ノ完了シタルトキハ其完了ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ差出スモノトス

第百二十二條 第百二十一條ノ現計書ハ歲計全体ニ關スル説明ノ外各目ニ左ノ事項ノ計算ヲ明記シ歳入ハ調定額歳出ハ豫算ニ對シ過不足ヲ生シタル理由ヲ説明スヘシ

一 歳入ハ調定額收入未濟額收入未濟額不納欠損額

二 歳出ハ豫算額豫算令達後増減額及流用額仕拂命令濟額翌年度へ繰越ヲ要スル額豫算不用額

第七章 帳簿

第百二十三條 收支命令ノ委任ヲ受ケタル官吏々員其他ノ職員ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

一 收入簿

二 支出簿

三 現金前渡整理簿

概算簿整理簿

第二百二十四條 出納吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

一 現金出納簿

二 收入簿

三 支出簿

四 證券整理簿

五 歳入歳出外現金整理簿

六 歳入歳出外證券整理簿

第二百二十五條 第二百二十三條第二百二十四條帳簿ノ外出納ノ細別ヲ要スルモノハ便宜補助簿ヲ設ケ整理スヘシ

第八章 雜 則

第二百二十六條 本則ニ掲クル諸計算書類及帳簿ノ様式記入ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第九章 附 則

第二百二十七條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第二百二十八條 本則ニ抵觸スル從前ノ訓令通牒決議等ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス但明治三十三年度所屬ノ收支出納ハ其決算完了ノ日迄尙從前ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

訓令第十八號

明治三十四年三月二十九日

內務部

明治二十八年四月訓令第二百二十八號本縣金庫事務規程左ノ通改正ス

愛知縣金庫事務規程

第一章 總 則

第一條 縣金庫ノ事務ハ法律命令及會計細則ノ定ムル所ニ從ヒ此規定ニ依リ處理スヘシ

第二條 縣金庫ノ事務ハ市郡部郡連帶ノ經濟毎ニ歳入歳出各特別會計ノ歳入歳出及雜部ニ區分整

理スヘシ

左ニ掲クルモノハ之ヲ特別會計トス

- 一 愛知病院全醫學校ノ歳入歳出
- 二 岡崎支病院ノ歳入歳出
- 三 公園歳入歳出
- 四 罹災救助基金
- 五 市町村立小學校及實業補習學校教員恩給金

郡市役所
警察署及全分署
縣立學校及病院
驅事場
農事試驗場
農事講習所
博物館
縣金庫

- 六 市町村立小學校及實業補習學校教員恩給基金
 - 七 慈惠救濟基金
 - 八 師範學校基金
 - 九 中學校基金
 - 十 博物館基金
 - 十一 愛知病院全醫學校基金
 - 十二 岡崎支病院基金
 - 十三 市町村立小學校教員加俸資金
 - 十四 教育資金
 - 十五 公園基金
- 前各號ノ外特ニ指定スルモノ
- 會計規則第五十九條ニ掲クル歳入歳出外ノ現金其他各應屬出納吏ノ職務上取扱フ所ノ現金ニシテ縣金庫ニ於テ保管ヲ爲スモノヲ雜部トス
- 第三條 縣金庫ノ出納ハ縣廳及各廳ノ執務時間ニ依ルヘシ但至急ノ仕拂ヲ要スルトキ又ハ領收金ノ幅狹スルトキハ此限ニアラス
 - 第四條 縣金庫ニ於テ領收スル現金ハ其貨幣持參人ノ目前ニ於テ鑑定スヘシ
 - 第五條 縣金庫ニ於テ仕拂ニ用ユル現金ハ其金庫在合ノ通貨ヲ以テスヘシ但保管金ニシテ同種ノ貨幣ヲ以テ拂戻ヲ要スルコトアルトキハ此限ニアラス
 - 第六條 縣金庫ハ照較ニ供スル爲メ出納ニ關係アル各應屬ヘ其印鑑及事務取扱者ノ氏名印鑑ヲ差出スヘシ

縣金庫ニ於テ出納上照較ニ供スル印鑑ハ各應屬ヨリ直ニ關係ノ縣金庫ニ送付ヲ受クルモノトス

第二章 歳入金

- 第七條 縣金庫ニ於テ納人ヨリ徵稅令書又ハ納付書若クハ納入告知書ヲ添ヘ現金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク記入捺印シ領收證書ハ納人ニ交付シ通知書ハ即日之ヲ徵稅令書納付書納入告知書ニ記載スル應屬ノ收入命令者ニ送付スヘシ
 - 第八條 縣金庫ニ於テ納人ヨリ納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ郵便爲替若クハ縣金庫ニ宛テタル送金手形又ハ縣金庫取扱銀行若ハ其代理店ニ於テ證明シタル小切手ノ拂込ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク記入捺印シ領收證書ハ納人ニ交付シ通知書ハ即日之ヲ納入告知書納付書ニ記載スル應屬ノ收入命令者ニ送付スヘシ
 - 第九條 縣金庫ニ於テ納人ヨリ爲替納ノ請求ヲ爲スモノアルトキハ之ヲ領收シ其納人ニ爲替納金領收證書ヲ交付シ納人ヲシテ其領收證書ニ納付書ヲ添ヘ指定ノ縣金庫ニ送付セシムヘシ
 - 第十條 縣金庫ニ於テ出納吏ヨリ現金拂込書ヲ添ヘ現金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク記入捺印シ領收證書ハ其出納吏ニ交付シ通知書ハ即日之ヲ現金拂込書ニ記載スル應屬ノ收入命令者ニ送付スヘシ
 - 第十一條 縣金庫ニ於テ出納吏ヨリ現金拂込書ニ仕拂切符ヲ添ヘ歳入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第七條若ハ第十條ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 第十二條 縣金庫ニ於テ各應屬ヨリ收入月日ヲ記入シタル第五十二條ノ回送書ヲ受ケタルトキハ該回送書ニ指定スル月日ニ依リ收入ノ手續ヲ爲スヘシ
- 前項ノ回送書ヲ受ケタルトキハ其應屬ニ領收證書ヲ差出スヘシ但應屬ノ送付簿ニ領收證印ヲ捺シ領收證書ニ代用スルコトヲ得

第十三條 縣金庫ハ現金收入濟ノ徵稅令書納付書納入告知書及現金拂込書回送書ヲ年度及各廳解ニ區分シ一箇月分ヲ取纏メ合計書ヲ調製シ帳簿上ノ收入額ニ對查シ五ヶ年間之ヲ保存スヘシ

第十四條 縣金庫ニ於テ歳入金拂戻ノ仕拂命令ヲ受ケタルトキハ其年度ノ歳入金ヨリ之ヲ仕拂フヘシ前項ノ仕拂命令ハ第三章ノ規定ヲ準用ス

第三章 歳出金

第十五條 縣金庫ニ於テ會計規則第十六條第二項明治三十四年第三百三號訓令會計規則第二十六條第五十七條ニ依リ仕拂豫算若ハ其増減變更又ハ年度開始前現金前渡ノ令達ヲ受ケタルトキハ其金額ヲ關係帳簿ニ登記シ直ニ之レヲ其仕拂ニ關係アル各支金庫ニ移牒スヘシ

縣支金庫ニ於テ前項ノ移牒ヲ受ケタルトキハ直ニ關係帳簿ニ登記スヘシ

第十六條 縣本金庫ニ於テ明治三十四年第三百三號訓令會計規則第二十七條ニ依リ月額豫算變更ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ之レヲ其仕拂ニ關係アル各支金庫ニ移牒スヘシ

第十七條 縣金庫ニ於テ會計規則第十六條ニ依リ案内仕拂命令集合仕拂命令若ハ送金ヲ要スル仕拂命令集合仕拂命令ノ送付ヲ受ケタルトキハ仕拂命令發行簿ニ縣金庫出納取扱人領收ノ證印ヲ捺シ左ノ事項ヲ調査スヘシ

- 一 該命令ノ様式ニ違フコトナキヤ
 - 二 該命令ノ金額ヲ支出簿仕拂豫算ノ殘額ト照合シ仕拂豫算各款ノ定額ニ超過スルコトナキヤ
 - 三 集合仕拂命令ノ金額ハ該命令ニ添付シタル各債主ノ金額氏名表ノ金額ト違フコトナキヤ
- 縣金庫ハ集合仕拂命令及送金ヲ要スル仕拂命令集合仕拂命令ニ對シテハ受領ノ都度債主毎ニ其命令若ハ金額氏名表ノ番號仕拂金額ヲ掲記シタル領收證書ヲ仕拂命令ヲ發シタル官吏々員ニ送付シ置キ追テ正當受取人ノ領收證書ト引換ヲ爲スヘシ但本項ノ領收證書ハ便宜帳簿ヲ以テ代用スルモ妨ケナ

シ

第十八條 縣金庫ハ第十七條第一項第一號乃至第三號ノ調査ヲ爲シ該命令ヲ不正當ト認ムルトキ若ハ汚損シテ其要部ヲ認メ難キトキハ其事由ヲ具シ直ニ仕拂命令ヲ發シタル官吏々員ニ返付スヘシ

第十九條 縣金庫ハ第十七條第一項ノ調査ヲ爲シ該命令ヲ正當ト認ムルトキハ案内仕拂命令集合仕拂命令ニ對シテハ仕拂ノ準備ヲ爲シ送金ヲ要スル仕拂命令及集合仕拂命令ニ對シテハ普通仕拂金ノ順序ニ依リ之ヲ拂出シ其縣内ニ係ルモノハ送金仕拂命令若ハ金額氏名表ノ番號金額受取人ノ住所氏名ヲ記載シタル通知書ヲ添ヘ即日該金員ヲ指定ノ縣金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲サシメ其縣外ニ係ルモノハ適宜ノ方法ヲ以テ直ニ本人ニ送金シ規定ノ領收證書ヲ徴スヘシ

前項縣外送金ニ係ルモノニ對シ受取人ヨリ領收證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ送金仕拂命令若ハ金額氏名表ニ年月日現金交付濟ノ旨記入シ置ケヘシ

縣廳ヨリ縣内各地ノ債主ニ送付シタル仕拂通知書持參人ニ仕拂フヘキ金額ニ對スル仕拂基金ヲ豫メ各支金庫ニ配賦シタルルハ本條第一項ノ送金ヲ要セス通知書ヲ送付シテ仕拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十條 縣金庫ニ於テ明治三十四年訓令第十七號會計規則第二十四條ニ依リ會計規則第七十條第一號乃至第三號乙様式ノ案内仕拂命令集合仕拂命令送金ヲ要スル仕拂命令集合仕拂命令ヲ受ケ現金ノ仕拂ヲ執行スルトキハ國庫納金引去高ヲ扣除シ現金支給高ヲ受取人ニ交付スヘシ

前項ニ依リ扣除シタル國庫納金引去高ハ普通仕拂ノ順序ニ依リ之ヲ拂出シ直ニ其仕拂命令ヲ發行シタル廳解ノ出納吏所管ノ雜部ニ振替ヲ爲シ國庫納金引去高振替報告書ヲ調製シ當該出納吏ニ送付スヘシ

第二十一條 縣金庫ハ仕拂命令ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ之ヲ案内仕拂命令ニ對查シ其金額ヲ交付スヘシ但現金交付ノ際仕拂命令及案内仕拂命令ニ年月日現金交付濟ノ旨記入シ置

クヘシ

第二十二條 縣金庫ハ集合仕拂命令ニ對シ仕拂通知書ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ該集合仕拂命令ニ添付シタル金額氏名表ニ對查シ規定ノ領收證書ニ署名捺印セシメ之ト引換ニ現金ヲ交付スヘシ但現金交付ノ際金額氏名表ニ年月日現金交付濟ノ旨記入シ置クヘシ

第二十三條 第十九條ニ依リ縣内ニ係ル仕拂金ノ送付ヲ受ケタル縣金庫ニ於テ仕拂通知書ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ之ヲ通知書ニ對查シ規定ノ領收證書ニ署名捺印セシメ之ト引換ニ現金ヲ交付シ其領收證書ハ即日送金ヲ爲シタル縣金庫ニ送付スヘシ但現金交付ノ際仕拂通知書及送金通知書ニ年月日現金交付濟ノ旨ヲ記入シ置クヘシ

スヘシ

第二十四條 縣金庫ニ於テ毎年度出納閉鎖期日迄ニ現金仕拂ノ請求ナキ案内仕拂命令集合仕拂命令若ハ送金仕拂命令アルトキハ其金額ノ所屬年度科目債主ノ住所氏名仕拂命令金額氏名表ノ番號及其發行年月日ヲ記載シタル現金仕拂未濟證明書ヲ調製シ出納閉鎖後五日以内ニ仕拂命令ヲ發シタル廳麻ニ差出スヘシ

送金ニ係ルモノニシテ出納閉鎖期日マテニ現金仕拂ノ請求ナキトキハ其送金ヲ受ケタル縣金庫ニ於テ其金額氏名及送金通知書番號等ヲ記載シ出納閉鎖後二日以内ニ其送金ヲ爲シタル縣金庫ニ報告スヘシ

縣支金庫ハ第一項ニ依リ證明書ヲ差出シタルトキハ其取扱ニ係ル各廳麻ノ分ヲ取纏メ其金額所屬年度科目債主ノ住所氏名仕拂命令發行月日其他必要ノ事項ヲ記載シタル報告書ヲ調製シ速ニ之ヲ縣本金庫ニ差出スヘシ

縣本金庫ハ帳簿ヲ設ケ前項ノ報告及自己ノ取扱ニ係ルモノヲ併セテ之ヲ登記シ未拂金ノ整理ヲ爲スヘシ

第二十五條 縣金庫ニ於テ第二十四條第一項ノ現金仕拂未濟證明書ヲ差出シタル后受取人ニ其金額ヲ仕拂ヒタルトキハ速ニ之ヲ關係ノ廳麻ニ報告スヘシ但仕拂通知書若ハ第二十九條第三十條ノ手續ニ依リ現金ノ仕拂ヲ爲シタルトキハ報告ヲ要セス

縣支金庫ニ於テ第二十四條第三項ノ報告書差出后現金ノ仕拂ヲ爲シタルトキハ速ニ之ヲ縣本金庫ニ報告スヘシ

縣本金庫ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ縣廳ニ報告スヘシ

第二十六條 縣金庫ハ債主ノ領收證書ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スヘキ付記アル仕拂通知書ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ受取人ヲシテ規定ノ領收證書ニ相當印紙ヲ貼用セシムヘシ

前項ノ外仕拂通知書欄外ニ豫告シタル事項ニ對シテハ現金仕拂ノ際特ニ注意スヘシ

第二十七條 縣金庫ニ於テ會計規則第十九條ニ依リ仕拂命令若ハ仕拂通知書ヲ發行シタル官吏ノ更正若ハ保證ヲ爲シタル仕拂命令若ハ仕拂通知書ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ第二十一條乃至第二十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條 縣金庫ニ於テ仕拂命令ヲ發行シタル官吏々員ヨリ案内仕拂命令若ハ仕拂命令返付ノ請求ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ返付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其案内仕拂命令ニ對スル仕拂ヲ取消スヘシ

第二十九條 縣金庫ニ於テ仕拂命令若ハ仕拂通知書ヲ盜取セラレ又ハ亡失シタル旨ノ届書ヲ受ケタルキ既ニ現金仕拂濟ナルトキハ會計規則第二十一條ノ手續ヲ爲シ現金仕拂未濟ナルトキハ届出人ニ届書ノ受領證書ヲ交付シ其届書ハ現金仕拂未濟ノ旨記入捺印シ仕拂命令ヲ發行シタル官吏々員ニ送付

スヘシ但其案内仕拂命令又ハ金額氏名表若ハ縣金庫ノ送金通知書ニハ仕拂ニ故障アル旨ヲ付箋シ置シヘシ

縣金庫ニ於テ仕拂命令ヲ發行シタル官吏々員ヨリ正當ト認ムル旨ヲ記入シ署名捺印シタル前項ノ届書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其旨届出人ニ通知シ糞ニ交付シタル届書ノ領收證書ニ現金領收ノ旨與書ノ上署名捺印セシメ其印章ヲ届書ニ押捺シタル印章ニ對查シ現金ヲ交付スヘシ

第三十條 縣金庫ニ於テ仕拂命令ヲ發行シタル官吏々員ヨリ發送途中ニ紛失シタル仕拂通知書ニ對スル現金仕拂濟否ノ照會ヲ受ケタルトキハ速ニ其濟否ヲ通知スヘシ

前項現金仕拂未濟ニ係ルモノニ對シ仕拂通知書再發ノ通知ヲ受ケタルトキハ仕拂命令金額氏名表若クハ第十九條ノ通知書ニ仕拂通知書再發ノ旨ヲ記入シ置キ現金仕拂ノ請求アリタルトキハ其再發ノ通知書ニ依リ第二十一條第二十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 縣金庫ニ於テ返納告知書ヲ添ヘ歳出入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク記入捺印シ領收證書ハ返納人ニ交付シ通知書ハ即日其返納告知書ヲ發シタル應解ノ支出命令者ニ送付スヘシ

第三十二條 縣金庫ニ於テ各應解ヨリ會計細則ノ定ムル所ニ依リ戻入月日ヲ記入シ第五十二條ノ回送書ヲ受ケタルトキハ第十二條ノ規定ヲ準用シ定額戻入ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十三條 縣金庫ハ現金仕拂濟ノ仕拂命令案内仕拂命令若ハ返納告知書送金通知書ヲ年度及各應解ニ區分シ一箇月分ヲ取經メ合計書ヲ調製シ帳簿上ノ仕拂額及戻入額ニ對查シ五箇年間之ヲ保存スヘシ

第四章 特別會計

第三十四條 特別會計ニ屬スルモノニシテ其收入金ヲ以テ仕拂基金ニ充ツヘキモノハ仕拂豫算令送額以內ト雖トモ收入金ニ超過スル仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條 縣金庫ニ於テ縣廳ヨリ會計細則ノ定ムル所ニ依リ收入月日ヲ記入シタル罹災救助基金及

市町村立小學校及實業補習學校教員恩給基金ノ回送書ヲ受ケタルトキハ縣支金庫ノ計算表ニ對查シ現金出納原簿及各金庫現金出納内譯簿計算科目振替ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十六條 特別會計ノ歳入歳出ハ第二十四條及第三十五條ノ規定ノ外第二章第三章ノ例ニ依ルヘシ

第五章 雜 部

第三十七條 縣金庫ニ於テ出納吏ヨリ委託書ヲ添ヘ雜部金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ會計規則第六十五條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十八條 縣金庫ニ於テ納入ヨリ入札保證金契約保證金其他歳入歳出外ノ現金ノ預ケ込ミヲ受ケタルトキハ會計規則第六十一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十九條 縣金庫ニ於テ出納吏ヨリ雜部金ヲ歳入ニ組入レ若ハ返納ノ爲メ仕拂切符ニ現金拂込書若ハ返納告知書ヲ添ヘ拂込ヲ受ケタルトキハ歳入ヘ振換ヘ若ハ定額ヘ戻入ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十條 縣金庫ニ於テ出納吏ヨリ案内仕拂切符ヲ受ケタルトキハ當該出納吏ノ委託金額ニ照查スヘシ

左ノ場合ニ於テハ事由ヲ出納吏ニ告ケ其案内仕拂切符ヲ返付スヘシ
一 案内仕拂切符ノ式ニ違フトキ
二 案内仕拂切符ノ汚損シテ其要部ヲ認メ難キトキ
三 案内仕拂切符ノ金額該出納吏ノ委託金額ニ超過スルトキ

第四十一條 縣金庫ニ於テ出納吏ノ發行シタル仕拂切符ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ其案内仕拂切符ニ對查シ其金額ヲ交付スヘシ但現金交付ノ際仕拂切符及案内仕拂切符ニ年月日現金交付濟ノ旨記入シ置クヘシ

第四十二條 縣金庫ニ於テ會計規則第六十六條但書ニ依リ出納吏ノ裏書及捺印アル縣金庫ノ預リ證書ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ之ト引換ニ其現金ヲ拂渡スヘシ

第四十三條 縣金庫ニ於テ返納告知書ヲ添へ戻入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク記入捺印シ領收證書ハ返納人ニ交付シ通知書ハ即日其返納告知書ヲ發シタル出納吏ニ送付スヘシ

第四十四條 縣金庫ニ於テ出納吏ヨリ仕拂切符ニ委託書ヲ添へ歲入歳出外現金ノ年度末日仕拂殘額ヲ翌年へ委託替ノ請求ヲ受ケタルトキハ年度組替ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十五條 縣金庫ハ委託書預込書現金交付濟ノ仕拂切符其他ノ證書書類ヲ各廳解ニ區分シ一箇月分ヲ取經メ合計書ヲ調製シ帳簿上ノ收支額ニ對查シ五箇年間之ヲ保存スヘシ

第四十六條 雜部金取扱ノ手續ハ第三十七條乃至第四十五條ノ規定ノ外第二章第三章ノ規定ヲ準用ス

第四十七條 縣金庫ニ於テ會計規則第十條第二項第一號ニ依リ現金前渡ヲ受ケタルトキハ縣金庫出納取扱人ハ明治三十三年九月訓令第六十四號愛知縣公債募集及償還方法取扱規程ニ依リ別整理ト爲スヘシ

第六章 現金運轉

第四十八條 縣金庫ニ於テ領收シタル現金ハ仕拂基金ニ充ツヘシ

第四十九條 第四十八條ノ仕拂基金ハ縣本金庫之ヲ管理スヘシ但愛知病院全醫學校及岡崎支病院ノ歲入金及雜部金ハ其之ヲ領收シタル縣金庫ニ於テ管理スルモノトス

第五十條 縣支金庫ノ仕拂基金ハ別ニ定ムル規定ニ依リ縣本金庫之レヲ配賦シ常ニ差支ヘナカラシムヘシ

第五十一條 縣支金庫ニ於テ領收シタル罹災救助基金市町村立小學校及實業補習學校教員恩給基金ニ對シ會計細則ノ定ムル所ニ依リ各廳收入命令者ヨリ本金庫へ回送ノ通知ヲ受ケタルトキハ縣本金庫

ニ宛テタル回送書ヲ調製シ收入命令者ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ現金出納簿計算科目振替ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十二條 縣金庫ニ於テ其金庫所在地外ニアル廳解ノ收入命令者ノ發シタル徵稅令書納入告知書若ハ返納告知書ニ依リ現金ヲ領收シタルトキハ其令書若ハ告知書ヲ發シタル廳解所在地ノ縣金庫ニ宛テタル現金回送書ヲ調製シ第七條第八條第三十一條第四十三條ノ通知書ト共ニ之ヲ收入命令者仕拂命令者若ハ出納吏ニ送付スヘシ

第五十三條 縣金庫ニ於テ領收シタル現金ハ第四十九條但書ニ該當スルモノ、外毎月末日之ヲ縣本金庫ニ回送スヘシ

縣本金庫ニ於テ必要アルトキハ前項ノ期日ニ拘ハラズ回送命令ヲ發シ之ヲ回送セシムヘシ

第五十四條 第九條ニ依リ領收シタル現金及第十九條第五十一條第五十二條ノ通知書若ハ回送書ニ對スル現金ノ運轉方法ハ各金庫適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第五十五條 第五十三條ニ依リ縣支金庫ヨリ現金ヲ回送スルトキハ第五十條ノ仕拂基金ヲ差繼キ其殘額ヲ回送スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其差繼金額ニ對シ仕拂基金振替報告書ヲ調製シ之ヲ縣本金庫ニ送付スヘシ

第五十六條 縣本金庫ハ毎日仕拂基金配賦表ヲ調製スヘシ

第五十七條 縣本金庫ハ毎月十日二十日末日ニ於ケル第五十六條仕拂基金配賦表ヲ其翌日縣廳ニ差出スヘシ

第五十八條 第四十八條乃至第五十七條ノ規定ノ外縣金庫相互間現金運轉配賦ニ關スル取扱順序及之ニ關スル諸帳簿ハ縣本金庫之ヲ定メ認可ヲ請フヘシ

第五十九條 縣本金庫ニ於テ明治三十四年第三百三號訓令會計細則第三十二條ニ依リ繼續費仕拂殘額ノ

現金繰越ノ令達ヲ受ケタルトキハ翌年度へ繰越ノ手續ヲ爲スヘシ
第六十條 縣本金庫ニ於テ明治三十四年第三百三號訓令會計細則第七十三條第二項ニ依リ歲計剩餘金ヲ歳入へ編入ノ令達ヲ受ケタルトキハ毎年度仕拂基金ノ殘額ヲ翌年度歳入ニ編入ノ手續ヲ爲スヘシ

第七章 帳簿

第六十一條 縣本金庫ニ於テハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

- 一 現金出納原簿
 - 二 各金庫現金出納内譯簿
 - 三 各金庫歳入金各廳内譯簿
 - 四 各金庫歳出金各廳内譯簿
 - 五 雜部金内譯簿
 - 六 各金庫収支金差引計算簿
 - 七 支出簿
 - 八 送金整理簿
- 第六十二條 出納原簿ハ本金庫支金庫ヲ通シテ左ノ計算科目ヲ設ケ本金庫ニ係ルモノハ各證憑書支金庫ニ係ルモノハ該支金庫ヨリ送付スル計算表ニ依リ其收支額ヲ登記スヘシ但特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ各會計毎ニ細則スヘシ
- 一 現金
 - 二 各地支金庫
 - 三 某年度歳入
 - 四 某年度歳出

- 五 某年度特別會計歳入
- 六 某年度特別會計歳出
- 七 雜部
- 八 回送

前各號ノ外必要ノ計算科目

- 第六十三條 各金庫現金出納内譯簿ハ現金出納原簿計算科目毎ニ本金庫及各支金庫ニ區分シ本金庫ニ係ルモノハ各證憑書支金庫ニ係ルモノハ該支金庫ヨリ送付スル計算表ニ依リ其收支ノ金額ヲ登記スヘシ
- 第六十四條 各金庫歳入金各廳内譯簿ハ本金庫及各支金庫ヲ區分シ各取振廳毎ニ細別シ本金庫ニ係ルモノハ各證憑書支金庫ニ係ルモノハ該支金庫ヨリ送付スル歳入金各廳内譯表ニ依リ其收入額ヲ登記スヘシ
- 第六十五條 各金庫歳出金各廳内譯簿ハ本金庫及各支金庫ヲ區分シ各廳内譯表ニ依リ其金額ヲ登記スヘシ
- 第六十六條 雜部金内譯簿ハ各廳出納吏毎ニ區分シ各證憑書ニ依リ其收支額ヲ登記スヘシ
- 第六十七條 各金庫收支金差引計算簿ハ本金庫及各支金庫ニ區分シ本金庫ニ係ルモノハ各證憑書支金庫ニ係ルモノハ該支金庫ヨリ送付スル計算表ニ依リ其收支額ヲ登記スヘシ
- 第六十八條 支出簿ハ各年度經常部臨時部及各特別會計毎ニ之ヲ設ケ各廳内譯簿ニ各款ヲ區分シ仕拂豫算又ハ年度開始前現金前渡ノ令達ヲ受ケタルトキ其金額ヲ登記シ置キ仕拂命令者ヨリ案内仕拂命令

集合仕拂命令若ハ送金ヲ要スル仕拂命令集合仕拂命令ヲ受領セル都度仕拂命令受領濟額ヲ登記スヘシ
 定額戻入アルトキハ返納告知書ニ依リ其金額ヲ朱書シテ仕拂命令受領濟額ヲ扣除スヘシ
 第六十九條 送金整理簿ハ送金スヘキ各支金庫ト縣外トニ區分シ各應解ノ送金仕拂命令仕拂切符ニ依リ縣外ノ債主又ハ各支金庫ニ現金ヲ送付シ若ハ第五十條ノ仕拂基金ノ現金ヲ各支金庫ニ送付シタルトキ回送額ニ登記シ置キ縣外ノ債主ヨリ規定ノ領收證書若ハ各支金庫ヨリ其回送金ニ對スル領收證書ヲ得タルトキ回着額ノ登記ヲ爲スヘシ

第七十條 縣支金庫ニ於テハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

- 一 現金出納簿
- 二 歳入金各庫内譯簿
- 三 歳出金各庫内譯簿
- 四 雜部金内譯簿
- 五 送金整理簿
- 六 支出簿

第七十一條 現金出納簿ハ左ノ計算科目ヲ設ケ各證憑書ニ依リ其收支額ヲ登記スヘシ

- 一 現金
- 二 某年度何庫歳入
- 三 某年度何庫歳出
- 四 某年度罹災救助基金歳入
- 五 某年度罹災救助基金歳出

六 某年度市町村立小學校及實業補習學校教員恩給基金

七 某年度岡崎支病院歳入

八 某年度岡崎支病院歳出

九 雜部

十 本金庫

十一 回送

前各號ノ外必要ノ計算科目但岡崎支病院ノ歳入歳出ヲ取扱ハサル支金庫ハ該計算科目ヲ設クルヲ要セス

第七十二條 第七十條第二號乃至第六號ノ帳簿ノ設備及登記ニ關スル手續ハ第六十四條乃至第六十六條第六十八條第六十九條ノ例ニ依ルヘシ

第七十三條 出納ノ細別ヲ要スルモノハ第六十一條第七十條ノ外便宜補助簿ヲ設ケ整理スヘシ

第七十四條 縣本金庫ニ於テ支金庫ニ係ル收支ノ記帳ヲ爲スハ諸計算報告ノ本金庫ニ到着シタル日ニ於テ之ヲ登記シ該支金庫ニ於テ實際收支シタル日ヲ附記スヘシ

第八章 計算報告

第七十五條 縣本金庫ニ於テハ第六十一條ノ諸帳簿ニ依リ左ノ計算表ヲ調製スヘシ

- 一 現金出納日計表
- 二 歳入金月計表
- 三 歳出金月計表
- 四 雜部金月計表
- 五 各金庫收支金計算表

- 六 現金出納原簿計算表
- 七 任拂命令受領濟額報告表
- 第七十六條 現金出納日計表ハ各金庫現金内譯簿ニ依リ本金庫ニ於テ直接ニ出納シタル金額ヲ掲ケ毎日之ヲ調製シ翌日午前十時マテニ之ヲ縣廳ニ差出スヘシ
- 第七十七條 歳入金月計表ハ甲乙二葉トシ各金庫歳入金各廳内譯簿毎月末日ノ結果ニ依リ調製シ本金庫ニ於テ領收セシ金額ヲ掲ケ翌月二日マテニ之ヲ各廳解ニ差出スヘシ
- 第七十八條 歳出金月計表ハ甲乙二葉トシ支出簿及各金庫歳出金各廳内譯簿毎月末日ノ結果ニ依リ調製シ本金庫ニ於テ直接ニ取扱ヒタル金額ヲ掲ケ翌月二日マテニ之ヲ各廳解ニ差出スヘシ
- 第七十九條 雜部金月計表ハ雜部金内譯簿毎月末日ノ結果ニ依リ調製シ本金庫ニ於テ直接ニ收支セシ金額ヲ掲ケ翌月二日マテニ之ヲ各廳解ニ差出スヘシ
- 第八十條 第七十七條乃至第七十九條ノ月計表乙號ハ當該收支命令者若ハ出納吏ノ證明ヲ受ケ還付ヲ請フヘシ
- 第八十一條 各金庫收支金計算表ハ各金庫收支金差引計算簿ニ依リ毎日之ヲ調製シ翌日午前十時マテニ縣廳ニ差出スヘシ
- 第八十二條 現金出納原簿計算表ハ現金出納原簿ニ依リ毎日之ヲ調製シ翌日午前十時マテニ縣廳ニ差出スヘシ
- 第八十三條 仕拂命令受領濟額報告表ハ支出簿及各支金庫ヨリ送付スル仕拂命令受領濟額報告表ニ依リ本金庫及支金庫ニ於テ受領セシ金額ヲ掲ケ毎月之ヲ調製シ翌月十日マテニ縣廳ニ差出スヘシ
- 第八十四條 縣支金庫ニ於テハ第七十條ノ帳簿ニ依リ左ノ計算表ヲ調製スヘシ
- 一 現金出納日計表
- 二 歳入金月計表
- 三 歳出金月計表
- 四 雜部金月計表
- 五 歳入金各廳内譯表
- 六 歳出金各廳内譯表
- 七 雜部金收支内譯表
- 八 仕拂命令受領濟額報告表
- 第八十五條 現金出納日計表ハ現金出納簿ニ依リ毎日之ヲ調製シ翌日午前中ニ發送シテ縣廳ニ差出スヘシ
- 第八十六條 歳入金月計表歳出金月計表雜部金月計表ハ甲乙二葉トシ歳入金各廳内譯簿歳出金各廳内譯簿雜部金内譯簿毎月末日ノ結果ニ依リ調製シ翌月二日マテニ之ヲ各廳ニ差出シ其乙號表ハ當該收支命令者若ハ出納吏ノ證明ヲ受ケ還付ヲ請ヒ翌月五日マテニ本金庫ニ差出スヘシ
- 第八十七條 歳入金各廳内譯表歳出金各廳内譯表雜部金收支内譯表ハ歳入各廳内譯簿歳出各廳内譯簿雜部金内譯簿ニ依リ毎日之ヲ調製シ翌日午前中ニ發送シ本金庫ニ差出スヘシ
- 第八十八條 仕拂命令受領濟額報告表ハ支出簿毎月末日ノ結果ニ依リ調製シ翌月五日マテニ本金庫ニ差出スヘシ
- 第八十九條 會計規則第六十九條ノ出納計算書ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ調製シ翌年度八月十日限り差出スヘシ
- 一 歳入金計算書
- 二 歳出金計算書

- 三 各特別會計歳入金計算書
- 四 各特別會計歳出金計算書
- 五 仕拂命令受領濟額總報告表
- 六 雜部金計算書

第九十條 本則ニ掲ケル帳簿及計算書其他ノ諸様式ハ別ニ之ヲ定ム

第九十一條 本規程ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス但三十三年度ニ屬スル出納ハ其完結マテハ從前ノ規定ニ依リ取扱フヘシ

第一百十五號 (訓令)

明治三十四年四月一日

監獄署
全支署

看守女監取締押丁給與品支給細則并ニ監獄傭人給與品規程別冊之通相定ム
本令ハ當四月一日ヨリ施行ス

(別冊)

看守女監取締押丁給與品支給細則

第一條 看守女監取締押丁ノ給與品供用期限ハ各其支給ノ月ヨリ之ヲ起算ス

第二條 新ニ就職セシ者ニ前職者還納セシ給與品ヲ支給シタルトキハ其給與品ハ供用期限ノ滿了ニ於テ後繼者ニ給與ス

第三條 給與品中靴、襪、袴下、下襟、手套、靴下ハ代料ヲ以テ支給ス其金額ハ毎年度ノ豫算ニ基キ之ヲ定ムヘシ

第四條 代料ハ左ノ定日ニ於テ支給シ休日ニ當ルトキハ前日ニ支給スヘシ新ニ就職シタルモノニハ就職ノ際支給ス

長靴	四月一日	(二組分)
短靴	四月一日	(二組分)
冬襪及袴下	四月一日	(二組分)
夏襪及袴下	六月一日	(二組分)
下襟	(四、六、八)月一日	(二個分)
手套	(四、十二)月一日	(二個分)
靴下	(四)月一日	(二個分)
靴	毎月一日	(二個分)

第五條 新ニ就職シタル者ニ支給スル代料ハ月割ヲ以テ計算シ其一ヶ月ニ滿タサルモノハ日割ヲ以テ計算スヘシ解職休職死亡等ノ際返納セシムルトキモ亦同シ

第六條 代料金ヲ支給シ又ハ返納セシムルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス

日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

第七條 給與品ヲ交付スルトキハ様式ノ人別表ニ其供用期限ノ起算及滿期ヲ記載シ返納セシトキハ返納ノ年月日ヲ記載シ置クヘシ

給與品人別表

馬丁ニ給與スヘキ品目

法被	木綿紺	丈ヶ膝切廣袖脊ニ監ノ縫字一個ヲ付ス
股引	木綿紺	
帽	紺絨	取者ノ制ニ依ル
外套雨覆付	紺絨	押丁ノ制ニ依ル
足袋	木綿紺	
法被	使丁ニ給與スヘキ品目	
股引	木綿紺	馬丁ノ制ニ依ル
冬服	小倉紺	取者ノ制ニ依ル
夏服	小倉白	
短帽	紺絨	全上
冬襦袢袴下		

第二條 給與品ハ規品ヲ以テ支給シ其供用期限ハ左ノ如ク之ヲ定ム

冬服	一組	一年
夏服	二組	四年
外套雨覆付	一個	二年
肩掛	一個	二年
冬襦袢袴下	二組	八年

夏袴袴下	二組	四年
帽	一個	一年
冬法被(袷)	一個	八月
夏法被(單衣)	一個	四月
冬股引(袷)	一個	八月
夏股引(單衣)	一個	四月
靴下	一個	一月
足袋	一個	一月
半長靴	一個	一月
短靴	一個	一年

第三條 襦袢及袴下靴下足袋靴ニ限リ代料ヲ渡スコトヲ得

第四條 解職死亡等ノ際ハ供用期限内ニ在ル給與品ヲ速ニ還納セシムヘシ代料ヲ以テ給與シタルモノハ供用殘期ニ相當スル金額ヲ返納セシムルモノトス

第五條 供用期限内ノ給與品ヲ毀損紛失シタルトキハ其代品ヲ給與ス

第六條 給與品ノ修補ハ總テ自辨トス

第七條 前數條ノ外ハ總テ看守女監取締押丁給與品支給細則ニ準據處理スヘシ

訓令第二十五號 明治三十四年四月十五日

本年三訓令第十八號本縣金庫事務規程附屬諸様式左ノ通相定ム

金庫事務規程附屬諸樣式目錄

- 第一號樣式 為換納領收證書
- 第二號樣式 回送書領收證書
- 第三號樣式甲 送金通知書(縣內)
- 第三號樣式乙 送金通知內譯表
- 第三號樣式丙 送金通知書(縣外)
- 第四號樣式 國庫納金引去高振替報告書
- 第五號樣式 現金仕拂未濟證明書
- 第六號樣式甲 現金未拂報告
- 第六號樣式乙 全
- 第七號樣式 歲出仕拂未濟金整理簿
- 第八號樣式 出納閉鎖后仕拂報告
- 第九號樣式 預金證書
- 第十號樣式 回送書
- 第十一號樣式甲 現金回送書
- 第十一號樣式乙 收入金回送命令書
- 第十三號樣式 仕拂基金振替報告
- 第十四號樣式 現金出納原簿
- 第十五號樣式 各金庫現金出納內譯簿
- 第九條
- 第十二條第二項
- 第十九條第一項及第三項
- 全
- 第十九條第一項
- 第二十條第二項
- 第二十四條第一項
- 第二十四條第二項
- 第二十四條第三項
- 第二十四條第四項
- 第二十五條第一、二、三、項
- 第二十九條第一項
- 第三十八條
- 第五十一條第一項
- 第五十二條
- 第五十三條第二項
- 第五十五條第二項
- 第六十一條第一
- 第六十一條第二

第十六號樣式

各金庫歲入金各廳內譯簿

第六十一條第三

第十七號樣式

(歲入金各廳內譯簿)

第六十一條第四

第十八號樣式

各金庫歲出金各廳內譯簿

第六十一條第五

第十九號樣式

(歲出金各廳內譯簿)

第六十一條第六

第二十號樣式

各金庫收支金差引計算簿

第六十一條第七

第二十一號樣式

支出簿

第六十一條第八

第二十二號樣式

送金整理簿

第七十條第一

第二十三號樣式

現金出納簿

第七十五條第一

第二十四號樣式

現金出納日計表

第七十五條第二

第二十五號樣式

歲入金月計表

第七十五條第三

第二十六號樣式

歲出金月計表

第七十五條第四

第二十七號樣式

雜部金月計表

第七十五條第五

第二十八號樣式

各金庫收支金計算表

第七十五條第六

第二十九號樣式甲

現金出納原簿計算表

第七十五條第七

第二十九號樣式乙

仕拂命令受領濟額報告表

第八十四條第八

第三十號樣式

全

第八十四條第九

第三十一號樣式

歲入金各廳內譯表

第八十四條第十

第三十二號樣式

歲出金各廳內譯表

第八十四條第十一

雜部金收支內譯表

全

第八十四條第十二

第三十三號樣式

歲入金計算書

第八十九條第一第三

第三十四號樣式

(各特別會計歲入金計算書)
歲出金計算書

第八十九條第二第四

第三十五號樣式

(各特別會計歲出金計算書)
仕拂命令受領濟額總報告表

第八十九條第五

第三十六號樣式

雜部金計算書

第八十九條第六

(樣式略ス)

第三百三十六號 (訓令)

明治三十四年四月二十二日

內務部

類聚中四六
七頁至七

本縣蠶種検査員旅費支給方法左ノ通定ム但シ明治三十一年五月二十八日第七十八號訓令ハ廢止ス

蠶種検査員旅費支給方法

- 第一條 蠶種検査員受持検査區域内ヲ旅行スルトキハ手當トシテ月額金拾八圓ヲ支給ス但旅行日數一ケ月ニ滿タサルトキハ出張ノ日數ニ應シ日額六拾錢ヲ給ス
- 受持検査區域外ヲ蠶種検査所又ハ其出張所々在ノ市町村内ニ限ル場合ニハ第一項ノ手當ヲ支給セズ
- 第二條 左ノ各號ニ該當スルモノハ別表定ムル所ニ從ヒ順路ニ依リ旅費ヲ支給ス但第四號ノ場合ニ於ケル路程ノ計算ハ出發前最終ニ検査ヲ爲シタル町村ヨリ起算シ到着後最初ニ検査ヲ爲シタル町村迄ノ路程ニ依ル
- 一 新ニ検査員ニ任用スル爲メ召喚スルトキ又ハ検査員ヲ解免シタル爲メ歸郷スルトキ
- 二 第一條ノ手當ヲ受ケサル検査員轉所ヲ命セラレ舊任地ヨリ新任地ニ至ルトキ

三 第一條ノ手當ヲ受ケサル検査員臨時ニ命ヲ承ケ其検査所若クハ其出張所所在ノ市町村外ニ出張スルトキ

四 第一條ノ手當ヲ受クヘキ検査員ニシテ縣廳ト受持検査區トノ往復及臨時ニ命ヲ受ケ受持検査區域外ニ出張ノトキ又ハ轉所ヲ命セラレ若ハ受持區ノ變更ニ依リ舊任地若ハ舊受持區ヨリ新任地若ハ新受持區ニ至ルトキ

第一項第四號ノ場合ニ於テハ其期間第一條ノ手當ヲ支給セズ

第三條 旅費ノ支給方法ハ本則ニ定ムルモノノ外明治三十二年本縣訓令第六號ノ規定ニ依ル別表

職名	支給別	日當	車馬賃	瀧車賃
蠶種検査員	金	七拾錢	金拾錢	金貳錢
備考	海路旅行ハ總テ陸路里程ニ換算シ之ヲ支給ス			

訓令第二一號

明治三十四年四月二十七日

內務部
警察所
郡市役所
警察署
警察分署
縣立學校

縣立病院
 驅事試驗場
 農事試驗場
 水産試驗場
 博物物館
 測候所
 農事講習所
 縣金庫

明治三十四年三月訓令第十七號愛知縣會計細則及全年全月第一〇三號訓令愛知縣本廳會計細則ニ關スル諸計算書類並諸帳簿用式左之通定ム

凡例

- 一 諸計算書類報告書要求書様式特ニ用紙ノ種類ヲ示サ、ルモノハ半紙判算紙ヲ用ユルモノトス
- 一 諸計算書類報告書要求書ハ紙首ニ三行ノ空野ヲ存置シ四行目ヨリ記載スヘシ但發送番號ノ掲記ヲ要スルモノハ欄外適宜ノ個所ニ付記スルモノトス
- 一 帳簿様式中洋式ニ係ルモノハ縦線ハ總テ朱線ヲ用ユヘシ
- 一 諸様式中△印ヲ付シタルモノ及減額ニ係ルモノハ總テ朱字ヲ以テ掲載スヘシ
- 一 諸様式中圓位ノ横線ハ朱線ヲ用ユヘシ
- 一 諸帳簿ハ毎月末日ニ於テ月計及累計ヲ掲クヘシ
- 一 諸様式中課長官氏名トアルハ縣廳內務部、警察部ニ於ケル各主務ノ課長ヲ云フ

様式目次

第一號	豫算明細書	本廳會計細則	第十三條
第二號	豫算差引簿	全	第十八條
第三號	仕拂豫算書	全	第十九條
第四號	仕拂月額(變更)報告書	會計細則	第八條
第五號	仕拂豫算増額請求計算書	全	第十條
第六號	豫算流用報告書	本廳會計細則	第二十一條
第七號	豫算流用報告書	會計細則	第十二條
第八號	豫備費原簿	本廳會計細則	第二十二條
第九號	豫備費支出要求書	全	第二十三條
第十號	繰越計算書	會計細則	第十四條
第十一號	仕拂豫算書	本廳會計細則	第二十六條
第十二號	仕拂月額豫算書	全	第二十六條
第十三號	繼續費殘額繰越計算書	會計細則	第三十一條
第十四號	全上支拂殘額翌年度繰越令違書	本廳會計細則	第三十二條
第十五號	收入濟額報告書	會計細則	第三十二條
第十六號	國庫納金仕譯書	全	第十九條
第十七號	支出調書	全	第二十四條
第十八號	仕拂命令發行簿	本廳會計細則	第二十三條
第十九號	金額氏名表	會計細則	第三十八條
第二十號	現金仕拂未濟報告書	會計細則	第四十六條
		會計細則	第二十八條
		會計細則	第十一條
		會計細則	第二十九條

第二十一號	年度開始前現金前渡仕拂計算書	本應會計細則	第五十六條
第二十二號	返納額元帳	本應會計細則	第五十七條
第二十三號	過年度支出要求書	本應會計細則	第五十八條
第二十四號	欠損補填要求書	本應會計細則	第五十九條
第二十五號	現金仕拂未濟額整理簿	本應會計細則	第六十條
第二十六號	物品購買修繕決裁簿	本應會計細則	第六十一條
第二十七號	豫定價格書	本應會計細則	第六十二條
第二十八號	落札決定通知書	本應會計細則	第六十三條
第二十九號	入札ニ付シタルモ入札人ナキ場合ノ證明書	本應會計細則	第六十四條
第三十號	入札人一名ナルトキノ證明書	本應會計細則	第六十五條
第三十一號	會計規則第四十四條第二項ニ依リ落札ヲ決定シタルトキノ證明書	會計規則	第九十二條
第三十二號	會計規則第四十五條ニ依リ落札ヲ決定シタルトキノ證明書	會計規則	第九十三條
第三十三號	隨意契約理由ノ説明書	會計規則	第九十四條
第三十四號	指名競争ニ付シタル理由ノ説明書	會計規則	第九十五條
第三十五號	契約ノ規格ニ不合ノ物品若クハ契約解除ノ場合ニ相當價格ヲ定メテ買取シタルトキノ理由ノ説明書	會計規則	第九十六條
第三十六號	現金委託書	會計規則	第九十七條
第三十七號	納付書	會計規則	第九十八條
第三十八號	領収證書	會計規則	第九十九條
第三十九號	收入報告書	會計規則	第一百條
第四十號	支出報告書	會計規則	第一百零一條

第四十一號	收入報告書	會計規則	第一百零二條
第四十二號	收入濟額住譯書	會計規則	第一百零三條
第四十三號	支出報告書	會計規則	第一百零四條
第四十四號	更正報告書	會計規則	第一百零五條
第四十五號	歳入金出納計算書	會計規則	第一百零六條
第四十六號	現金前渡出納計算書	會計規則	第一百零七條
第四十七號	歳入歳出外現金出納計算書	會計規則	第一百零八條
第四十八號	證券出納計算書	會計規則	第一百零九條
第四十九號	歳出現計書	會計規則	第一百一十條
第五十號	歳入現計書	會計規則	第一百一十一條
第五十一號	歳出現計書	會計規則	第一百一十二條
第五十二號	審理書	會計規則	第一百一十三條
第五十三號	出納原簿	會計規則	第一百一十四條
第五十四號	歳入簿	會計規則	第一百一十五條
第五十五號	歳入各庫内譯簿	會計規則	第一百一十六條
第五十六號	支出簿	會計規則	第一百一十七條
第五十七號	歳出各庫内譯簿	會計規則	第一百一十八條
第五十八號	各種基金内譯簿	會計規則	第一百一十九條
第五十九號	罹災救助基金内譯簿	會計規則	第一百二十條
第六十號	現金所在口別簿	會計規則	第一百二十一條

知立署	金拾圓以內
大濱分署	金八圓以內
西尾分署	金拾圓以內
一色分署	金七圓以內
岡崎署	金拾五圓以內
舉母署	金拾圓以內
足助署	金拾圓以內
田口署	金拾圓以內
新城署	金拾貳圓以內
御油署	金拾貳圓以內
豐橋署	金貳拾圓以內
田原分署	金八圓以內
富岡署	金拾圓以內

第百八十三號 (訓令)

明治三十四年六月二十七日

縣本務庫部

歳入ノ現金ヲ預金局又ハ銀行ニ預ケ入レ若ハ引出ニ關スル取扱手續左之通定ム

第一條 歳入ノ現金ヲ預金局又ハ銀行ニ預ケ入ヲ爲サントスルトキハ普通歳出金仕拂ノ手續ニ依リ縣金庫ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ

第二條 預金局又ハ銀行ニ預ケ入タル預金ノ引出ヲ爲シタルトキハ出納吏ニ於テ縣稅外諸收入徵收本

規則第九條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ拂込書ニハ特ニ預金ノ文字ヲ明記スヘシ

第三條 縣金庫ニ於テ第一條ノ仕拂命令若ハ第二條ノ現金拂込ヲ受ケタトキハ現金出納原簿及各金庫出納内譯簿ニ特ニ預金ノ口坐ヲ設ケ整理スヘシ

◎郡市町村ノ財務

訓令第六十五號

明治三十二年十月十八日

郡市役所
町村役場

明治二十六年訓令第二十八號ノ別紙左ノ通改正ス

一 市町村歳入一覽表 第一號表式ニ準ス

一 市町村歳出一覽表 第二號表式ニ準ス

但豫算二種以上ニ涉ルモノハ格別ニ調製スヘシ

一 地租制限外其ノ他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅又ハ特別稅若ハ間接國稅附加稅ノ賦課ニ關スル市町村會議決書及其ノ理由書地租制限外課稅ニ關スル議決書ハ第三號書式ニ準ス

但地租以外直接國稅制限外課稅及間接國稅附加稅賦課ニ關スル議決書ハ地租制限外課稅ニ關スル議決書々式ノ例ニ依ルヘシ又特別稅ニ關スル議決書ニハ其ノ議決ヲ爲シタル會議名、稅目、課稅物件、課率、賦課年度及其ノ費途等ヲ示スヘシ若其ノ費途ニシテ經常臨時ノ兩費アルトキハ右課率及賦課年度ハ之ヲ區分スヘシ又右特別稅ニシテ増額又ハ變更ニ係ルモノナルトキハ其ノ旨ヲモ示スヘシ

凡例

- 一 豫算ノ議決ニ回以上ニ涉リタルトキハ今回議決ニ係ル分ヲ墨書シ從前議決ニ係ル分ヲ朱書スヘシ
- 一 其他ノ收入ノ欄ニハ課税外一切ノ收入即チ雜收入使用料手數料國庫及縣稅交付金財產ヨリ生スル收入ノ類ヲ合計シテ記入スヘシ
- 一 特別稅中市制第二百二十二條町村制第二百二十六條ニ依リ許可ヲ要セスシテ從前ノ儲存置シタルモノハ特別稅ノ欄特別稅目ノ肩ニ存置ノ二字ヲ朱記スヘシ
- 一 地價割ノ附記ハ第一回議決ノトキハ甲號書式ニ依リ第二回以後議決ノトキハ乙號書式ニ依ルヘシ其ノ一例ヲ掲クレハ左ノ如シ但シ從前ノ議決ニ回以上ニ涉リタル場合ニ於テ前後地租額ヲ異ニスルトキハ乙號書式中從前議決ノ分ハ各別ニ列記スヘシ
- 一 甲號書式ハ例セハ三十三年度ニ於テ經常費課率金五拾錢臨時費課率金貳拾錢ヲ要スルモノ內經常費課率四拾錢ハ前年度ニ於テ五々年度ヲ通シテ許可ヲ受ケタルモノナルトキハ記載方左ノ通
- 地 租 地價百分ノ 金若干
地價百分ノ 金若干
- 經常費課率 金五拾錢
- 內許可濟課率 金四拾錢
- 臨時費課率 金貳拾錢
- 乙號書式ハ例セハ第一回ニ經常費課率金參拾錢臨時費課率金拾錢ヲ要シ之レカ許可ヲ受ケタルモノ臨時追加ヲ要シ第二回ニ經常費課率金拾錢臨時費課率金拾五錢賦課ノ義許可稟請中尙ホ追加ノ必要ヲ生ジ今回 第三 經常費課率金五錢臨時費課率金參拾錢追加賦課ノ義ヲ議決シタルモノナルトキハ其ノ記載方左ノ通
- 今回議決ノ分

地 租 地價百分ノ 金若干

經常費課率 金五錢

臨時費課率 金參拾錢

從前議決ノ分

經常費課率 金四拾錢

內

許可濟課率 金參拾錢

稟請中課率 金拾錢

臨時費課率 金貳拾五錢

內

許可濟課率 金拾錢

稟請中課率 金拾五錢

- 一 地租以外ノ直接國稅又ハ間接國稅ノ附加稅ノ附記ハ地價割ノ例ニ依ルヘシ
- 一 反別割ノ附記ハ賦課ノ地目毎ニ反別、地租 地價百分ノ 金、及地租壹圓當リヲ掲記スヘシ
- 一 市町村內ノ各部賦課ノ稅率ヲ異ニシ又ハ各費目ニ付負擔ノ區域ヲ異ニスルトキハ歲入一覽表ハ第二例ニ依リ各費目ニ付負擔ノ同シキ區域毎ニ調製スヘシ
- 一 市制第二百二十二條第七號第八號及町村制第二百二十七條第七號第八號ニ該當スル賦課アルトキハ其ノ賦課ニ關シ縣參事會若ハ郡參事會ノ許可ヲ受ケタル旨及其ノ許可ノ年月日ヲ本表備考ニ記載スヘシ(三四訓ニ四追加)

一 經常費ニ充用スル地價割課率地租地價百分ノ金壹圓ニ付金若干(金若干以内)
 但明治何年度分(自明治何年度至明治何年度)
 一 臨時費ニ充用スル地價割課率地租地價百分ノ金壹圓ニ付金若干(金若干以内)
 但明治何年度分(自明治何年度至明治何年度)

凡例

一 課率ハ厘位以下三位ニ止ラサルトキハ四捨五入ノ法ヲ以テ三位ニ止ムヘシ又法定制限内外、許可
 濟、今回稟請等ノ區分ハ之ヲ要セサルモノトス

第十三號 (訓令)

明治三十三年一月二十六日

名古屋市役所

行旅病人及行旅死亡人取扱法第十五條第一項ノ繰替拂及其戻入取扱手續ハ市費出納ノ例ニ依ルヘシ
 前項繰替拂ノ出納ハ市費現金出納簿ニ登記スルノ外繰替拂整理簿ヲ設ケ之ニ記帳シ収支ヲ明晰ニスヘ
 シ

縣令第三十一號

明治三十三年三月二十九日

明治三十三年內務省令第七號第二十六條ニ依リ郡ノ財務ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 財産ヨリ生スル収入其ノ他一切ノ収入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編
 入スヘシ

第二條 各年度ニ於テ決定シタル歲入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歲出ニ充ツルコトヲ得ス

第三條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ編入スヘシ

第四條 歲入ノ誤納過納トナリタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタ歲入ヨリ仕拂フヘシ

歲出ノ誤拂過渡トナリタル金額前金拂概算繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ス
 ヘシ

第五條 出納閉鎖後ノ収入支出ハ之ヲ現年度ノ歲入歲出ト爲スヘシ

第六條 ノ拂戻金戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第七條 繼續費ハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ繼續年度ノ終リマテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第八條 毎年度歲入歲出金ヲ出納スルハ翌年度七月三十一日限リトス

第九條 郡ノ出納ニ關スル事務ハ年度經過後五ヶ月以内ニ完整スヘシ

第十條 歲入歲出豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部ヲ更ニ款項ニ區分スヘシ

第十一條 歲入歲出豫算ヲ提出スルトキハ豫算説明ヲ付スヘシ

第十二條 特別會計ニ屬スル歲入歲出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第十三條 豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 郡ノ収入支出ノ命令ハ郡長ニ於テ之ヲ發ス

第十五條 左ノ經費ハ概算拂ナ爲スコトヲ得

一 郡吏員其ノ他出張旅費

第十六條 經費ハ法律命令ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外前金拂ト爲スコトヲ得ス

第十七條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ郡參事會ノ議決ヲ
 經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第十八條 決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ付スヘシ

第十八條 會計年度經過後ニ至リ歳入ニ不足ヲ生シ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第十九條 郡長ハ定期及臨時ニ郡出納吏ノ帳簿並郡金庫ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ヲ検査スヘシ郡出納吏解職セラレタルトキハ郡長ハ郡出納吏ノ帳簿ヲ検査スヘシ

第二十條 郡ニ屬スル現金ノ出納及保管ノ爲郡金庫ヲ郡役所所在地ニ置ク

第二十一條 金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ郡長之ヲ定ム

第二十二條 金庫事務取扱ヲ爲ス者ハ現金出納保管ニ付責任ヲ有ス

第二十三條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ擔保ヲ提出スヘシ其擔保ニ關シテハ知事ノ認可ヲ經郡長之ヲ定ム

第二十四條 郡長ハ縣金庫ヲ監督シ必要ト認ムルトキハ臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 本令ハ明治三十三年度所屬ノ收支ヨリ之ヲ適用ス

訓令第十九號

明治三十三年三月二十九日

郡 役 所
町 村 役 場

行旅病人救護費及行旅死亡人取扱費繰換拂整理手續左ノ通定ム

第一條 行旅病人救護費及行旅死亡人取扱費繰換拂整理手續

前項ノ命令ヲ爲スニハ町村長ニ於テ債主ノ請求書其ノ他ノ證憑書類ニ依リ繰換拂命令簿ニ支拂金額

債主ノ住居氏名及命令ノ月日等ヲ記載シ之ヲ取人役ニ交付スルモノトス

第二條 収入役ニ於テ前條ノ命令ヲ受ケタルトキハ債主ノ領收證ヲ徴シ町村費ヲ以テ繰換支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ領收證ニハ収入役ニ於テ命令番號ヲ朱書シ順次之ヲ編綴スヘシ但シ明治三十二年訓令第八十

二號行旅病人及行旅死亡人取扱手續第二條及第三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 行旅病人及行旅死亡人取扱法第十五條第一項ノ費用辨償金ノ徴収ヲ要スルトキハ町村長ハ納額告知書ヲ製シ費用ノ計算書ト共ニ之ヲ納人ニ交付スルト同時ニ収入役ニ其ノ収入方ヲ命令スヘシ

前項ノ命令ヲ爲スニハ町村長ニ於テ證憑書類ニ依リ收納簿ニ徴収金額納人ノ住居氏名辨償ノ事由及命令ノ月日ヲ記載シ之ヲ収入役ニ交付スルモノトス

前二項ノ規定ハ行旅病人及行旅死亡人取扱法第十三條ノ物品賣却代ノ徴収ニモ亦之ヲ準用ス

第四條 町村長ニ於テ廳府縣ヨリ費用辨償金ノ交付ヲ受ケ又ハ滯納處分ニ依リ差押財產ノ賣得金ヲ領收シ若ハ通貨ヲ差押ヘタルトキハ直ニ其顛末並金額ヲ收納簿ニ記載シ收納簿ト共ニ現金ヲ收入役ニ交付スヘシ

第五條 収入役ニ於テ第三條ニ依リ徴収金及前條ノ現金ヲ領收シタルトキハ直ニ之ヲ町村費ニ戻入スヘシ

第六條 収入役ニ於テ第二條ノ繰換拂ヲ爲シタルトキ及第五條ノ戻入ヲ爲シタルトキハ直ニ之ヲ町村費出納日計簿及繰換拂整理簿ニ記載シ町村長ノ檢閲ヲ受クヘシ第七條ノ場合ニ於テモ亦同シ

第七條 繰換拂ヲ爲シタル町村費ニシテ其ノ決算ヲ爲スマテ戻入シ難キモノアルトキハ翌年度ノ町村費ヲ以テ繰替之レカ戻入ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 此ノ規定ニ定ムルモノヲ除ク外明治二十八年訓令第二十三號町村費出納整理順序ノ規定ヲ準

用ス
第九條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
(繰換拂命令簿式)

命 令 番 號	繰換拂命 令者ノ檢印	支拂金額	事 由	債 主
一	何月何日 ①	五〇〇〇	行旅病人(死亡)何某救護 (取扱費何々何程代)	何郡市何町村 氏 名
命 令 番 號	月 日	繰 換 支 出 額	繰 換 戻 入 額	未 精 算 額
①	何月何日	五〇〇	〇	〇
支	何月何日	五〇〇	〇	〇
收	何月何日	〇	五〇〇	〇

(繰換拂整理簿式)

町村長
檢印
印

全上印

(收納簿式)

月 日	摘 要	徴 收 額	收 入 済 額	收 入 未 済 額	事 故
何月何日	行旅病人(死亡)何某救護 (取扱費用ノ辨償(何々何 程費却代)收入ヲ命ス 納期何月何日限 收入命令 告知書等 告ノ檢印	第一號 五〇〇〇	① 五〇〇〇	〇	〇
何月何日	領	收	① 五〇〇〇	〇	〇

費用辨償金 (物品賣却代)

納人 何郡市何町村 氏名

滯納處分ニ依リ徴收
シタトキハ其ノ額未
チ本欄ニ記載スルモ
ノトス

(町村費出納日計簿記入例)

月日	摘要	収入額	支拂額	差引現金額	印査
何月何日	町村長檢 行旅病人(死亡人)何某救護(取 送)費繰換拂		五〇〇〇		
何月何日	○計				
何月何日	○計	五〇〇〇			
何月何日	○通				
	行旅病人(死亡人)何某救護(取 送)費繰換拂ノ分戻入				
	○計				
	○通				
	計				
	計	五〇〇〇	五〇〇〇		

頁集下一八

縣令第二十一號 明治三十四年三月三十日
 市町村立小學校教員俸給旅費及諸給與並其ノ支給規則左ノ通定ム
 市町村立小學校教員俸給旅費及諸給與並其ノ支給規則
 第一章 俸 給
 第一條 市町村立小學校教員ニ支給スル月俸額左ノ如シ

職 名	職 名		一 級	二 級	三 級	四 級	五 級	六 級	七 級	八 級	九 級	十 級
	本科正教員	專科正教員										
上俸	七拾五圓	六拾圓										
下俸	六拾五圓	五拾五圓										
上俸	四拾圓	參拾圓										
下俸	四拾五圓	參拾五圓										
上俸	四拾圓	參拾圓										
下俸	四拾五圓	參拾五圓										
上俸	拾六圓	拾參圓										
下俸	拾八圓	拾圓										
上俸	拾壹圓	九圓										
下俸	拾貳圓	拾圓										

准 教 員	下俸	參拾五圓	貳拾七圓	貳拾貳圓	拾八圓	拾四圓	拾貳圓	拾圓	八圓
	上俸	貳拾圓	拾六圓	拾參圓	拾壹圓	九圓	七圓		
代 用 教 員	下俸	拾八圓	拾四圓	拾貳圓	拾圓	八圓	六圓		
	尋常	小學校	四圓以上	拾參圓以下					
	高等	小學校	五圓以上	拾五圓以下					

專科正教員及准教員ノ俸給額ハ郡市長ニ於テ町村長、市參事會ノ意見ヲ聞キ知事ニ上申スヘシ
 代用教員ノ俸給額ハ郡市長ニ於テ町村長、市參事會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ
 小學校令施行規則第三十五條第二項及第二百十三條第一項ニ依リ置クヘキ准教員並該准教員ニ代ハ
 ルヘキ代用教員ニ關シテハ前二項ノ限ニアラス

第二條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ク五箇年ヲ踰エ特ニ功勞アル者ニハ漸次百圓マテ増俸スルコ
 トアルヘシ
 第三條 專科正教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級俸相當ノ俸給額ヲ減スルコトアルヘシ
 第四條 專科正教員ニシテ他ノ小學校ノ專科正教員ヲ兼スル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分
 割シテ支出スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市參事會、町村長ニ於テ其ノ額ヲ定メ監督官廳ニ上申ス
 ヘシ
 第五條 教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ハラズ在職最終ノ月俸額正准教員ニ在リテ
 ハ三箇月分代用教員ニアリテハ二箇月分ヲ其ノ遺族ニ支給ス但シ遺族トハ市町村立小學校教員退隱
 料及遺族扶助料法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ

第六條 正教員任用若ハ増俸ノ場合ニ於テ其ノ額明治三十年勅令第二號第三條ノ義務額ニ超過スルト
 キ又ハ本則第十七條但書ニ依リ休職者ニ俸給ヲ支給セントスルトキハ郡市長ニ於テ市、町村、町村
 學校組合又ハ區ノ同意ヲ得テ知事ニ上申スヘシ
 第七條 教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトナシ
 第八條 俸給支給日ハ毎月二十一日トス但シ休日ニ當ルトキハ繰下トス
 第九條 轉任シタル者ノ俸給ハ前條支給日ニ拘ラス其ノ際ニテ支給ス
 第十條 新任又ハ復職ノ者ノ俸給及増俸減俸ハ總テ發令ノ翌日ヨリ日割ヲ以テ之ヲ支給ス
 第十一條 休職退職又ハ死亡ノトキハ當月分ノ俸給金額ヲ其ノ際支給ス但シ代用教員ニシテ退職セシ
 トキハ其ノ發令當日ヲ限リ支給ス
 第十二條 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失効ニ依リ教員ノ職ヲ失ヒタル者ノ俸
 給ハ其ノ當日ヲ限リ日割ヲ以テ之ヲ支給ス
 第十三條 休職退職ノ者特ニ命ヲ受ク事務引繼殘務整理等ニ從事シ翌月ニ涉リタルトキハ其ノ間仍ホ
 從前ノ俸給ヲ支給スヘシ但シ代用教員ニハ適用セス
 第十四條 轉任者ノ俸給ハ其ノ發令當日迄ノ分ハ甲校ニ於テ翌日以降ノ分ハ乙校ニ於テ支給スヘシ
 第十五條 病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユルトキハ正准教員ニアリテハ其ノ以後日割ヲ以テ俸
 給ノ半額ヲ減シ代用教員ニ在リテハ一切支給セス
 私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユルトキハ正准教員ニ在リテハ其ノ以後日割ヲ以テ俸
 給ノ半額ヲ減シ代用教員ニ在リテハ一切支給セス
 職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ前二項ノ限ニアラス
 第十六條 學校ノ休業及前條第三項ノ事故ハ病氣若ハ私事ノ故障ト連續スルモ減俸トナルヘキ關勤日

數中ニ算入セズ又病氣ト私事ノ故障ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セズ
 第十七條 休職ヲ命シタルトキハ其ノ翌月ヨリ俸給ヲ支給セズ但シ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹
 リタルニ依リ又ハ本縣師範學校ノ小學校教員講習科ニ入學シタルニ依リ休職ヲ命シタル者ニハ市町
 村町村學校組合又ハ區ノ同意ヲ得テ俸給額ノ一部若ハ全部ヲ支給スルコトアルヘシ
 第十八條 教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍々人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ支給セ
 ス但シ其ノ額木職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ補給ス
 第十九條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ切捨ツヘシ
 日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ルヘシ

第二章 旅 費

第二十條 市町村立小學校教員公務ノ爲旅行スルトキハ順路ニ依リ左表ノ旅費ヲ支給ス

正教員	汽 車 賃		船 賃		車 馬 賃		宿 泊 料		日 當	
	縣 內	縣 外	一 哩 付	一 海 里 付	一 哩 付	一 夜 付	一 日 付	一 日 付	一 日 付	
准 教 員	貳 錢	四 錢	貳 錢	拾 錢	貳 錢	拾 錢	六 錢	拾 錢	四 拾 錢	
代 用 教 員	壹 錢	五 厘 貳	錢 拾	錢 拾 五	錢 壹	圓 五	拾 錢	參 拾 錢	貳 拾 錢	

第二十一條 汽車旅行ニハ哩數ニ應シ汽車賃ヲ水路旅行ニハ海里數ニ應シ船賃ヲ其ノ他ノ旅行ハ陸路
 旅行トシ里數ニ應シ車馬賃ヲ支給ス

宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セズ

第二十二條 暴風雨積雪若ハ道路險惡等ノ爲定額ノ車馬賃ニテ支辨シ難キ場合ハ實費ヲ支給スルコト
 ナ得

第二十三條 汽車賃船賃及車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ支給ス但シ一位未滿端數
 ノ路程ハ切捨ツヘシ

第二十四條 年度若ハ日ニ依リ旅費ヲ區分シテ計算スルノ必要アル場合ニ於テ汽車旅行若ハ水路旅行
 ニシテ其ノ區別判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ其路程ヲ區別シテ計算スヘシ

第二十五條 陸路六里未滿汽車十哩未滿水路十里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セズ但シ公務ノ都合ニ
 依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ支給ス

第二十六條 轉任ノ場合ニ在リテハ舊任地ヨリ新任地マテ汽車賃船賃及車馬賃ニ限リ定額ノ二倍ヲ支
 給ス

新ニ任用スル爲召喚スルトキハ本職相當ノ旅費ヲ支給ス

第二十七條 旅行中歸省其他私事ノ爲許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給
 ス

第二十八條 旅行中退職休職若ハ死亡ノ者ニハ前職若ハ本職相當ノ割ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給
 ス但シ懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失効ニ依リ教員ノ職ヲ失ヒタルモノハ此
 ノ限リニアラス

第二十九條 前二條ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ汽車旅行ハ一日二百哩水路旅行ハ一日百海里詰陸
 路旅行ハ一日十二里詰トシ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其ノ路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ
 一日ノ旅行ヲ十二時間トス但シ通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ之ヲ計算ス

第三十條 車務引繼業務整理等ノ爲退職者ニ旅行ヲ命スルトキハ前職相當ノ旅費ヲ支給ス
 第三十一條 學術講習ノ爲派遣スル場合又ハ生徒修學指導ノ爲旅行スル場合ニ於テハ定額ノ旅費ヲ減
 少シ又ハ旅行中ノ総額ヲ定メテ之ヲ支給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市參事會、町村長ニ於テ豫
 メ其ノ額ヲ定メ監督官廳ニ上申スヘシ

第三章 諸給與

第三十二條 市町村立小學校教員ニシテ一週三十時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者ニハ手當ヲ給與スヘシ
 第三十三條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給與スルコトアルヘシ
 第三十四條 職務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リシル者ニハ相當ノ療治料ヲ給與スヘシ
 第三十五條 教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給與スヘシ
 第三十六條 第三十二條第三十三條ノ場合ニ於ケル金額ハ郡ニ在リテハ郡長其ノ管理者ノヲ意見聞キ
 之ヲ定メ知事ニ上申シ市ニ在リテハ市長ニ於テ之ヲ定メ知事ニ上申スヘシ
 第三十七條 第三十五條ノ場合ニ於ケル金額ハ管理者ニ於テ之ヲ定メ知事ニ上申スヘシ
 本條ノ規定ハ代用教員ニ適用セズ
 第三十七條 宿直シタル者ニハ管理者ニ於テ定ムル所ノ賄料ヲ給與スヘシ
 附 則
 第三十八條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス
 第三十九條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケタル者ハ現ニ受クル所ノ俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ク但
 シ現ニ受クル所ノ俸給額本令規定ノ等級俸ニ相當セサルモノハ更ニ辭令ヲ受クルマテ仍ホ其ノ俸給
 額ヲ受クヘキモノトス
 第四十條 明治三十三年二月縣令第十四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

類集下二七
 頁一八四
 頁一九一
 頁一九七

◎警察

第二百十六號 (訓令)

明治三十二年八月十五日

警察署

警察署分署職務規程左ノ通定ス

但明治三十年十一月訓令第二百八十九號警察署分署職務規程明治二十七年五月訓令第四百十七號巡査勤務細則全年六月訓令第四百九十五號警察署分署職務規程全年七月訓令第二百三十七號巡査規程ヲ廢止ス

警察署分署職務規程

第一章 權 限

第一條 警察署長及分署長ハ其所轄内警察ノ事務ヲ掌理シ署員ヲ監督ス
 第二條 警察署長及分署長ハ巡査ノ進退及賞罰ヲ知事ニ具狀ス
 但分署長ハ所屬署長ヲ經由スヘシ
 第三條 警察署長及分署長ハ左ノ事項ヲ專行スルコトヲ得
 一 署僚警部及巡査ノ職務分掌ヲ定ムル事
 二 巡査ヲ管内外ニ派遣スル事
 三 巡査ニ所轄内受持ヲ命スル事
 但駐在一年ヲ經過セサル者ニ對シ詰替ヲ命スル場合ハ警部長へ稟議スヘシ
 四 巡査ノ身分上ニ關シ例規アル願届ヲ許否スル事

五 小使水夫ヲ進退スル事

第四條 警察署長ハ時機緊急ノ場合ニ限リ署僚警部ヲ管内ニ派遣スルコトヲ得
但其事由ヲ直ニ警部長ニ報告スヘシ

第五條 署僚警部ハ署長ヲ輔ケ内外勤ノ事務ヲ兼掌シ署員ノ勤務ヲ監督ス
首班署僚ハ署長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

警察署長ハ署僚警部ヲシテ司法警察事務ヲ專任セシムルコトヲ得

第六條 巡查部長ハ専ラ巡查勤務上ノ監督ヲ補助ス署長及署僚警部事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第七條 署僚警部又ハ巡查部長ニ於テ署長事故アルトキ代理ヲナス場合往復文書ハ總テ署長名又ハ署
名ヲ用ユヘシ

第八條 高等警察ノ事務ハ警察署長分署長親ラ處理スルモノトス

第九條 司法警察ノ事務ハ署長署僚警部事故アル場合ノ外巡查部長ヲシテ其代理ヲ爲サシムルコトヲ
得ス

第十條 警察署長分署長ニ於テ勤務細則ヲ設ケ警部長ノ認可ヲ受テ施行スヘシ
但分署長ハ所屬署長ヲ經由スヘキモノトス

第十一條 巡查ノ勤務ハ内勤外勤水上特務刑事ノ五種ニ分ツ
但内勤ヲ命スルトキハ警部長ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 服 務

第十二條 署僚警部及巡查部長ハ甲乙兩部ニ分テ隔日勤務十六時間トス

但一名在勤ノ署ニアツテハ日勤トス

第十三條 警察署長分署長ハ内勤巡查ヲシテ書記計算其他ノ庶務ニ従事セシム

第十四條 警察署長分署長ハ特務巡查ヲシテ通譯、衛生、風俗、外勤巡查ノ補助、押送看守、公廷及停車
場取締其他特務ニ服サシム

但停車場取締ハ必要ニヨリ專務ヲ命スルコトヲ得

第十五條 警察署長分署長ハ刑事事巡查ヲシテ罪犯捜査ニ專任セシム

但時宜ニヨリ他ノ任務ヲ命スルコトヲ得

第十六條 警察署長分署長ハ臨時必要ナル場合ニ在テハ署屬管區巡查ヲシテ助勤ヲ爲サシムルコトヲ
得

第十七條 警察署長分署長ハ内勤巡查ヲシテ時宜ニヨリ外勤ニ従事セシムルコトヲ得

第三章 巡視監督

第十八條 市部警察署長ハ毎月四回以上所屬ノ各巡查派出所ヲ巡視スヘシ

署僚警部ハ一晝夜一回以上巡查部長ハ一晝夜ニ二回以上各巡查派出所ヲ巡視シ仍ホ警邏線路ニ就キ
監督ヲナサシムヘシ

巡查部長ハ非番ノ日ニ於テ一ヶ月四日以上管區巡查ノ戸口調査其他諸監査事務ノ監督ニ従事スヘシ

第十九條 郡部警察署長分署長ハ毎年二回其所轄内各町村ヲ遍ク巡視シ直轄各巡查駐在所ヲ毎月一回
以上巡視スヘシ

前項ノ外警察署長ハ所屬分署内各巡查駐在所ヲ毎年一回以上巡視スヘシ

署僚警部巡查部長ハ各巡查駐在所ヲ一ヶ月ニ二回以上其警邏押印表配置ノ箇所全部ニ就キ一回以上
巡視スヘシ

但土地ノ狀況ニヨリ度数ヲ減少スルコトヲ得

第二十條 前條ノ外郡部警察署長分署長ハ一ヶ月八回以上署僚警部ハ一晝夜ニ一回以上巡查部長ハ一

晝夜二回以上署所在地及其派出所並ニ警邏線路ヲ巡視スヘシ

第二十二條 警邏押印表ハ署僚警部又ハ巡查部長ニ於テ集配スヘキモノトス

第二十二條 前數條ノ巡視程度ヲ變更スルノ必要ヲ生シタルトキハ警部長ニ稟申スヘシ
但臨時緊急ナル場合ハ此限ニアラス

第二十三條 巡視及監督ノ要項左ノ如シ

- 一 法律規則實施上ノ狀況
- 二 部内住民ノ動靜
- 三 執行務ノ適否及戶口調査ノ精粗
- 四 職務ノ勉否及注意ノ厚薄
- 五 人民ニ對スル待遇ノ如何
- 六 品行ノ良否及生計ノ摸樣
- 七 禮式及姿勢服裝ノ整否
- 八 給與品及貨與品備品保存ノ良否
- 九 日誌其他諸帳簿記載方ノ整否

第二十四條 郡部警察署長分署長ニ於テ第十九條第一項ニ掲クル町村巡視ヲナシタルトキハ前條ノ項目ニヨリ視察ノ狀況ヲ五日以内ニ知事ニ復命スヘシ

第二十五條 駐在所又ハ派出所ニ於テ失當若クハ不注意ノ事項ヲ認メタルトキハ指示命令ノ要旨ヲ日誌ノ欄外ニ記載捺印スルモノトス

但巡查不在ノ時ニ於テモ亦同シ

第二十六條 署僚警部巡查部長ノ巡視復命ハ監督日誌ニ記載シ署長ノ檢閲ヲ受クヘシ

第四章 外勤巡查服務

第二十七條 外勤巡查ノ勤務ハ警邏、立番、見張トシ營業監査及戶口調査ヲ擔任ス

第二十八條 外勤巡查ノ勤務時間左ノ如シ

- 一 市部管區巡查ハ甲乙兩部ニ分テ隔日勤務ニシテ一晝夜十六時間
- 二 郡部署屬管區巡查ハ二日勤務一晝夜十二時
- 三 但外勤巡查拾名以上ノ署ニアツテハ甲乙兩部ニ分ツコトヲ得

第二十九條 警邏立番見張ノ勤務時間警邏線路及其度數ハ署長ノ定ムル所ニ依ル

第三十條 管區巡查ハ非番ノ日ニ於テ市部ハ一ヶ月十日郡部ハ一ヶ月七日一日三時間以上戶口調査及諸監査事務ニ從事セシム

但汽罐瀝機其他特種ノ監査事務ハ便宜特務巡查ヲシテ擔任セシムヘシ

駐在所巡查ハ警邏ノ際之レニ從事セシムルコトヲ得

第三十一條 警邏ハ一定ノ順路ヲ取ラズ時々變更シ逆路ニ巡行セシムヘシ

但駐在所部内ニ係ルモノハ署長ニ於テ便宜豫定指示スヘキモノトス

第三十二條 戶口調査及諸營業其他臨檢監査ノ執行手續ハ警察署長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三十三條 外勤巡查職務上ノ事故ハ日誌ニ記載セシムヘシ

第三十四條 水上警察ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第五章 補 勤

第三十五條 駐在所巡查七日以上欠勤シタルトキハ隣接駐在所巡查ヲシテ助勤トナサシムルモノトス

第三十六條 非番巡查ハ必要ニヨリ何時ニテモ諸般ノ補欠ニ從事セシムルコトヲ得

第三十七條 非常巡查ヲシテ在宿豫備トナシ加番セシムルノ手續ハ署長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二百十七號 (訓令) 明治三十二年八月十五日

警察署
全分署

巡查服務規程左ノ通定ム

巡查服務規程

第一章 通則

第一條 巡查ハ職務ニ忠實ニシテ宜シシ紀律ヲ嚴守シ上官ノ命令ヲ遵守スヘシ

第二條 職務執行ノ際ハ勿論常ニ人民ニ對シテ叮嚀親切ニシテ苟モ傲慢粗暴ノ行爲アルヘカラス

第三條 地理人情風俗衛生ニ關スル事情ヲ詳カニシ民業ノ盛衰貧民ノ實況ヲ察知スルヲ要ス

第四條 受持管區内ニ發生スル警察上百般ノ事故ハ各其責ニ任スヘキモノトス

第五條 官衙公署ニ對シ照會往復ヲナシ又ハ人民ヲ召喚シ若クハ書面ヲ以テ指示スルコトヲ得ス

第六條 現行犯人追及又ハ之ニ進スヘキ緊急事件ノ外管區外一里以上ノ地へ出張スルコトヲ得ス

但本文以外ノ場合ニ出張ヲ要スル事故アルトキハ署長ノ指揮ヲ受クヘシ

第七條 組合管區内ハ勿論隣接管區ニ於ケル視察取締ヲ要スル事件ハ常ニ氣脈ヲ通シ互報ノ手續ヲ怠ルヘカラス

第八條 管區内ノ事故ハ其緩急輕重ヲ量リ重要ナル事故ハ速ニ署長ニ申報スヘシ

第九條 派出所及駐在所ニ備フヘキ簿冊左ノ如シ

一 管區日誌

二 派出所日誌

三 戶口調査簿

四 視察簿

五 參考簿

六 警察週報編冊

七 令達類編冊

八 管區署圖
但駐在所ニ限ル

第十條 内勤外勤特務刑事巡查ハ職務規程ノ定ムル所ニ從ヒ署長ノ命ニ依リ各其職務ニ從事スヘシ

第二章 管區處分

第十一條 左ノ項目ハ規定ニ從ヒ又ハ署長ノ命令ニヨリ管區巡查ニ於テ處理スヘキモノトス

一 戶口調査

二 工場及諸營業監査

三 被監視人及瘋癲人臨監

第三章 駐在所及派出所

第十二條 駐在所巡查ハ第十一條規程ノ外左ノ事項ヲ決行スルコトヲ得

一 監視表ノ認印

二 監視人旅行中事故承認

三 演劇其他諸興行臨檢

第十三條 駐在及派出所巡査ニ於テ左記ノ届書ヲ受理スルコトヲ得

- 一 變死傷者及盜難火災届
- 二 棄兒迷兒届
- 三 人畜傳染病ニ關スル諸届
- 四 遺失物届
- 五 但拾得物ハ受理スルノ限リニアラス
- 六 旅人及下宿人發着届

第十四條 前條届出ニヨリ成規アルモノハ速ニ其手續ヲ了シ所屬署ニ申報スヘシ

但緊急ノ事件ハ關係人ヨリ直ニ所屬署ニ差出カシムヘシ

第十五條 左記ノ條項ハ所内ニ揭示シ置クヘシ

- 一 人力車馬車ノ賃價表
- 二 瀝車瀝船ノ發着時間
- 三 各官衙及公私立病院ノ位置

第十六條 樞要ノ駐在所又ハ派出所ニ於テハ在ノ事項ヲ揭示スヘシ

- 一 氣象ノ警報ヲ受ケタルトキ
- 二 一里以内ニ出火アリタルトキ
- 三 瀝車ノ不避トナリタルトキ

第四章 警邏、立番及見張

第十七條 警邏立番ハ其姿勢ヲ正クシ安ニ他人ト私語ヲ爲スヘカラス

立番ハ派出所前ニ於テシ便宜三十歩以内ヲ運動スルコトヲ得

見張ハ正面ノ位置ニ於テ視線ノ及フ限リ注目シ執筆又ハ書見ヲ許サス

第十八條 警邏及立番ノ際ハ通行及營業等ノ妨害トナラサル様注意シ且成ルヘク便宜ノ路ヲ通行人ニ讓ルヘシ

第十九條 警邏中故ナク人家ニ立入り又ハ佇立シテ店頭ノ陳列品ヲ覗見シ若クハ家宅構内ヲ透見スル等ノコトアルヘカラス

第二十條 警邏查察ノ際ハ左ノ項目ニ專ラ視聽ヲ傾注スルヲ要ス

- 一 法律規則實施後周知ノ狀況
- 一 惡漢無賴ノ徒及乞丐強賣
- 一 瘋癲人及乱醉者
- 一 人民ノ群集及雜沓
- 一 浮説流言又ハ危險若クハ流行ノ遊戯
- 一 車馬船舶ノ交通及碇泊所
- 一 崩壞ノ虞アル建造物又ハ防圍ナキ井窖
- 一 墮落仆倒ノ虞アル堆積物又ハ樹木
- 一 迷兒棄兒發病者又ハ負傷者
- 一 逸走ノ獸類及狂犬又ハ猛獸
- 一 路傍ノ廁圍
- 一 鐵道電柱又ハ指導標街燈ノ保全
- 一 道路ノ破損及掃除

- 橋梁ノ危険
- 溝渠ノ毀損及不潔
- 路上通行ノ妨害物件
- 陸地測量標
- 往來禁停止標識ノ保全
- 風俗及公安ニ關スル貼札又ハ樂書
- 夜間門戸ノ不締干物
- 長大ノ物件其他火藥危險物ノ運搬
- 異狀ノ形相者
- 烟筒ノ異狀及掃除
- 一 惡臭汚穢物ノ運搬
- 第二十一條 駐在巡查警邏又ハ出張ノトキハ其方位並ニ歸所豫定時間ヲ便宜記載シ置クヘシ
- 第五章 派出所組長
- 第二十二條 組長ハ組合内ノ取締ヲナシ常ニ之ヲ獎勵シテ其處務一致ヲ圖ルヘキモノトス
- 第二十三條 組長ハ左ノ事項ヲ管理スルモノトス
 - 一 備品ヲ管守スル事
 - 二 消耗品ノ使用ニ注意スル事
 - 三 組合員ノ報告ヲ取纏メ進達スル事
- 第二十四條 本則中視察簿參考簿登錄事項ハ附録ヲ以テ之ヲ定ム
但戸口調査簿ハ前ニ定ムル規程ニ依ル

附録

簿冊登錄事項及様式

第一項 參考簿ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ

- 一 官 衙
- 二 公立病院
- 三 傳染病院
- 四 隔離病舎
- 五 貴衆兩院議員
- 六 縣會議員
- 七 郡市會議員
- 八 町村會議員
- 九 市町村長助役
- 十 衛生組合長
- 十一 消防組
- 十二 各銀行會社等重役辨護士公證人執達吏
- 十三 警察取締ニ屬スル諸營業
- 十四 胞衣及產穢物埋納及燒棄場
- 十五 諸工場貯藏場
- 十六 牛乳搾取場屠獸場斃獸解體場
- 十七 温泉場

- 十八 海水浴場
 - 十九 神社佛閣寺院
 - 二十 諸教會
 - 二十一 名所舊跡
但著名ニシテ歷史上關係アルモノ
 - 二十二 御料地
 - 二十三 池沼水防ノ必要アル堤防
 - 二十四 鑛山炭山
 - 二十五 鹽 田
 - 二十六 墓地火葬場及其管理者
 - 二十七 人力乗合馬車私設駐車場
 - 二十八 醫師及產婆鍼灸術營業人
 - 二十九 獸醫及蹄鐵工
 - 三十 藥劑師製藥者藥種商賣藥商
 - 三十一 外國人ノ住居地
 - 三十二 前各項ノ外參考ヲ要スル事項
- 第二項 視察簿ハ甲種乙種ヲ類別シ左ノ種類ヲ記載スヘシ
- 甲 種
- 一 大地主以上ノ資産家
 - 二 名望家

- 三 慈善善家
 - 四 公共ノ事業ニ効蹟顯著ナルモノ
 - 五 孝子貞婦義僕
 - 六 有位有勳者
- 乙 種
- 一 受刑者
 - 二 密賣淫及窩主
 - 三 通刑者
 - 四 貧兒養育者附リ癩病患者
 - 五 無賴漢
 - 六 托鉢者
 - 七 被監視人及瘋癲人
- 第三項 參考簿視察簿ハ別紙様式ノ如ク調製シ其受持管區ヲ一冊トナシ各一種毎ニ頁ヲ改メ口分ヲナスヘキモノトス
- 異動ハ朱線ヲ引キ其事由ヲ欄外ニ付記スヘシ
- 參考簿様式 (用紙半紙野)

縣	位置ヲ記載ス
地方裁判所	全
文	

何	議	員	住	所	氏	名
又ハ						
何	銀行	何	役	住	所	氏
又ハ						
辨	護	士	事	務	所	氏
又ハ						
何	營	業	家	號	住	所
又ハ						
何	々	場	所	在	地	持
又ハ						主
醫	師	住	所	氏	名	
又ハ						
何	川	堤	防	何	村	字
						何
						町
						何
						間

以上ハ其一例ヲ示シタルモノナレハ一種毎ニ頁ヲ改メ口分ケヲナシ且ツ口紙ヲ付スルヲ要ス

視察簿様式 (用紙半紙野)

甲種

氏	名	住	所
又ハ			
氏	名	住	所
又ハ			
氏	名	住	所
又ハ			
氏	名	住	所
又ハ			
全	通	稱	全
又ハ			

博徒ニシテ氏名ノ子分又ハ親分

貫兒男女兒氏名年月日至滿五歳

年月日於何裁判所罪名刑名刑期

年月日罪名逮捕狀何裁判所ヨリ發布

全 通稱 全

潜壯士ニシテ何等ト氣脈ヲ通スルモノ

全 緯號 全

監視人年月日起年月日但滿何ヶ月

以上ハ一例ヲ示シタルモノナレハ事由ノ如キハ簡明大要ヲ記シ一種毎ニ頁ヲ改メ口分ケチナシ且口ヲ付スルヲ要ス

第二百十八號 (訓令) 明治三十二年八月十六日

内務部 警察部 警察署 全分署

遺失物法取扱手續左ノ通定ム

遺失物法取扱手續

- 第一條 警察官署ニ於テ拾得物ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ領置シ別紙様式ニ從ヒ拾得物臺帳ニ登記シ受領證ヲ物件差出人ニ交付スヘシ
- 遺失物法第八條第三項ノ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ニ係ルトキハ受領證ヲ交附スルニ及ハヌ同法第九條ニ依リ權利ヲ失ヒタルモノニ就テモ亦同シ
- 第二條 遺失物ニ係ル公告ハ左ノ例ニ依ルヘシ
 - 一 公告ハ届出ヲ受ケタル警察官署及拾得地ヲ管轄スル警察署所屬ノ揭示場ニ揭示スルモノトス

二 官報又ハ新聞紙ニ掲載ヲ要スルモノハ警察部ニ報告スヘシ

三 拾得地カ届出ヲ受ケタル警察官署ノ所轄外ニ係ルトキハ第一條ノ手續ヲ了シ其所轄地ノ警察官署ニ揭示文ノ寫ヲ添ヘ直ニ通報スヘシ

第三條 遺失物法第二條ニ依リ賣却シタル物件ノ名稱種類形狀數量及ヒ特徴ニ關スル書類ハ法定ノ期間保存スヘシ

其價格五圓以上ト認ムルトキハ遺失物法施行細則第三條ノ手續ニ從フヘキモノトス

物件ヲ賣却スル場合ニハ豫メ拾得者ニ通知スルヲ要ス

第四條 遺失物法第七條ノ申告ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ臺帳ニ登記シ申告書ハ法定ノ期間之ヲ保存スヘシ但口頭申告ヲナシタルトキハ其旨附記シ申告者ヲシテ署名認印セシムヘシ

第五條 遺失物法第八條ニ依リ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免レントスルモノアルトキハ前條ノ例ニ準スヘシ

第六條 遺失物法第十二條ノ物件ハ通常ノ拾得品ト同一ノ臺帳ニ登記シ其種別ヲ種目欄内ノ左方ニ朱記スルモノトス

第七條 遺失物法第十一條ノ置去品及ヒ第十三條ノ埋藏物ニ關シテハ此手續ヲ準用ス但臺帳ハ各別ニ調製スヘシ

第八條 遺失物法第十三條第二項ノ物件ニ係ルトキハ左ノ事項ヲ調査シ速ニ知事ニ報告スヘシ
 一 發見ノ年月日及ヒ場所
 二 埋藏物ノ名稱種類數量及ヒ形狀但必要ト認ムルトキハ圖面ヲ作ルコトヲ要ス
 三 發見ノ手續及ヒ包藏ノ模様

四 埋藏物ノ在リタル土地又ハ家屋其他物ノ所有者、占有者、借主及ヒ發見者ノ住所氏名
 五 前號ノ物件カ發見者ノ所有若クハ占有ニ係ルトキハ之ヲ取得シタル年月日及ヒ事由

第九條 受領證ヲ受ケシモノ其受領證ヲ亡失セル旨届出タルトキハ事實ヲ調査シ更ニ常用野半紙ヲ以テ受領證寫(裏面ノ心)ヲ作リ臺帳ト契印ノ上之ヲ交付スヘシ
但臺帳ニハ其旨ヲ附記認印スヘキモノトス

第十條 保管スヘキ物件ハ一件一括トナシ年次、番號及ヒ差出人ノ氏名ヲ記シタル木札ヲ附著シ本縣物品出納順序ノ規定ニ從ヒ藏置スヘシ

第十一條 署長ハ毎月一回領置ノ現品ヲ検査シ其年月日ヲ臺帳表紙裏面ニ記入檢印スヘシ

第十二條 法定期間内ニ物件ノ返還ヲ受ヘキモノ知レタルトキハ關係人ヲ呼出シ法令ノ規定ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ但拾得者ニ交附セシ受領證裏面ニ署名認印セシムヘシ
拾得者ニ物件ヲ交附スルトキ亦前項ニ準ス

第十三條 此手續ニ據ルノ外現金ノ出納保管ハ會計法ノ規定ニ從フヘシ
(様式器ス)

訓令第五十五號

明治三十二年八月二十八日

郡 市 役 所
警 察 署
同 分 署
町 村 役 場

水難救護法ニ關スル事務取扱方法左ノ通定ム

第一條 水難救護法ニ關スル事務ハ明治三十二年七月遞信省訓令第六號水難救護法取扱手續ニ依リ取扱フヘシ

第二條 水難救護法取扱手續第十一條第十二條及第十六條ノ規定ニ依リ市町村長ヨリ知事ヲ經由シ遞信大臣ニ提出スル書類ハ二通ヲ差出スヘシ

縣令第六十九號

明治三十二年九月四日

銃砲火藥類願届手續左ノ通定ム

銃砲火藥類願届手續

第一條 銃砲火藥類取締法施行規則第六條第八條ノ許可ヲ受ケントスルトキハ使用地所轄警察官署、使用地ノ定マラサルトキハ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ出願スヘシ

銃砲火藥類取締法施行規則第九條ニ依リ當廳ニ出願スル場合ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二條 火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設セントスルトキハ銃砲火藥類取締法施行規則第十五條ニ依リ建設地警察官署ヲ經テ當廳ニ出願スヘシ

第三條 銃砲製造又ハ修繕ノ營業ヲ爲サントスルモノハ所轄警察官署ヲ經テ當廳ニ出願スヘシ

第四條 銃砲火藥類取締法施行規則第十五條ニヨリ銃砲製造營業者銃砲商及火藥商ノ備フヘキ帳簿ハ別紙第一號乃至第六號様式ニ據ルヘシ

第五條 銃砲製造者火藥商銃砲商ハ銃砲火藥類取締法施行規則第十六條ノ届出ハ第七號乃至第十號様式ニ據ルヘシ

第一號様式 銃砲買入帳

取引月日	種別	個數	賣渡人住所氏名
八月 日買受	軍用銃砲	何挺	何郡何村何番戶 何 某

第一號様式 銃砲賣渡帳

一 種別ハ軍用銃砲ハ名稱ノ如何ニ拘ハラズ單ニ軍用銃砲ト記シ非軍用銃砲ハピストル、和銃、杖銃、獵銃、室內射的銃等ト其名稱ヲ記載スヘシ
 一 合計ハ毎月末日ノ終尾ニ記載スヘシ

取引月日	種別	個數	買受人住所氏名
八月 日買受	軍用銃砲	何	何郡何村何番戶 何 某
計	軍用銃砲	何	
合	軍用銃砲	何	
九月 日買受	軍用銃砲	何	何郡何村何番戶 何 某
九月 日買受	ピストル	何	何郡何村何番戶 何 某
計	軍用銃砲	何	
合	軍用銃砲	何	
八月 日買渡	軍用銃砲	何	何郡何村何番戶 何 某
八月 日買渡	ピストル	何	何郡何村何番戶 何 某
計	軍用銃砲	何	
合	軍用銃砲	何	
九月 日買渡	軍用銃砲	何	何郡何村何番戶 何 某
九月 日買渡	ピストル	何	何郡何村何番戶 何 某
計	軍用銃砲	何	
合	軍用銃砲	何	

第二號様式 製造銃砲賣渡帳

一 種別ハ軍用銃砲ハ名稱ノ如何ニ拘ハラズ單ニ軍用銃砲ト記シ非軍用銃砲ハピストル、和銃、杖銃、獵銃、室內射的銃等ト其名稱ヲ記載スヘシ
 一 合計ハ毎月末日ノ終尾ニ記載スヘシ

取引月日	種別	個數	買受人住所氏名
八月 日買渡	軍用銃砲	何	何郡何村何番戶 何 某
八月 日買渡	ピストル	何	何郡何村何番戶 何 某
計	軍用銃砲	何	
合	軍用銃砲	何	
九月 日買渡	軍用銃砲	何	何郡何村何番戶 何 某
九月 日買渡	ピストル	何	何郡何村何番戶 何 某
計	軍用銃砲	何	
合	軍用銃砲	何	
八月 日買渡	軍用銃砲	何	何郡何村何番戶 何 某
八月 日買渡	ピストル	何	何郡何村何番戶 何 某
計	軍用銃砲	何	
合	軍用銃砲	何	
九月 日買渡	軍用銃砲	何	何郡何村何番戶 何 某
九月 日買渡	ピストル	何	何郡何村何番戶 何 某
計	軍用銃砲	何	
合	軍用銃砲	何	

種別ハピストル和銃、杖銃、獵銃、室內射的銃等ト其名稱ヲ記載スヘシ
修繕ハ銃砲製造營業者ニ於テ買入修繕ヲ加エタルモノナラフ
合計ハ毎月末日ノ終尾ニ記載スヘシ

取引月日	種別	製造又ハ修繕	個數	買受人住所氏名
八月 日賣渡	村田獵銃	製	何 挺	何郡何村何番戶 何 某
八月 日賣渡	ピストル	修	何 挺	何郡何村何番戶 何 某
八月 日賣渡	村田獵銃	改	何 挺	何郡何村何番戶 何 某
計	村田獵銃	改	何 挺	
	ピストル	修	何 挺	
合	村田獵銃	製	何 挺	
	村田獵銃	改	何 挺	
九月 日賣渡	村田獵銃	製	何 挺	何郡何村何番戶 何 某
九月 日賣渡	ピストル	改	何 挺	何郡何村何番戶 何 某
九月 日賣渡	ピストル	修	何 挺	何郡何村何番戶 何 某

第四號様式 銃砲修繕注文帳

種別ハピストル、和銃、杖銃、獵銃、室內射的銃等ト其名稱ヲ記載スヘシ
合計ハ毎月末日ノ終尾ニ記載スヘシ

注文月日	引渡月日	種別	個數	注文人住所氏名
八月 日注文	八月 日引渡	村田獵銃	何 挺	何郡何村何番戶 何 某
八月 日注文	八月 日引渡	ピストル	何 挺	何郡何村何番戶 何 某
計		村田獵銃	何 挺	
		ピストル	何 挺	
合		村田獵銃	何 挺	
		ピストル	何 挺	
九月 日注文	九月 日引渡	村田獵銃	何 挺	何郡何村何番戶 何 某
九月 日注文	九月 日引渡	ピストル	何 挺	何郡何村何番戶 何 某

第五號様式 火藥買入帳

取引月日	種別	数量	量	買入先
八月 日買受	火藥	何	何	陸軍砲兵工廠
八月 日買受	小銃實包	何	何	
八月 日買受	導火線	何	何把(廿四尺ノモノ何把)	
合	火藥	何	何	
計	ダイナマイト	何	何	
九月 日買受	火藥	何	何	陸軍砲兵工廠
九月 日買受	ダイナマイト	何	何	
九月 日買受	ダイナマイト	何	何	
九月 日買受	ダイナマイト	何	何	
九月 日買受	ダイナマイト	何	何	
計				
合				

一 種別ハ火藥、小銃實包、導火線、ダイナマイト等ト記スヘシ

第六號様式 火藥賣渡帳

一 合計ハ毎月末日ノ終尾ニ記載スヘシ

取引月日	種別	数量	量	買受人住所氏名	使用目的
八月 日賣渡	火藥	何	何	何郡何村何番戸	煙火製造用
八月 日賣渡	ダイナマイト	何	何	何郡何村何番戸	鑛業用
八月 日賣渡	小銃實包	何	何	何郡何村何番戸	小銃砲用
八月 日賣渡	導火線	何	何把(廿四尺ノモノ何把)又ハ何尺	何郡何村何番戸	土工業
合	火藥	何	何		
計	ダイナマイト	何	何		
九月 日賣渡	火藥	何	何	何郡何村何番戸	煙火製造用
九月 日賣渡	ダイナマイト	何	何	何郡何村何番戸	鑛業用
九月 日賣渡	ダイナマイト	何	何	何郡何村何番戸	
九月 日賣渡	ダイナマイト	何	何	何郡何村何番戸	
九月 日賣渡	ダイナマイト	何	何	何郡何村何番戸	
計					
合					

- 一 種別ハ火藥、小銃實包、導火線、ダイナマイト等ト記スヘシ
- 一 合計ハ毎月末日ノ終尾ニ記載スヘシ
- 一 導火線ハ一把以下ヲ取引シタルトキハ其尺數ヲ記スヘシ

第七號様式 何月分銃砲取引届

種別	越	高	買入數	賣渡數	月末現在
軍用銃砲	何	挺	何	挺	何
ピストル	何	挺	何	挺	何
何々	何	挺	何	挺	何
何々	何	挺	何	挺	何
何々	何	挺	何	挺	何

右及御届候也

年 月 日

警察署 御中

住 所

銃砲商 氏

名 印

第八號様式 何月分製造銃砲取引届

種別	製造又ハ修繕	個數	賣渡數	月末現在
村田獵銃	製造	何	挺	何
獵銃	修繕	何	挺	何
杖銃	全	何	挺	何
杖銃	全	何	挺	何

右及御届候也

年 月 日

警察署 御中

住 所

銃砲商 氏

名 印

- 一 修繕ハ銃砲製造營業若ニ於テ買入修繕ヲ加エタルモノヲ云フ

第九號様式 何月分注文修繕員數届

種別	個數	引渡個數	引渡未済數
村田獵銃	何	挺	何
ピストル	何	挺	何
獵銃	何	挺	何
杖銃	何	挺	何

右及御届候也

警察

年 月 日
 警察署 御中
 第十號樣式
 何月分火藥類取引届

住所
 銃砲商 氏
 名 印

種 別	越	高	買 入 數	賣 渡 數	月 末 現 在
火 藥	何	何	何	何	何
ダイナマイト	何	何	何	何	何
雷 管	何	何	何	何	何
導 火 線	何	何	何	何	何

右及御届候也

年 月 日
 警察署 御中
 住所
 火藥商 氏
 名 印

第二百三十二號 (訓令)

明治三十二年九月十一日

警察署

類集下一九
八頁参考

明治二十七年十一月訓令第三百十號巡查休暇細則第二條第一項中「三級俸ヲ給セラレタル日」トアルヲ「勤務ニ就キタル日」ト改メ第四條中「休暇日數ハ一週間以下ヲ分與スルヲ許サス又」ノ二十字ヲ削除ス

全 分 署

告示第四百十三號

明治三十二年九月十三日

銃砲及ヒ火藥商ノ定員左ノ通り指定ス

銃砲及火藥商定員指定表

郡 市 名	銃 砲 商	甲 種 火 藥 商
名古屋市	三	三
愛知郡	一	一
東春日井郡	一	二
丹羽郡	一	一
中島郡	一	一
知多郡	一	一
幡豆郡	一	一
額田郡	一	一
西加茂郡	一	一
東加茂郡	一	一
北設楽郡	一	一

南設樂郡	一	人
寶飯郡	一	人
渥美郡	二	人

一	人
一	人
二	人

縣令第七十四號

明治三十二年九月二十五日

名古屋市堀川河岸共同物揚場及河岸地取締規則左ノ通り相定メ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

堀川河岸共同物揚場及河岸地取締規則

第一條 本則ハ名古屋市堀川筋朝日橋ヨリ愛知郡熱田町大瀬古渡船場マテノ間ニ於ケル共同物揚場及
ニテ兩河岸地ニ之ヲ施行ス

第二條 共同物揚場ニハ陸揚又ハ舟積ノ物品ヲ五時間以上留メ置クコトヲ得ス但其物品ノ種類ニヨリ
ハ五時間内ニ他ニ運搬スルコト能ハサル事由アルモノハ所轄警察官署ノ承認ヲ得テ五日以内ノ期間ヲ
限リ之ヲ留メ置クコトヲ得

前項但書ニヨリ承認ヲ受ケタル物品ニハ其承認ヲ受ケタル者ノ住所氏名及承認ヲ受ケタル年月日ヲ
標榜シ置クヘシ

第三條 警察官署ハ承認ヲ與ヘタル後ト雖モ共同物揚場ノ公用ニ妨害アリト認ムルトキハ期限ヲ指定
シ留置物品ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 共同物揚場又ハ借地ノ許可ヲ受ケサル官有河岸ニ於テ荷造其他作業ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 重大ノ物品ヲ揚ケ卸シセントスルトキハ共同物揚場ヲ毀損セサル様豫メ相當ノ設備ヲナスヘ
シ

前項ニ違背シ毀損ヲ生セシメタル者ハ原形ニ復スル爲メ必要ナル修理ヲ加フヘシ

第六條 夜間舟積又ハ陸揚ヲ爲ストキハ標燈ヲ掲出シ置クヘシ

第七條 共同物揚場以外ノ官有地ニ於テ舟積又ハ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

但シ借地ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第八條 官有河岸地ニ貨物竹木又ハ瓦石ノ類ヲ置クコトヲ得ス

但シ借地ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第九條 河岸地ニ私有物揚場又ハ灌漑、伏樋等ヲ設ケ若クハ其修理ヲ爲サントスルトキハ現場ノ圖面
及ヒ仕様書ヲ添ヘ所轄町村役場及ヒ郡役所又ハ市役所ヲ經縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第十條 私有物揚場及ヒ借地河岸ニハ其場所ノ區域並ニ所有者若クハ借地人ノ住所氏名ヲ記載セル標
柱ヲ建ツヘシ

第十一條 本則第二條第九條ニ違背シ又ハ第三條ノ命令ニ違背シタル者ハ二日以上十日以下ノ拘留又
ハ貳拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條 本則第四條第五條第六條第七條第八條又ハ第十條ニ違背シタル者ハ一日以上七日以下ノ拘
留又ハ五錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十八號 (訓令) 明治三十二年十月七日

警察部
警察署
分署

明治三十一年七月訓令第二百五號巡查服裝細則第七條左ノ通改正ス
第七條中「左ノ區別ニ依ルヘシ」トアルヲ「摘頭ノミヲ外部ニ露ハスヘシ」ト改メ一號二號ヲ削除ス

縣令第七十七號

明治三十二年十月十一日

第一條 名義ノ如何ニ拘ハラス人ノ家宅ニ就キ義捐若クハ寄付ノ金品ヲ募集セムトスルモノハ發起人ニ於テ左ノ事項ヲ記載シ募集ニ著手セムトスル地ノ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ認可ヲ受ケタル後各事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

- 一 事務所ノ位置
- 二 募集ノ目的及方法
- 三 區域
- 四 期限

第二條 發起人ニ於テ募集人ヲ使用セムトスルトキハ其住所氏名ヲ記載シ連署ノ上募集人居住所ノ所轄警察官署ニ届出ヘシ其使用ヲ解キタルトキ亦同シ但此場合ニハ募集人ノ連署ヲ要セス

第三條 募集ニ從事スルモノハ出捐者ノ任意ニ依ルノ外義捐又ハ寄附ヲ強フルコトヲ得ス

第四條 第一條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノ前條ニ違背シ又ハ募集ノ目的ニ反スル行爲アリト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ行爲カ専ラ第二條ニ依ル募集人ノ所爲ニ出ツルトキハ其解使用ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 本令第一條第二條及ヒ第三條ニ違背シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第六條 本令ハ法人トシテ成立シタルモノ又ハ明治三十一年內務省令第六號ニ據ルモノ及ヒ氏子檀徒若クハ信徒ノミニ對スル義捐若クハ寄附金品ノ募集ニハ之ヲ適用セス

告示第百八十八號

明治三十二年十一月二十七日

名古屋警察署ノ下ニ門前町、鍋屋町、江川町ノ三警察分署ヲ置キ名古屋警察署及三分署ニ屬スル所轄區域左ノ通相定メ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

但名古屋警察署及分署ノ位置ハ追テ之ヲ告示ス

名古屋警察署 直轄町村名

名古屋市内ノ内

西瓦町	南久屋町	蒲燒町	宮勢町	伊勢町	久屋町	彌宜町	蘇鉄町	西柳町	仲ノ町	玉屋町	下長者町	小田原町	和泉町	茶屋町
大津町	南外堀町	泥江島町	笹三藏町	新柳町	本重町	伏見町	水挽町	長島町	車道東町	白山町	長車東町	月山見町	南伏見町	住吉町
船入町	榮屋町	桶西萬町	皆長者町	上長者町	車道奧田町	下奧田町	矢場町	南桑名町	鐵砲町	鐵瓦町	南瓦町	大坂町	東本重町	富澤町
上園町	菅原町	南小川町	辰巳町	南吳服町	八百屋町	白川町	横三藏町	研屋町	寶屋町	針屋町	關鍛冶町	武平町	廣平町	納屋町
南伊勢町	大津町	末廣町	水主町	池田町	東袋町	鶴重町	神樂町	西魚町	京魚町	内屋敷町	花車町	島田町	井萬町	東萬町
南新町	南武平町	南朝日町	小市場町	東魚間町	七北彌宜町	小烏町	伊倉町	傳馬町	材木町	車ノ町	桑名町	七曲町	南辰巳町	萬辰巳町

類編下一〇
三頁参照

天	入	小	奧
王	江	津	田
崎	崎	林	田
町	町	町	町
春	宮	西	袋
庵	出	菅	
横	原	原	
町	町	町	
下	東	南	吳
園	柳	福	市
町	町	宜	場
東	櫻	梅	西
櫻	町	夕	瓦
町	町	枝	瓦
南	南	町	町
園	長	南	東
町	島	鍛	
東	町	冶	
新	町	屋	
町		町	

愛知郡ノ内
 笑瀬村ノ内
 大字 收野 全 平野 千種村ノ内 五反田 全 西裏

門前町警察分署
 所轄町村名

門	東	西	花	梅	伊	前	旅
前	洲	洲	津	川	勢	塚	籠
崎	崎	崎	小	山	山	町	町
町	町	町	林	町	町	町	町
金	永	榎	若	上	下	上	上
澤	樂	松	松	前	茶	日	日
町	町	町	町	津	屋	置	置
裏	吾	東	役	下	岩	日	日
門	妻	角	割	日	井	出	出
前	町	町	町	置	町	町	町
天	富	餘	橘	松	常	根	根
王	岡	屋	重	葛	盤	津	津
町	町	町	町	町	町	町	町
音	不	東	東	上	梅	西	西
羽	二	古	古	堀	園	角	代
町	見	橋	渡	川	川	町	町
春	下	古	古	西	堀	堀	堀
日	前	郷	郷	脇	堀	堀	堀
津	津	渡	渡	町	町	町	町

愛知郡之内

笑瀬村ノ内
 大字 日置

鍋屋町警察分署
 所轄町村名

鍋	杉	舍	水	横	城	山	長	東	上	駿
屋	人	筒	筒	代	番	口	久	芳	豎	河
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
飯	小	葵	手	蓋	新	前	白	芳	東	相
田	川	代	屋	出	出	壁	壁	野	片	生
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
松	板	往	際	古	東	長	大	東	石	高
山	屋	還	代	出	白	堀	會	外	岳	岳
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
添	安	平	百	東	撞	森	清	富	東	筒
地	房	田	人	主	木	下	水	士	新	井
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
布	車	黒	東	主	八	土	下	七	裏	石
池	道	門	撞	税	軒	居	豎	小	筒	神
町	町	町	町	町	家	下	杉	井	井	堂
車	東	赤	坂	東	西	東	東			
道	矢	塚	上	二	二	門	門			
東	塚	塚	塚	葉	葉	前	前			
町	町	町	町	町	町	町	町			

西春日井郡之内

清水町 杉村 六郷村ノ内
 大字 菅根

江川町警察分署 所轄町名
名古屋市内

大船町	替地町	堀詰町	南驛町	淺間町	俵出町	吹出町	江川町	臺所町	馬喰町
廣橋町	小舟町	蕨下町	南應町	南應町	數寄屋町	前ノ川町	江川町	六句町	押切町
井蓋町	上隅町	千代町	北應町	北應町	樋ノ口町	手木町	柳田町	外田町	八坂町
裏蓋町	五條町	淺間町	紙郷町	紙郷町	五平藏町	山神町	深山町	北井町	南押切町
下名古屋町	比米町	奉行人町	新道町	北野町	泥野町	庭木町	花ノ木町	明道町	平野町
澤井町	井桁町	江戶屋町	江川町	江中町	上仲町	新屋敷町	白新町	上島町	上島町

縣令第五號

明治三十三年一月十五日

明治二十九年六月當縣令第二十二號消防組規則施行細則左ノ通り改正ス

消防組規則施行細則

第一條 消防組ヲ設置スヘキ市町村及其設置區域ハ別ニ之ヲ定ム

前項指定外ノ市町村ニ於テ消防組ヲ設置セントスルトキハ其事由ヲ具シ申請スヘシ

第二條 消防組ノ名稱ハ其區域ノ市町村名若クハ大字名ニ依ル

類集下二五
二頁參看

消防組ヲ數部ニ分チタルトキハ其部ノ數次ニ依リ部毎ニ名稱ヲ付スヘシ

第三條 消防組ノ編成ハ組頭一人小頭一人消防手四十人以上トス但消防組ヲ數部ニ分チタルトキハ部毎ニ小頭一人ヲ置クモノトス

各消防組消防手ノ定員及各部消防手ノ配當人員ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 消防手ハ年齡滿十八年以上ノ男子ニシテ平素行爲粗暴ニ涉ラス身體強壯ナル者ヲ選ビ之ヲ命ス

第五條 左ニ掲クル者ハ消防組員トナルコトヲ得ス

一 公權褫奪若クハ停止中ノ者

二 禁治産若クハ進禁治産中ノ者

三 公費ヲ以テ救助中ノ者

四 懲戒處分ニ依リ消防手ノ職務ヲ免セラレ滿三年ヲ經過セザル者

第六條 消防組員左ニ掲クル事項ニ該當スルトキハ其職ヲ免ス

一 前條第二號第三號ニ觸レタルトキ

二 輕罪以上ノ事犯ニ由リ拘留セラレタルトキ

三 逃亡シタルトキ

第七條 消防組内ノ事務ハ組頭之ヲ處理ス其概目左ノ如シ

一 消防器具ヲ管理シ及其現況ヲ警察署長ニ報告スルコト

二 消防器具ノ調製及其置場ノ増設ヲ要スト認ムルトキハ警察署長ニ開申スルコト

三 組員名簿及器具目錄ヲ整理スルコト

四 小頭以下ノ願届ヲ調査スルコト

第二十三條 檢閲ハ毎年二回トシ其時期ハ警察署長ニ於テ臨時之ヲ指定ス
 第二十四條 演習及檢閲ハ同時ニ之ヲ行フコトヲ得
 第二十五條 消防組員ハ平素左ノ各項ヲ恪守スヘシ
 一 組頭小頭及各消防手ノ分擔ヲ明ニスルコト
 二 組頭小頭ノ命令ニ遵ヒ紀律ヲ嚴守スルコト
 三 懇和ヲ旨トシ苟モ黨與ヲ結ビ其他紛議ヲ惹起ス等ノ行爲ヲナササルコト
 四 分限ヲ守リ行狀ヲ慎ミ漫ニ他人ノ行爲ニ關與シ若シハ紛争ニ立入ル等ノ行爲ヲナササルコト
 五 何等ノ名義ニ拘ラス擅ニ集合運動シ又ハ組名ヲ以テ職務外ノ行爲ヲ爲ササルコト
 第二十六條 消防組員ノ手當及被服其他ノ給與ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
 第二十七條 消防組員ニシテ其職務ニ關シ功勞顯著ナルモノニハ賞金又ハ賞狀ヲ付與スルコトアルヘシ
 第二十八條 消防組員ニシテ規則又ハ命令ニ違背シタルモノハ情況ノ輕重ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ懲戒スヘシ
 一 解職
 二 停職
 三 譴責
 第二十九條 組頭及小頭ノ賞罰ハ警察署長ニ於テ消防手ノ賞罰ハ警察署長ニ於テ之ヲ行フ
 第三十條 市町村長ニ於テ消防組ニ關スル申請ヲ爲ストキハ其地ヲ管轄スル警察官署ヲ經由スヘシ
 第三十一條 既設消防組ニ對シテハ特ニ變更ヲ要スル事項ノ外總テ現在ノ儘存續スルモノトス
 第三十二條 此規則中警察署長トアルハ消防組ヲ指揮監督スル警察署長又ハ警察分署長トス

(様式略ス)

訓令第五號

明治三十三年一月二十二日

消防組規則施行細則第九條消防器具及ヒ第二十六條消防組員ノ手當、被服、給與ニ關スル件別紙ノ通り相定ム
 (別紙)
 器具
 一 組又ハ一部ノ最少數

信 號 鐘	一 個
繩 梯	一 本
唧 筒	一 臺
提 燈	若 干
櫛 梯	一 本
刺 股	一 挺
斧 挺	三 挺

科	目	金額	事由
一 土地ノ狀況ニ因リ種類ヲ増減變更スルコトアルヘシ	電線		
	運搬器具		
二 手當	運水器具		
	汲水器具		
三 手當	引網		
	鋸口		
一 土地ノ狀況ニ因リ種類ヲ増減變更スルコトアルヘシ	組頭手當	年額	金參拾圓以下
	小組頭手當	全	金拾圓以下
	消防手當	全	金貳圓以下
	信號擔當者手當	全	金壹圓以下
	出場場手當	一時間	金拾五錢以下
	檢閱手當	一回	金拾五錢以下
	演習手當	一回	金貳拾五錢以下
	警戒手當	一回	金參拾錢以下
	器具掃除其他臨時手當	一回	金拾五錢以下

一 土地ノ狀況ニ因リ科目ノ幾分ヲ限リ又ハ全ク之ヲ給セス或ハ筆紙墨其他ノ實費ヲ給シ若シクハ出場ノ際辨當草鞋蠟燭等ノ現品ヲ給スルコトアルヘシ

三 吊祭料、扶助料及療治料

種	目	金額	事由
四 被服及付屬品	死亡吊祭料	金拾五圓乃至金參拾圓	職務上重傷死ニ至リタルモノニ給ス親族故舊ナキモノハ組合ニ付與ス
	傷痰扶助料	一等金參拾圓乃至金百圓	職務上傷痰ノ爲終身不具トナリ自用ヲ辨シ能ハサルモノニ給ス
	傷痰扶助料	二等金拾圓乃至金五拾圓	全上不具トナルモ自用ヲ辨シ得ルモノニ給ス
	傷痰日當	一日金貳拾五錢以下	傷痰ノ爲三日以上休業ニ至リタルモノニ給ス
遺族扶助料	遺族扶助料	金參拾圓乃至金百圓	傷痰ノ輕重ヲ量リ給ス
	遺族扶助料	適宜	父母妻子又ハ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セルモノニ給ス

頭巾	全	全	全
股引	全	全	全
手袋	全	全	全
組頭	全	全	全
全頭	全	全	全
被服	全	全	全

一土地ノ狀況ニ因リ種目ノ幾分ヲ限リ又ハ被服徽章ノミヲ給スルコトアルヘシ

類集下二三
五頁參看

告示第四十九號 明治三十三年二月十九日
 明治二十九年三月三十一號別冊同三十一號三月三十一號告示第三十號同三十二年三月三十一號告示第四十二號巡查駐在所名稱位置及受持町村ノ内更ニ左ノ通變更來ル四月一日ヨリ施行ス

所轄署名	駐在所名	全	位置	受持町村名
名古屋警察署	收野	全	收野	箕瀨村大字收野、平野
門前町警察分署	日置	全	日置	箕瀨村大字日置
鍋屋町警察分署	清水町	全	清水町	清水町、杉村
熱田警察署	大曾根	全	大曾根	六郷村大字大曾根
西枇杷島警察署	西春日井郡六郷村大字米野	全	米野	箕瀨村大字米野、露橋、北一色
	西春日井郡六郷村大字山田	全	山田	六郷村大字 矢田、山田、上飯田、下飯田、大幸

瀬戸警察分署 志談村 東春日井郡志談村大字中志段味 志談村、上志段味村
 蟹江警察分署 新蟹江村 海東郡新蟹江村 新蟹江村、福屋村

告示第五百五十二號 明治三十三年七月九日
 明治二十九年三月三十一號別冊巡查受持町村ノ内左ノ通變更ス

所轄署名 駐在所名 駐在所位置 受持町村名
 豐橋警察署 吉田方村 吉田方村大字東豊田 吉田方村、花田村(字西宿全松山ヲ除ク)

告示第六十九號 明治三十三年八月一日
 明治二十九年三月三十一號別冊巡查受持町村ノ内左ノ通變更ス

所轄署名 駐在所名 駐在所位置 受持町村名
 西枇杷島警察署 小木村 小木村大字小木 小木村、尾張村、五條村
 田口警察署 本郷村 本郷村大字本郷 本郷村、園村、下川村

告示第二百九號 明治三十三年九月二十八日
 明治二十九年三月三十一號別冊巡查駐在所名稱位置及受持町村ノ内更ニ左ノ通り變更來ル十月一日ヨリ施行ス

愛知郡		熱田警察署	
駐在所名	全位置	受持	町村名
幡野村	全大字菱野		幡野村
山口村	全大字田中		山口村
西加茂郡			
駐在所名		舉母警察署	
全位置	受持	町村名	
伊保村	全大字上伊保		伊保村
橋見村	全大字篠原		橋見村
東春日井郡			
駐在所名		勝川瀬戸分署	
全位置	受持	町村名	
水野村	全大字中水野		水野村
掛川村	全大字沓掛		掛川村
下品野村	全大字下品野		下品野村 上品野村
赤津村	全		赤津村

空

上

告示第二百二十三號

明治三十三年十月二日

明治二十九年三月告示第三十一號別冊巡查駐在所名稱位置及受持町村ノ内左ノ通變更ス

駐在所名		全位置		受持		町村名	
信樂村	全大字大海		信樂村 石座村 平井村				
告示第二百二十一號 明治三十三年十月十一日							
明治二十九年三月告示第三十一號別冊西春日井郡ノ内須ヶ口村駐在所名及受持町村名等左ノ通變更ス							
所轄署名		駐在所名		駐在所位置		受持町村名	
面枇杷島警察署		桃榮町駐在所		桃榮町大字須ヶ口		桃榮町 朝田村 寺野村 阿原村	
告示第五十一號 明治三十四年四月一日							
明治二十九年三月告示第三十一號別冊巡查受持町村ノ内左ノ通變更ス							
西加茂郡				舉母警察署			
駐在所名		全位置		受持		町村名	
苧生村	全大字福谷		苧生村				
三好村	全大字三好		三好村				

空

上

空

上

藤川村	全大字飯野	藤川村
廣澤村	全大字加納	廣澤村
碧海郡		
駐在所名	全	受持町村名
第一堤村	全大字堤	堤村ノ内 駒場村
第二堤村	全大字乙尾	堤村ノ内
丹羽郡		
駐在所名	全	受持町村名
池野村	池野村	池野村
今井村	今井村	今井村
愛知郡		
駐在所名	全	受持町村名
岩作村	岩作村	岩作村 長湫村
上郷村	上郷村	上郷村
熱田警察署		

岩崎村	全大字岩崎	岩崎村
白山村	全大字米ノ木	白山村
香久山村	全大字梅森	香久山村
平針村	平針村	平針村
東春日井郡		
駐在所名	全	受持町村名
内津村	全大字内津	内津村
神坂村	全大字坂下	神坂村
玉川村	全大字高藏寺	玉川村
不二村	全大字白山	不二村
勝川瀬戸分署		
駐在所名	全	受持町村名
印場村	印場村	印場村
新居村	新居村	新居村

下品野村	全大字下品野	下品野村
上品野村	全大字上品野	上品野村
志談村	志談村	志談村
上志段味村	上志段味村	上志段味村
東春日井郡		
駐在所名	全	置
大野村	全大字大山	大野村 池林村
味岡村	全大字東田中	味岡村
岩崎村	全大字岩崎	岩崎村 久保一色村、眞々村
境村	全大字西ノ島	境村 和多里村
西春日井郡		
駐在所名	全	置
小木村	小木村	小木村 五條村
尾張村	尾張村	多氣村
西枇杷島警察署		

全上

告示第八十三號 明治三十四年五月三日
 明治二十九年三月 告示第三十一號別冊巡查受持町村ノ内左ノ通變更ス

領内村	領内村大字櫻形	領内村
中島郡		
駐在所名	全	置
豐田村	豐田村大字福島	吉豐田村
西春日井郡		
駐在所名	全	置
清水町	清水町	清水町
杉村	杉村	杉村
名古屋祖父江分署		
警察署 稻澤分署		
名古屋鍋屋町分署		

全上

告示第九十九號 明治三十四年五月二十九日
 明治二十九年三月 告示第三十一號別冊巡查駐在所名稱ノ内左ノ通り變更ス

駐在所名	全	位	置	受	持	町	村	名
島田村	島田村	島田村	島田村	島田村	島田村	島田村	島田村	島田村

縣令第三十二號

明治三十三年三月二十九日

明治二十六年川縣令第十六號汽船及舢舨取締規則第十條ヲ削除シ第十一條以下繰上シ

縣令第四十六號

明治三十三年四月二十三日

工場及寄宿舎取締規則左ノ通定ム

工場及寄宿舎取締規則

第一條 本則ニ於テ工場ト稱スルハ各種ノ事業ニ從事スル爲メ職工又ハ徒弟ヲ使用スル場所ヲ云ヒ寄宿舎ト稱スルハ職工又ハ徒弟ヲ寄宿セシムル場所ヲ云フ

第二條 工場又ハ寄宿舎ヲ建設セントスルモノハ工事着手前左ノ事項ヲ具シ警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受ク可シ其第一號乃至第五號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一 事業ノ種類

二 工場若ハ寄宿舎ノ位置及周圍ノ圖面

三 工場若ハ寄宿舎其他構内建設物ノ平面圖側面圖斷面圖及ヒ其設計書

四 烟突ノ圖面及ヒ其構造設計書

五 工事落成期日

六 蒸氣力電氣力水力瓦斯又ハ其他ノ原動力ヲ使用セントスルモノハ其種類

七 職工又ハ徒弟ノ員數及ヒ寄宿舎ニ寄宿セシム可キ員數

第三條 前條ノ工事落成シタルトキハ使用前警察官署ニ届出檢査ヲ受ク可シ

第四條 左ノ事項ハ十日以内ニ警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出可シ

一 工業主ノ變更又ハ轉居若ハ改氏名

二 廢業

三 第二條第六號第七號ノ事項ノ變更

第五條 工場及ヒ寄宿舎ニハ其構造ニ應シ通常出入口ノ外別ニ非常口ヲ設ケ速ニ開閉シ得ヘキ裝置ヲナス可シ但二階造ノ工場及寄宿舎ニハ通常用階段ノ外非常用階段ヲ設備ス可シ

第六條 寄宿舎ノ寢室ハ二人ニ付一坪以上タルヘシ

第七條 火災ノ豫防上必要ナリト認ムル場所ハ煉瓦石又ハ其他ノ不燃質物ヲ以テ構造スヘシ

第八條 烟突ハ煉瓦又ハ鐵板ヲ以テ構造ス可シ何流罐若ハ竈ノ大小又ハ事業ノ種類若ハ場所ノ模様等ニ依リ必要ト認ムルトキハ其構造ヲ指定スルコトアルヘシ

第九條 烟突ハ毎月一回以上掃除ス可シ

第十條 工場及ヒ寄宿舎ニハ左記各號ノ設備ヲナス可シ

一 消防器具

二 非常用水

三 梯子

四 警鐘又ハ番木

五 前各號ノ外警察官署ニ於テ必要ナリト認メタル設備

第十一條 工業主ハ相當ノ看守人ヲ置キ夜間非常議戒ヲナサシム可シ

警察

第十二條 工業主ハ寄宿舎ノ清潔ヲ保チ及ヒ職工又ハ徒弟ヲシテ風儀ヲ紊ルノ行爲ナカラシムル爲メ必要ナル注意ヲ加フ可シ

第十三條 工業主ハ工場醫ヲ定メ置キ一ヶ月二回以上職工又ハ徒弟ノ健康診斷ヲナサシム可シ前項醫師ノ氏名ハ警察官署ヘ届出ス可シ其變更シタルトキ亦同シ

第十四條 工業主ハ職工又ハ徒弟ノ名簿ヲ調整シ其雇傭年月日及ヒ本籍氏名年齢ヲ明ニス可シ

第十五條 警察官吏ハ工場又ハ寄宿舎ニ臨檢スルコトヲ得

第十六條 工場又ハ寄宿舎ニシテ本則ノ制限ニ適合セサルモノアリト認ムルトキハ期限ヲ指定シテ改造修繕又ハ設備ヲ命スルコトアル可シ

第十七條 本則又ハ本則ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキハ工場又ハ寄宿舎ノ全部若ハ一部ノ使用ノ停止ヲ命スルコトアル可シ

第十八條 本則ハ二十人以下ノ職工若ハ徒弟ヲ使用スル工場又ハ十人以下ノ職工若ハ徒弟ヲ寄宿セシムル寄宿舎ニハ之ヲ適用セス但必要ト認ムルトキハ本則ノ一部若ハ全部ヲ準用スルコトアル可シ

第十九條 本則ニ於テ警察官署ト稱スルハ工場又ハ寄宿舎ノ所在地ヲ管轄スル警察官署トス

第二十條 第二條第三條第四條第五條第六條第七條第九條第十條第十一條第十三條第十四條ニ違背シタルモノ又ハ第十六條ノ命令ニ從ハサルモノハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第二十一條 本則ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本則施行前ニ建設シ若ハ建設ニ着手シタル工場又ハ寄宿舎ヲ使用スルモノハ明治三十三年十一月三十日迄ニ第二條ノ事項(第五號ヲ除ク)ヲ具シ警察官署ニ届出檢査ヲ受ク可シ前項ノ檢査ヲ受ケサル工場又ハ寄宿舎ハ前項ノ期限經過後之ヲ使用スルコトヲ得ス

類集下一二
一頁参考

第百六十八錢 (訓令)

明治三十三年五月二十九日

警察署
全分署

明治二十四年七月訓令第三百三十六號御警衛心得中左ノ通り改正ス

第二條 第三項ニ左ノ但書ヲ加フ
但支那人及洋裝ノ婦人ハ脱帽セシムルニ及ハス

第三條 末項ヘ左ノ一項ヲ加フ
一 風釐ヲ撮影セントスルモノ

第二十二條 左ノ如ク改ム
拜觀人ニ於テ萬歳ヲ唱ヘ又ハ帽手巾等ヲ振ラシムヘカラス

第四十四條 左ノ如ク改ム
第四十四條 各配置員ハ線路ト拜觀人トノ間ニ於テ專ラ拜觀人ノ動靜ヲ注視シ 御通輦ノ際ハ風釐ノ進向シ來ル方ニ面シ視線ハ拜觀人ノ一方ニ注シヘシ

第四十五條 左ノ如ク改ム
第四十五條 御警衛線内ニ於テハ凡テ禮式ヲ爲スニ及ハサルモ 御通輦ノ際ハ嚴肅ノ姿勢ヲ保チ敬意ヲ表スヘシ

縣令第五十九號 明治三十三年七月十六日

明治三十三年九月内務省令第十八號形像取締規則第一條ニ依リ當廳ニ許可申請スルニハ所轄警察官署ヲ經山ス可シ

第二百六號 (訓令)

明治三十三年七月二十四日

警察署
全分署

明治三十三年五月内務省令第二十六號第一項ニ該當スル行爲アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ具
狀スヘシ

- 一 提供者ノ住所氏名年齢職業
- 二 買買取引ノ方法
- 三 賣品及景物ノ種類員數及其價格
- 四 贈與ノ方法

縣令第六十一號

明治三十三年七月三十日

明治三十年三月縣令第十八號待合茶屋料理屋取締規則中左ノ通改正ス

第三條 營業雇人ヲ雇入レタルトキハ七日以内ニ其族籍氏名年齢ヲ記シ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第四條 左ノ各號ハ七日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツベシ

- 一 第一條及第二條ニ依リ届出タル事項ニ異動ヲ生シタルトキ
- 二 廢業
- 三 雇人ノ解雇

第十條 第一條乃至第八條ノ規定ニ違背シタルモノハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ
處ス

第十一條 削除ス

第十二條ヲ第十一條トス

類集下二六
七頁參看

訓令第五十七號

明治三十三年九月十九日

警察部

明治二十七年三月訓令第八十六號巡查教習所規則左ノ通改正ス

巡查教習所規則

第一章 總則

第一條 巡查教習所ニハ左ノ職員ヲ置ク

一所長 一人

一 教授 二人

一 助教 二人

一 舍監 二人

第二條 所長ハ上官ノ命ヲ受ケ所内ノ事務ヲ掌理シ兼テ教授ヲ掌ル

第三條 所長ハ所員及教習巡查ヲ監督シ其進退賞罰ヲ具狀ス

第四條 所長ハ左ノ事項ヲ專行ス

- 一 試驗期日ヲ定ムル事
- 二 試驗問題ヲ撰定スル事
- 三 試驗ノ成績ヲ判定スル事
- 四 寄宿舎長ヲ命スル事
- 五 教習巡查ノ外出時刻ヲ定ムル事
- 六 助教及教習巡查ノ願届ヲ許否シ及除服出仕ヲ命スル事但特別ノ規查アルモノハ此ノ限リニアラ
ス

類集下二七
四頁參看

七 備品ヲ管理シ諸帳簿ヲ整理スルコト

第五條 所長事故アルトキハ上席教授其職務ヲ代理ス

第六條 教授助教ハ所長ノ指揮ヲ受ケ授業ヲ擔任シ教習巡查ヲ監督ス

第七條 舍監ハ所長ノ指揮ヲ受ケ教習巡查ヲ監督シ兼テ庶務ニ従事ス

第八條 助教及舍監ハ交互宿直スヘシ

第九條 教習生ヲ分チテ左ノ三種トス

一 普通教習生

二 特別教習生

三 英語教習生

第十條 普通教習生ハ巡查採用試験ニ及第シ新ニ採用シタルモノ特別教習生及英語教習生ハ現職巡查ヨリ撰拔スルモノトス

第十一條 教習生ハ非常事變ノ際其他必要ノ場合ニ於テ實務ニ服サシムヘシ

第十二條 教習生ニシテ成業ノ見込ナク又ハ警察官タルニ適セスト認めル者ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 教習生ノ懲戒處分ニ付テハ巡查懲罰例ヲ適用ス

第十四條 教習生欠課セントスルトキハ其事由ヲ届出テ所長ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 大祭祝日及ヒ日曜日ヲ休業トス

第一章 普通教習生

第十六條 普通教習生ノ期間ハ二月トス

第十七條 普通教習生ノ教習時間ハ一日七時間トシ其時間制ハ警察部長之ヲ定ム

第十八條 普通教習生ノ教習科目左ノ如シ

一 警察法規

二 刑法

三 刑事訴訟法

四 禮式點檢操練

五 擊劍柔術及施細法

六 急救法

七 實務練習

第十九條 普通教習生ハ寄宿舎ニ宿泊セシム

第二十條 普通教習生ハ實務練習ノ爲メ市内警察署又ハ分署ニ配置スルコトアルヘシ

第三章 特別教習生

第二十一條 特別教習生ノ教習期間ハ三月トス

第二十二條 特別教習生ノ教習科目左ノ如シ

一 憲法

二 行政法

三 刑法

四 刑事訴訟法

五 警察法規

六 禮式點檢操練

七 擊劍柔術

八 實務演習

第二十三條 特別教習生ノ教習時間ハ一日七時間トシ其時間割ハ警察部長之ヲ定ム

第四章 英語教習生

第二十四條 英語教習生ノ教習期間ハ一ケ年トス

第二十五條 英語教習生ハ通學トス

第二十六條 英語教習生ハ誓約年限以外ニ三ケ年間本縣ニ在職スヘキ旨誓約ヲナサシムヘシ

第二十七條 英語教習生ノ教習科目左ノ如シ

- 一 讀 方
- 二 書 取
- 三 會 話
- 四 翻 譯
- 五 習 字
- 六 禮式、点檢、操練

第二十八條 英語教習生ノ教習時間ハ一日五時間トシ其時間割ハ警察部長之ヲ定ム

第五章 試驗

第二十九條 試驗ハ臨時試驗及ヒ卒業試驗トス

臨時試驗ハ臨時之ヲ行ヒ卒業試驗ハ學期ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第三十條 卒業試驗ノ点数ハ各科目四十点以上平均六十点以上ヲ及第トシ以下ヲ落第トス但臨時試驗ノ平均点数ハ卒業試験ノ点数ニ加ヘテ之ヲ平均ス

第三十一條 卒業試験ノ成績優等ナル者ニハ特ニ優等證書ヲ授與ス

第三十二條 卒業試験ニ落第シタルモノハ更ニ一ケ月ノ復習ヲ經テ試験ヲ行フ尙ホ落第シタルモノハ退學ヲ命スヘシ

附 則

第三十三條 此ノ規程ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

訓令第六十二號

明治三十三年九月二十九日

内	警	警	警	監	全
務	察	察	察	支	
部	署	分	署	署	
部	署	署	署	署	

行政執行法施行手續左ノ通り之ヲ定ム

行政執行法施行手續

第一條 行政執行法第一條ニ依リ檢束ヲ加フルノ必要アルトキハ警察官署内又ハ適當ノ場所ニ留置シ看守人ヲ附スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第一號様式ノ帳簿ニ必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第二條 行政執行法第一條ニ依リ物件ノ仮領置ヲ爲スノ必要アルトキハ其期間ヲ定メ第二號様式ノ帳簿ニ必要ノ事項ヲ記載シ領置期間ヲ本人ニ通告シ物品會計官吏ヲシテ領收證書ヲ交付セシムヘシ

第三條 仮領置ノ物件ハ仮領置ヲ爲シタル年月日及所持者ノ住所氏名ヲ明ニシ保管シ置クヘシ

第四條 仮領置ノ物件ニシテ行政執行法第七條ニ該當スルモノアルトキハ其物件ノ種類員數及事由ヲ記載シ縣廳ニ報告スヘシ

第五條 行政執行法第二條ノ場合ニ於テ警察官ノ職務ヲ執行スルニ當リ制服ヲ着用セサルトキハ警察官タルノ證票ヲ携帯シ請求スル者アルトキハ之ヲ示スヘシ

第六條 密賣淫ノ罪ヲ犯シ科料ノ刑ニ處セラレタル者ハ判決確定ノ後便宜醫師ナシテ健康診斷ヲ行ハシムヘシ

拘留ノ刑ニ處セラレタルモノハ判決確定ノ後直チニ監獄署ニ送致シ監獄署ニ於テハ醫員ヲシテ健康診斷ヲ行ハシムヘシ

警察官署ニ於テ拘留ヲ執行スル者ノ健康診斷ハ第一項ニ同シ

第七條 健康診斷ニ依リ微毒患者ナリト認メタル者ノ中拘留ノ刑ニ處セラレタル者ハ其拘留ノ時ヨリ直ニ治療ヲ受ケシムヘシ

前項ニ依リ治療ヲ受ケル者刑期滿限ニ至リ全治セサルトキハ其ノ自ラ治療ヲ爲シ得ルモノト認メタル者ハ放免ノ際警察官署ニ於テ尙引續キ自ラ治療ヲ加フヘキ旨ヲ示達スヘシ

前項ニ依リ自ラ治療ヲ爲シタル者全治シタルトキハ直ニ主治醫ノ證明書ヲ添へ所轄警察官署ニ届出シムヘシ

第八條 前條ニ依リ監獄官署ニ於テ治療ヲ受ケル者刑期滿限ニ至リ全治セサルトキハ監獄官署ハ放免前所轄警察官署ニ通報シ警察官署ハ放免ノ際巡查ヲ派遣シ患者ヲ受取ラシムヘシ

第九條 健康診斷ニ依リ微毒患者ナリト認メタル者ノ中科料ノ刑ニ處セラレタル者ハ自宅又ハ其他ニ於テ適當ノ方法ヲ以テ直ニ治療ヲ加ヘシムヘシ

前項ニ依リ治療ヲ爲シタル者全治シタルトキハ第七條第三項ニ依リ届出シムヘシ

第十條 警察官署ハ第七條第二項及第九條第一項ニ依リ自ラ治療ヲ爲スヘキ者ノ狀況ヲ觀察シ若シ治療ヲ加ヘサルモノアルトキハ第十一條ニ依リ處分スヘシ

治療ヲ爲ス場所カ他ノ警察官署ノ管轄内ニ屬スルトキハ治療ヲ爲ス者ノ住所氏名其他必要ノ事項ヲ當該警察官署ニ通報スヘシ通報ヲ受ケタル警察官署ハ前項ニ依リ觀察及處分ヲ爲スヘシ

第十一條 第七條第二項及第九條第一項ノ場合ニ於テ自ラ治療ヲ加フルコトヲ肯セス又ハ警察官署ニ於テ自ラ治療ヲ加フルノ見込ナシト認ムルトキハ特ニ指定スル病院ニ入ラシメ治療ヲ受ケシムヘシ

第十二條 微毒治療ニ要セシ費用ハ本人又ハ媒合者ヲシテ病院又ハ其支拂ヲ受ケヘキ者ニ交付セシムヘシ若シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ノ全部又ハ幾部ヲ支拂ハサルトキハ警察官署ノ經費中適當ノ科

目ヨリ之ヲ支出シ本人或媒合者ノ資力ヲ調査シ其ノ狀況ヲ縣廳ニ報告シ資力有無ニ關スル決定ヲ請フヘシ

第十三條 警察官署ハ別紙第三號様式ノ帳簿ヲ設ケ健康診斷ヲ行ヒタルトキ必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第十四條 警察官吏ニ於テ行政執行法第四條及同施行令第二條第三條ニ依リ土地物件ヲ使用處分シ又ハ其使用ヲ制限スルノ必要アリト認メタルトキハ直ニ所屬署長ニ報告シテ指揮ヲ受クヘシ但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ指揮ヲ受クルノ違ナキモノハ直ニ適當ノ措置ヲ爲シ其顛末ヲ所屬署長ニ報告スヘシ事ノ重要ナルモノニ係ルトキハ署長ハ之ヲ縣廳ニ稟申シテ指揮ヲ受クヘシ但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ指揮ヲ受クルノ違ナキモノハ直ニ適當ノ措置ヲ爲シ其顛末ヲ縣廳ニ報告スヘシ

第十五條 警察官吏ニシテ行政執行法第五條第一項第一號又ハ第二號ノ處分ヲ要スルモノアリト認メタルトキハ直ニ所屬署長ニ報告スヘシ

第十六條 警察署長又ハ分署長ニ於テ前條ノ報告又ハ其他ノ事由ニ依リ行政執行法第五條第一項第一號又ハ第二號ノ處分ヲ要スル者ト認メタルハ行政執行法施行令第五條ニ依リ適當ノ期間ヲ定メ第四

又ハ第二號ノ處分ヲ要スル者ト認メタルハ行政執行法施行令第五條ニ依リ適當ノ期間ヲ定メ第四

號又ハ第五號書式ニ依リ戒告書ヲ作リ其正本ヲ義務者ニ交付スヘシ但行政執行法第五條第一項第一號ニ屬スル處分ニシテ本條ノ手續ヲ爲スノ違ナキ急迫ノ事情アル場合ニハ直ニ之カ執行ヲ爲スヘシ第十七條 前條戒告ハ警察官署ニ於テ直ニ執行スルコトヲ得ヘキモノニシテ其事件ノ輕易ナルモノヲ餘クノ外縣廳ニ稟申シテ指揮ヲ受クヘシ但急迫ノ事情アル場合ニ於テ指揮ヲ受クルノ違ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 戒告ヲ爲シタルトキハ其事件ノ顛末ヲ具シ戒告書ノ謄本ヲ添ヘ直ニ縣廳ニ報告スヘシ

第十九條 戒告ヲ爲シタル後其指定ノ期日內ニ義務者其義務ヲ履行セサルトキハ其事件ノ重要ナルモノハ直ニ縣廳ニ稟申シテ指揮ヲ受クヘシ若シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ指揮ヲ受クルノ違ナキモノハ直ニ行政執行法第五條第一項第一號及第二號ノ處分ヲ爲スヘシ

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ其顛末ヲ具シ直ニ縣廳ニ報告スヘシ

第二十條 行政執行法第五條第一項第二號ノ處分ヲ爲ストキハ第七號書式ニ依リ決定書ヲ作リ其正本ヲ義務者ニ交付スヘシ

第二十一條 行政執行法第三條及第五條ノ費用若ハ過料ノ徵收ハ別ニ定ムル規定ニ依ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ義務者ニ交付スル決定書ハ第六號及第七號書式ニ依ル

第二十二條 過料ノ決定書交付後過料金ヲ納付セサル前ニ於テ義務者自ラ其ノ行為ヲ爲シ又ハ天災事變其他ノ原因ニヨリ強制スヘキ目的ノ消滅シタルハ縣廳ノ指揮ヲ受ケ過料ノ決定ヲ取消スヲ得

第二十三條 戒告書又ハ決定書ノ交付ハ第八號書式ノ送達書ニ依リ巡查又ハ小使等ヲシテ送達セシムヘシ

第二十四條 戒告書又ハ決定書ヲ義務者ニ送達セシ場合ニ於テ義務者之カ交付ヲ拒ムトキハ送達者ハ其事實ヲ送達書ニ記載シ記名捺印シタルモノヲ以テ送達ヲ了シタルモノト看做スヘシ

(第一號樣式)

救護人名簿

(用紙半紙形)

署 長 印	番 號 檢 第 號	取 扱 者 巡 査 某	檢 束 シ タ ル 日 時	年	月	日	時	住 所	主 任 印		
			檢 束 ヲ 解 キ タ ル 日 時	年	月	日	時			職 業 籍 所	
備 考	由 キ タ ル 事	檢 束 ヲ 爲 シ タ ル 事	由	所 持 品	數	第 一 日	朝	夕	第 二 日	朝	夕
						月	日	月		日	

記載例

備考	犯數及感 染ノ回数	場所ノ 自宅		本人若クハ 合者ノ資力
		至	自	
		入院 退院	年月日	年月日
		年月日	年月日	日間
			治療 ノ區別	強制治療 費ノ區別

記載例

- 一 健康診断ノ結果微毒ニ感染シタルモノニアラサルトキハ微毒ノ有無及症名ノ欄ヘナシト記入シ以下關係欄ノ記入ヲ省クヘシ
- 一 監獄署ニ於テ診断シタルモノナルトキハ檢診醫氏名欄ヘハ監獄醫ノ官氏名ノミヲ記入スルニ止メ捺印セシムルニ及ハス
- 一 犯數トハ密賣淫ノ罪ニ依リ處刑セラレタル犯數ニシテ感染ノ回数トハ微毒ニ感染シタル回数ヲ記入スルモノトス
- 一 資力ハ縣廳ニ於テ決定シタルモノ又其決定ヲ要セサルモノヨリテハ其警察官署ニ於テ調査シタル見込額ヲ記入スヘシ
- 一 治療費ノ區別ハ自費ナリヤ否ヲ區別シテ記入スヘシ
- 一 強制治療費ノ金額ハ本人ノ支拂フヘキ義務アル金額ヲ記入スヘシ
- 一 監獄署ニ於テ健康診断ヲ爲シタルモノニシテ本簿ニ記入スヘキ事項ハ回付ヲ求メテ記入スヘシ
- 一 監獄署ニ於テ放免ノ後尙強制治療ヲ要スルモノニシテ本簿ニ記入スヘキ事項ハ回付ヲ求メテ記入スヘシ

入スヘシ

第四號書式

、、、、、、、戒告書

何 市縣府 何 區郡 何 町村 何 番地

何 之 誰

右所有ニ係ル屑書地ニ在ル土堤、、間公道ニ崩壞シ公衆ニ危害ヲ及ホスノ虞アリト認ムルヲ以テ本
戒告書送達ノ日ヨリ起算シ 日 内ニ於テ崩壞セル土砂ヲ取除キ公道ノ原狀ニ復スヘシ但シ指定期間
内ニ履行セサルニ於テハ當廳自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ徴收スヘシ
右行政執行法第五條及行政執行法施行令第五條ニ依リ戒告スルモノ也

右原本ニ依リ正本ヲ作ルモノ也

年 月 日

官 氏 名

官 氏 名 印

第五號書式

、、、、、、、戒告書

何 市縣府 何 區郡 何 町村 何 番地

何 之 誰

右肩書地ハ居住制限地外ナルヲ以テ本戒告書送達後、日以内ニ營業區域内ニ退去スヘシ但シ指定期間ニ退去セサルニ於テハ過料ニ處スヘシ

右行政執行法第五條及行政執行法施行令第五條ニ依リ戒告スルモノ也

年 月 日

官 氏 名

右原本ニ依リ正本ヲ作ルモノ也

年 月 日

官 氏 名 印

第六號書式

、、、、決定書

何府 何郡 何町 何番 何地

何 之 誰

一金、〇圓也

右所有ニ係ル肩書地ヨリ公道ニ崩壊セル土砂取除之件ニ關シ明治 年 月 日付第一號戒告書ヲ送達シ置キタルニ指定期間ニ履行セザリシヲ以テ當廳自ラ之ヲ執行シ其金額ヲ頭書ノ通決定ス因テ

明治 年 月 日限リ當廳ニ納付スヘシ但シ指定期日內納付セザルトキハ國稅徵收法ニ依リ徵收スヘシ

右行政執行法施行令第六條ニ依リ決定スルモノ也

年 月 日

官 氏 名

官 氏 名 印

右原本ニ依リ正本ヲ作ルモノ也

年 月 日

官 氏 名 印

第七號書式

、、、、決定書

何府 何郡 何町 何番 何地

何 之 誰

一金、〇圓也

右肩書地退去ノ件ニ關シ明治 年 月 日第二號戒告書ヲ送達シ置キタルニ指定期間內履行セザリシヲ以テ頭書金額ノ通過料ニ處スヘキモノト決定ス因テ明治 年 月 日限リ其ノ金額ヲ

當廳ニ納付スヘシ指定期日內納付セザルトキハ國稅徵收法ニ依リ徵收スヘシ

右行政執行法第五條及行政執行法施行令第六條ニ依リ決定スルモノ也

年 月 日

官 氏 名

官 氏 名 印

右原本ニ依リ正本ヲ作ルモノ也

年 月 日

官 氏 名 印

式書號八第 (紙洋西紙用)

號乙						號甲					
送達ノ文書	送達ノ日時	送達ノ地	受送達者	送達者	備考	送達ノ文書	送達ノ日時	送達ノ地	受送達者	送達者	備考
、、、、第 號戒告書(決定書又ハ何々)	明治 年 月 日 時	府 市 町 村 番地	記名印	記名印		、、、、第 號戒告書(決定書又ハ何々)	明治 年 月 日 時	府 市 町 村 番地	記名印	記名印	
送達書						送達書					
官署名印						官署名印					

備考					
送達ノ文書	送達ノ日時	送達ノ地	受送達者	送達者	備考
、、、、第 號戒告書(決定書又ハ何々)	明治 年 月 日 時	府 市 町 村 番地	記名印	記名印	
送達書					
官署名印					

送達書ハ書類送達ノ際切離シテ乙號ハ之ヲ受送達者ニ交付シ甲號ハ之ヲ官署ニ保存スルモノトス
 乙號ニハ送達者之ニ記名調印ノ上受送達者ニ交付シ甲號ニハ送達者受送達者共ニ調印スルヲ要ス
 備考ノ欄ニハ受送達者ニ於テ送達書ノ受領ヲ拒ミタル等其他送達ニ伴ヒ生シタル事項ヲ記入スル
 モノトス

受送達者ノ氏名ハ本人ヲシテ記入セシム其記入シ能ハルモノアルトキハ送達者代テ之ヲ記シ受送達者ニ讀ミ聞カセ捺印セシメ其旨備考欄ニ付記スヘシ

縣令第七十五號

明治三十三年十月一日

職工募集取締規則左ノ通相定ム

職工募集取締規則

- 第一條 諸工場ニ使用スル職工ヲ本縣下ニ於テ募集セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ着手三日前ニ募集地所轄警察官署ニ届出ツ可シ
 - 一 募集區域及期限
 - 二 募集主及ヒ募集ニ從事スルモノ、住所氏名年齢
 - 三 募集スヘキ人員及其種類
 - 四 疾病死傷等ニ關スル保護方法
 - 五 賞與懲戒ニ關スル方法
 - 六 契約年限及ヒ勞働時間
- 第二條 未成年者ハ法定代理人ノ承諾書妻ハ夫ノ許可ヲ受ケタル證アルニアラサレハ募集スルコトヲ得ス
- 第三條 他ニ使用中ノ職工若ハ應募ノ契約ヲ爲シタル職工ハ雇主ノ承諾アルニアラサレハ募集スルヲ得ス
- 第四條 募集者ハ應募者ニ對シ虚偽ノ言行ヲ爲スヘカラス
- 第五條 募集ニ關スル書類簿冊ハ警察官吏又ハ其關係アル者ノ閱覽ヲ拒ムヲ得ス

第六條 募集ヲ終リタルトキハ十日以内ニ應募者名簿ヲ作製シ其住所氏名年齢及募集年月日ヲ記載シ

所轄警察官署ニ届出ヘシ

第七條 本則ニ違背シタルモノハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

縣令第七十七號

明治三十三年十月三日

理髮營業取締規則左ノ通定ム

理髮營業取締規則

- 第一條 理髮業ヲ開始シタルトキハ營業所住所氏名年齢ヲ記シ五日以内ニ營業所所在地ヲ管轄スル警察官署ニ届出ヘシ其ノ營業所住所ノ移轉改氏名並ニ廢業ノ場合ニ於テモ亦同シ
- 第二條 癩痢病又ハ皮膚病ニ病アル者ハ理髮業ニ從事スルコトヲ得ス
- 第三條 店舗内特ニ流シ場等ハ常ニ清潔ニ爲スヘシ
- 第四條 店舗内ノ毛髮ハ一定ノ容器ニ入レ散亂セシムヘカラス
- 第五條 營業者ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ
 - 一 營業用ニ供スル椅子ノ枕ハ清潔ナル白布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ
 - 二 前項白布及手拭、頸卷ノ類ハ少ナクモ毎日一回以上毛除覆ハ毎週一回以上洗濯シ清潔ナルモノヲ用ツヘシ但毛除覆ハ總テ白地ノモノヲ用ウヘシ
 - 三 就業中ハ清潔ナル白布筒袖及長胸掛ヲ用ウヘシ
 - 四 一客ノ理髮又ハ剃鬚ヲ了ル毎ニ石鹼ヲ以テ手ヲ洗淨スヘシ
 - 五 剪刀、剃刀、「ジャキ」、櫛、刷毛、ふけ取器械ノ類ハ一客ノ理髮剃鬚ヲ了ル毎ニ二十度ノ「アルニール」(五十%以上)又ハ二十倍ノ石炭酸水若クハ二十倍ノ「フオルマリン」水ニ浸漬シ使用ノ際清潔ナ

ル紙片ヲ以テ拭淨スヘシ但「フォルマリン」水ハ瓦斯ヲ使用スルモ妨ケナシ
 六 前項「フォルマリン」ヲ使用スルモノハ其揮發ヲ防クヘキ器具ヲ設備スヘシ
 七 頸部及顔面等ノ濕シ水ハ使用毎ニ必ス取り換ヘ湯槽、水槽、水瓶等ノ洗淨用ノ湯水ハ常ニ清潔ニシテ一日一回以上取り換ユヘシ

第六條 皮膚ニ病アル客ヲ理髮又ハ剃鬚シタルトキハ石鹼ヲ以テ手ヲ洗淨シタル後二十度「アルコール」(五十%)若クハ二十倍ノ石炭酸水ニテ其ノ手ヲ消毒シ且ツ該客人ニ使用シタル毛除覆、手拭、頸卷等ハ百倍ノ炭酸曹達水ニテ煮沸シタル上ニ非ラサレハ再ヒ使用スルコトヲ得ス

第七條 營業者ハ家族雇人ノ所爲ト雖モ營業上ニ關シテハ其責ニ任スルモノトス
 第八條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第九條 本則ハ當分ノ内名古屋市ニ限リ之ヲ施行ス
 第十條 前條施行地ニ於ケル從來ノ營業者ハ本則施行ノ日ヨリ十日以内ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
 第十一條 本則ハ明治三十三年十一月一日ヨリ施行ス

縣令第七十八號 明治三十三年十月三日

明治二十七年^三月 縣令第二十五號劇場及諸藝場建設規則中第三條左ノ通改正ス
 第三條 劇場及諸藝場ハ離宮、官公署、學校、病院其他重要ナル建造物ニ對シ適當ノ距離ヲ有スル地ニアラサレハ建設スルコトヲ得ス

類案下一六
四頁参照

訓令第六十五號

明治三十三年十月三日

警 察 分 署

形像取締規則取扱心得

形像取締規則取扱心得

第二條 規則第一條ノ願ヲ受ケタルトキハ同第二條各號ノ事實ヲ調査シ許否ノ意見ヲ附シテ進達スヘシ

第二條 規則第三條既設ノ形像ニシテ移轉改造又ハ除却ヲ命スヘキ必要アリト思料シタルトキハ其事由ヲ詳具スルヲ要ス

第三條 許可ヲ得スシテ建設移轉改造又ハ除却シタル形像ヲ認メタルトキハ左ノ各號調査ヲ遂ケ報告スヘシ

- 一 形像ノ位置
 - 二 形像ノ物質表作方法並ニ形体
 - 三 形像ニ表白シタル文字
 - 四 建設移轉改造又ハ除却シタルモノ、族籍住所氏名年齢及其年月日
 - 五 形像設置シタル土地ノ種別(宜有地民有地ノ區別ヲ云フ)
- 第四條 警察分署ニ於テハ別紙形像臺帳ヲ調製備付スヘシ

(半紙)

警 察

形像臺帳

考	備 本臺帳面ニ異動ノ事實及年月日等ヲ記載スルコト	許可年	建設許可年月日	形像	西郷隆盛銅造
		月日	移轉許可年月日	種別	但愛犬ヲ伴フ
		改造許可年月日		位置	
				願人	
				住籍	
				氏名	
				外何人	

訓令第六十九號

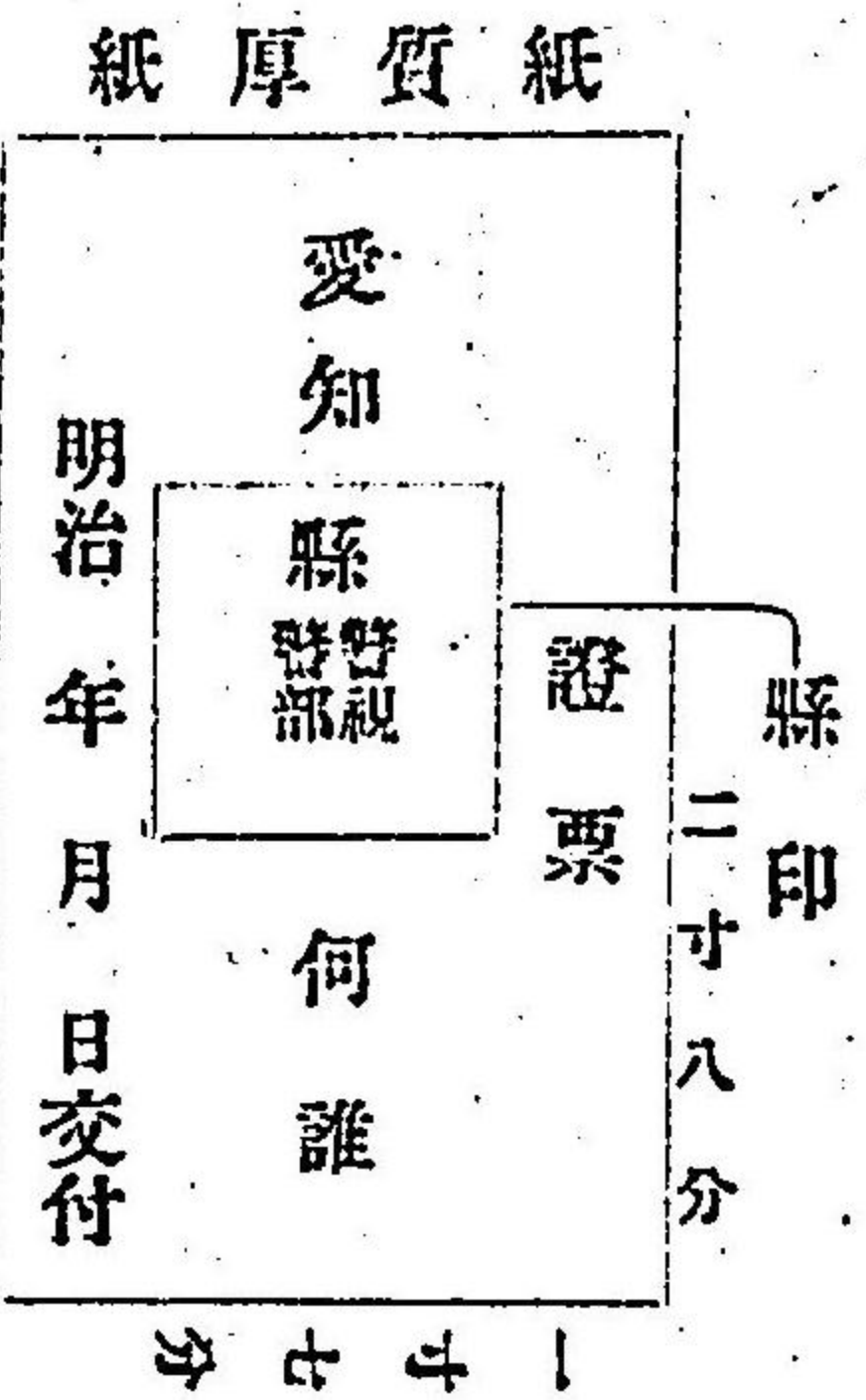
明治三十三年十月十八日

警察署

全分署

警察官吏證票ニ關スル件左ノ通心得ヘシ

- 一 證票ハ左ノ雛形ニ依ルモノトス但巡查ハ手帖ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
- 二 證票ハ轉任退官死亡等ニ依リ本縣警察官タルノ資格ヲ失ヒタルトキハ速カニ返納スヘシ
- 三 證票ヲ亡失シタルトキハ直ニ其旨届出ヘシ



類集下一八
五頁參看

縣令第八十六號

明治三十三年十一月十四日

娼妓取締規則施行細則左ノ通相定ム

娼妓取締規則施行細則

第一條 明治三十三年十月內務省令第四十四號娼妓取締規則第三條第一項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 姓名

二 稼業年限

第二條 娼妓名簿登録申請者ノ健康診断ハ警察官署ノ指定スル健康診断所ニ於テ検査醫之ヲ行フ

第三條 警察官署ニ於テ娼妓名簿ニ登録シタルトキハ登録證ヲ交付ス

登録證ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

登録證ヲ毀損亡失シタルトキハ三日以内ニ警察官署ニ届出其ノ再渡ヲ受クヘシ

登録證ハ第七條第一號乃至第三號ノ場合ニハ其ノ書換ヲ受ケ娼妓名簿削除ノ申請ヲ爲ストキ又ハ娼妓稼業ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第四條 娼妓名簿ニ登録セラレタル後第一條第二號ノ年限ヲ變更セムトスルトキハ明治三十三年十月内務省令第四十四號娼妓取締規則第三條第一項第三號乃至第五號ノ事項ヲ具シタル書面ニ其ノ年限並ニ變更ヲ要スル事由ヲ記載シ警察官署ニ名簿變更登録ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニハ明治三十三年十月内務省令第四十四號娼妓取締規則第三條第一項第三號第四號ノ承諾書及市區町村長ノ作リタリ承諾者印鑑證明書ヲ添付スヘシ

第五條 娼妓ハ其ノ稼場所ヲ變更セムトスルトキハ明治三十三年十月内務省令第四十四號第三條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ但一警察官署所轄内ニ於テ稼場所ヲ變更セムトスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 娼妓ハ其ノ稼業上雇人ヲ雇使セムトスルトキハ其ノ族籍住所氏名年齢ヲ記シ警察官署ニ届出ツヘシ

第七條 娼妓ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ七日以内ニ警察官署ニ届出ツヘシ

一 本籍及住居ノ異動アリタルトキ

二 氏名又ハ姓名ヲ變更シタルトキ

三 一警察署所轄内ニ於テ稼場所ヲ變更シタルトキ

四 雇人ヲ解雇シタルトキ

第八條 娼妓ハ貸座敷免許地域内ニ住居スヘシ

娼妓ハ前項地域内ニ限リ外出スルコトヲ得但シ道路ニ佇立徘徊若ハ散歩シ又ハ劇場人寄席其ノ他公眾ノ群集スル場所ニ立入ルコトヲ得ス

第九條 娼妓警察官署ノ許可ヲ受ケ外出スルトキハ其ノ許可證ヲ携帯スヘシ

外出シタル娼妓歸着シタルトキハ直ニ警察官署ニ届出外出許可證ヲ返納スヘシ

外出許可證ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

外出許可證ヲ毀損亡失シタルトキハ直ニ警察官署ニ届出其ノ再渡ヲ受クヘシ

第十條 娼妓ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 通行人ニ對シ遊興ヲ勸誘シ又ハ他人ヲシテ勸誘セシムルコト

二 學校生徒及十七歳未満ノ者ヲ客トスルコト

三 遊客ノ衣類其ノ他ノ物品ヲ質入若ハ賣却ノ紹介ヲ爲シ又ハ他人ヲシテ紹介セシムルコト

第十一條 遊客ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アリタルトキハ娼妓ハ貸座敷營業者ニ之ヲ告知スヘシ

一 身分不相當ナル金錢物品ヲ所持スル者

二 數日流連シテ金錢ヲ浪費スル者

三 身許不詳ニシテ其ノ舉動不審ナリト認ムル者

四 傳染病又ハ吐瀉其ノ他急劇ノ疾病ニ罹リタル者

第十二條 娼妓ノ健康診断ハ左ノ區別ニ從ヒ健康診断所ニ於テ検査醫之ヲ行フ

名古屋市内貸座敷免許地域内ニ居住ノ者ハ名古屋健康診断所

名古屋市内貸座敷免許地域内ニ居住ノ者ハ名古屋健康診断所

熱田町内貸座敷免許地域内ニ居住ノ者ハ熱田健康診断所
岡崎町内貸座敷免許地域内ニ居住ノ者ハ岡崎健康診断所
豊橋町内貸座敷免許地域内ニ居住ノ者ハ豊橋健康診断所

第十三條 娼妓健康診断ハ定期臨時ノ二種トス

第十四條 定期健康診断ハ毎月六回トス其ノ日割左ノ如シ

名古屋健康診断所 一六二七ノ日

熱田健康診断所 三八ノ日

岡崎健康診断所 四九ノ日

豊橋健康診断所 五十ノ日

第十五條 臨時健康診断ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ行フ

一 検査醫ニ於テ疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘサル者又ハ傳染性疾患アル者ト診断シタル娼妓治療ノ上稼業ニ就カムトスルトキ

二 娼妓住居地外ニ宿泊シテ歸着シタルトキ

三 娼妓稼業ヲ停止セラレタル後更ニ稼業ニ就カムトスルトキ

四 娼妓微毒下疳癩病肺結核其ノ他傳染性疾患ニ感染シタルコトヲ自覺シタルトキ

五 検査醫ニ於テ特ニ健康診断ヲ受クヘキコトヲ指示シタルトキ

六 前各號ノ外警察官署ニ於テ必要ナリト認メ健康診断ヲ受クヘキコトヲ命ジタルトキ

前項第二號ニ依リ健康診断ヲ受クルハ前ノ健康診断ヲ受ケタル日ヨリ五日以上ヲ經過シタル場合ニ限ルモノトス

第十六條 定期健康診断ハ娼妓自己ノ都合ニ依リテ休業中ト雖モ之ヲ受クルモノトス但警察官署ノ許

可ヲ受ケ外出シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 健康診断ノ時間ハ午前九時ヨリ午後三時マテトス但時宜ニ依リ變更スルコトアルヘシ

第十八條 娼妓健康診断當日疾病ノ爲メ出頭シ難キトキハ主治醫ノ診断書ヲ添ヘ午前十一時マテニ健康診断所ニ届出ツヘシ但シ検査醫ニ於テ必要ト認メタルトキハ居所ニ就キ健康診断ヲ爲スコトアルヘシ

第十九條 娼妓ハ健康診断所ヨリ診断書ヲ受領シ置キ受診ノ都度検査醫ノ健康又ハ疾患ノ證印ヲ受クヘシ

診斷書遺失シタルトキハ其ノ旨警察官署ニ届出同時ニ健康診断所ニ再渡ヲ申請スヘシ

第二十條 娼妓微毒ニ罹リ又ハ微毒感染ノ誘因トナルヘキ症狀アリト診断セラレタルトキハ三時間以内ニ驅微院ニ入院スヘシ但シ第十八條但書ノ場合ニ於テ三時間内ニ入院スルコト能ハサルトキハ其ノ猶豫ヲ警察官署ニ申請スヘシ

第二十一條 本則第三條第二項乃至第四項第六條第七條第八條第九條第十條乃至第十一條第十

八條乃至第二十條ニ違背シタルモノハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(三三縣

九〇改正)

附 則

第二十二條 娼妓ニシテ從來娼妓免許證ヲ受有スルモノニハ別ニ第三條ノ登録證ヲ交付セス

第二十三條 娼妓ノ取締ニ關スル從前ノ令達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

縣令第八十八號

明治三十三年十一月二十一日

警察

五二九

貸座敷取締規則左ノ通相定ム

貸座敷取締規則

第一條 貸座敷營業ハ左ニ指定スル地域内ニ限ル

- 一 名古屋市
 - 常盤町
 - 若松町
 - 富岡町
 - 城代町
- 一 熱田町
 - 大字傳馬(四ノ市場境マテ)
 - 大字崎町
 - 大字札木
- 一 豐橋町
 - 大字板屋
 - 大字傳馬

第二條 貸座敷營業ヲ爲サムトスルモノハ左ノ事項ヲ具シ營業地ヲ管轄スル警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其營業ノ場所ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但一警察官署所轄内ニ於テ營業場所ヲ變更セムトスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 營業者ノ住所族籍氏名年齢
- 二 樓名又ハ屋號
- 三 營業ノ場所

第三條 家督相続ニ依リ貸座敷營業ヲ繼承シタルモノハ前條各號ノ事項ヲ具シ五日以内ニ警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

第四條 貸座敷營業者ハ宿屋營業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第五條 貸座敷營業者ハ其ノ營業上雇人ヲ雇使セムトスルトキハ其ノ族籍住所氏名年齢ヲ記シ警察官署ニ届出ツヘシ

雇人ヲ解雇シタルトキハ七日以内ニ警察官署ニ届出ツヘシ

第六條 貸座敷營業者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ七日以内ニ警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

- 一 住所族籍氏名ノ異動アリタルトキ
- 二 樓名又ハ屋號ヲ變更シタルトキ
- 三 休業又ハ廢業シタルトキ

第七條 警察官署ノ所轄内ニ於テ營業ノ場所ヲ變更シタルトキ

第八條 貸座敷營業者ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 雇女ヲシテ娼妓ニ類スル所業ヲ爲サシメ又ハ娼妓ヲラシムルノ目的ヲ以テ婦女ヲ寄寓セシメ若ハ娼妓名簿登錄申請中ノ者ヲ宿泊セシムルコト
- 二 學校生徒及十七歳未満ノ者ヲ遊興セシムルコト
- 三 店頭若ハ出入口又ハ往來ニ於テ遊興ヲ勸誘シ又ハ他人ヲシテ勸誘セシムルコト
- 四 旅舎、車夫其ノ他ノ者ト啖合シテ客ヲ誘引スルコト
- 五 娼妓ヲ往來ヨリ見透シ得ヘキ場所ニ居ラシムルコト
- 六 方法ノ如何ヲ問ハズ遊客ヲ誘引スルノ目的ヲ以テ廣告ヲ爲スコト

- 七 遊客ノ需メサル飲食物ヲ供給スルコト
- 八 警察官署ノ認可ヲ受ケズシテ遊興費ノ抵償トシテ遊客ノ携有スル物品ヲ受取ルコト
- 九 遊客ノ衣類其ノ他ノ物品ヲ質入若ハ賣却ノ紹介ヲ爲シ又ハ他人ヲシテ紹介セシムルコト
- 十 遊客名簿ノ閱覽ヲ求メ又ハ遊客ニ面會ヲ求ムル者アルトキ之ヲ拒ヨ又ハ隱蔽スルコト
- 第九條 遊客ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリタルトキハ貸座敷營業者ハ警察官署又ハ警察官吏ニ申告スヘシ明治三十三年十一月縣令第八十六號娼妓取締規則施行細則第十一條ノ告知ヲ受ケズルトキ亦同シ

- 一 身分不相當ナル金錢物品ヲ所持スル者
- 二 數日流連シテ金錢ヲ浪費スル者
- 三 身許不詳ニシテ其ノ舉動不審ナリト認ムル者
- 四 傳染病又ハ吐瀉其ノ他急劇ノ疾病ニ罹リタル者
- 第十條 貸座敷營業上ニ就テハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任スルモノトス
- 第十一條 貸座敷營業者本則ニ違背シ又ハ公安ヲ害シ風俗ヲ紊ルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトアルヘシ
- 第十二條 貸座敷營業者ハ一區域毎ニ規約ヲ設定シ警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ變更シタルトキ亦同シ
- 第十三條 第三條乃至第九條ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第十四條 席貸茶屋營業ノ取締ニ關スル從前ノ令違ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

(別紙様式)

△印ハ朱線

年		月		來遊	歸去	住所	身分	職業	氏名	年	妻	娼	遊興金額
				午前	午後	何府縣何市町區	大字番戶平民戶主	吳服商	何某	何年	花月		一五〇〇
				午後	午前		又ハ誰何男						

記載例

一 遊興金額ハ娼妓ノ額頭及飲食料等總テ席貸茶屋ヨリ請求スヘキ金額ヲ合記スルモノトス

第三百號 (訓令)

明治三十三年十二月四日

貸座敷所在地所轄警察官署

貸座敷取締規則執行心得左ノ通相定ム

貸座敷取締規則執行心得

第一條 取締規則第二條及第三條ノ願届ヲ受理シタルトキハ其住所族籍氏名年齢ノ相違ナキヤ否ヲ精査スルハ勿論經歷事由等ヲ調査シ意見ヲ付シテ進達スヘシ

- 第二條 取締規則第十一條ニ依リ貸座敷營業ヲ禁止若シハ停止スルノ必要アリト認めタルトキハ關係書類ヲ添ヘ其事由ヲ具申スヘシ
- 第三條 取締規則第十二條ニ依リ貸座敷營業規約ヲ認可セントスルトキハ關係書類ニ意見ヲ付シテ稟議スヘシ
- 第四條 貸座敷營業者ハ其寄寓娼妓ニ對シ苛酷ノ取扱ヲナシ又ハ金錢取引等不正ノ行爲ナキヤ否ハ尤モ注意視察ヲ加フルヲ要ス
- 第五條 左記各號ノ一アルトキハ其事由及氏名等郡市役所ニ報告スヘシ
 - 一 貸座敷ヲ開業シタルトキ又ハ家督相續ニ依リ其營業ヲ繼承シタルトキ
 - 二 貸座敷營業者ノ住所族籍氏名屋號若クハ樓名又ハ營業ノ場所ニ異動アリタルトキ
 - 三 貸座敷營業ヲ禁止若クハ停止セラレ又ハ其禁止若クハ停止ヲ解カレタルトキ
 - 四 休業又ハ廢業シタルトキ
- 第六條 警察官署ニハ左記様式名簿ヲ設備シ加除訂正スルヲ要ス

(様式略ス)

第三百一號 (訓令)

明治三十三年十二月四日

娼妓取締規則施行心得左ノ述相定ム

娼妓取締規則施行心得

娼妓所在地所轄警察署
全 分 署

- 第一條 娼妓名簿ノ登録申請ヲ受理シタルトキハ娼妓取締規則第三條及同細則第一條ノ各項ヲ審査スルハ勿論勉メテ生計ノ狀態其他必要ノ事項ハ他ノ官公署ニ照覆調査ヲ遂ケ取締上差支ナシト認めタル者ハ第一號様式名簿ニ登録スヘシ
- 第二條 前條登録ヲナシタルトキハ第二號様式ノ登録證ヲ交付スヘシ
- 第三條 娼妓名簿登録事項ニ變更アリタルトキハ名簿及登録證ノ訂正ヲ爲スヘシ其登録證返納ニ係ルモノハ名簿ニ記入直ニ切斷スルヲ要ス
- 第四條 娼妓ノ外出ヲ許可スルトキハ第三號様式許可證ヲ交付スヘシ
- 第五條 健康診斷ハ所定ノ場所ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ
- 第六條 左ノ場合ニ在テハ娼妓名簿ノ登録ヲ拒ムヘシ
 - 一 有夫ノ婦
 - 二 傳染性疾患アルモノ
 - 三 稼業ニ堪ヘサル疾病アリト認めタルモノ
 - 四 生計上止ムヲ得サル事情ナキモノ
- 第七條 口頭ヲ以テ娼妓名簿削除ノ申請アリタルトキハ調査ヲ作り之ヲ讀聞セ當該官吏署名捺印スヘシ
- 第八條 再度娼妓名簿登録申請ヲ受ケタルトキハ特ニ事情ヲ調査シ己ムヲ得サルニ出テタルモノト認めタルモノ、外ハ登録ヲ拒ムヲ要ス
- 第九條 娼妓稼業ヲ停止若クハ禁止スルノ必要アリト認めタルトキハ其事由ヲ詳具スヘシ但娼妓取締規則施行細則第二十條ニ依リ稼業ヲ停止シタル場合ハ此ノ限リニアラス
- 第十條 休業又ハ稼業禁止停止中ノ娼妓ニシテ私カニ就業スルモノナキヤ否特ニ視察ヲ加フルヲ要ス

第十一條 左記事項ノ一ニ該當スルトキハ其事由年月日及住所氏名ヲ所在地郡市役所ニ通報スヘシ

- 一 娼妓名簿登錄又ハ削除若ハ住所族籍氏名ニ變更アリタルトキ
- 二 娼妓稼業ヲ停止若ハ禁止セラレ又ハ其禁止停止ヲ解カレタルトキ
- 三 娼妓逃亡及其復歸若ハ所在分明シタルトキ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 検査醫ニ於テ疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘサル者又ハ傳染性疾患アル者ト診斷シタルトキ及其疾病治療ノ上就業シタルトキ

(様式器ス)

第三百十七號 (訓令)

明治三十三年十二月二十七日

警察部
 監獄署
 警察署
 全分署
 監獄支署

警察官吏及司獄官吏等私設鐵道乘車通券規程左ノ通相定メ明治三十四年一月一日ヨリ施行ス

警察官吏及司獄官吏等私設鐵道乘車通券規程

第一條 乘車通券ハ私設鐵道法第六十九條及第七十條ニ依リ半價ヲ以テ乘車スル場合ニ使用スルモノトス

第二條 乘車通券ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ警察官吏公務上乘車ノトキ乙種ハ囚人及刑事被告人護送ノトキ使用スルモノトス

第三條 左ニ記載シタル者ヲ乘車通券發行擔任者トス

一 警察部ニ在テハ警務課長警察署全分署ニ在テハ其署長

二 監獄署ニ在テハ第二課長監獄支署ニ在テハ其署長

第四條 發行擔任者ハ乘車通券ヲ保管シ使用ヲ要スルトキハ雛形ニ依リ乘車人ノ官氏名其他ノ事項ヲ記入職印(長印)押捺ノ上使用者ニ交付スヘシ

第五條 發行擔任者ハ通券發行又ハ返納ヲ受ケタル都度様式ノ帳簿ニ番號及使用ノ事由官氏名等ヲ記載スヘキモノトス

第六條 發行擔任者ハ官氏名ニ印鑑(課署長印)ヲ添ヘ豫メ關係ヲ有スヘキ私設鐵道會社ヘ通報シ置クヘシ發行擔任者ノ交代若クハ改印ノトキ亦同シ

第七條 發行擔任者ハ犯人追跡若クハ探偵用務等ノ爲メ出張ノ場合ト雖モ尙其出向先ヲ豫定シ第四條ノ手續ヲ了スヘキモノトス但乗用ノ箇所等豫定シ難キ爲メ實際本文ノ手續ヲ爲ス能ハサル場合ニ限リ便宜使用者ヲシテ記入セシムルコトヲ得

前項但書ニ依リ記入シタルトキハ使用者ハ歸着ノ上其事由ヲ發行擔任者ニ申告シ擔任者ハ之ヲ交付簿ニ記載シ置クヘシ

第八條 乘車通券ノ交付ヲ受ケタル者ニシテ公務ノ都合ニ依リ其通券ヲ使用セサルトキハ速カニ之ヲ發行擔任者ニ返納スヘシ

私設鐵道乘車通券交付簿様式

(用紙半紙野)

甲種(又ハ乙種)ノ部			
交付月日	番號	使用ノ事由	返納ノ事由

備考 番號ハ甲乙各別ニ之ヲ起シ一月ヨリ十二月迄ノ延番號ヲ用ユルモノトス

第七十七號 (訓令)

明治三十四年三月二十二日

警察署
全分署

明治三十三年三月訓令第六十五號陸軍召集事務取扱規程別冊ノ通改正ス
(別冊)

陸軍召集事務警察官取扱規程

第一章 充員召集

第一節 第一款 總則

第一條 本規程ハ陸軍召集條例全施行細則及第三師管召集事務取扱規則并コ馬匹徵發事務細則ニ基キ

規定ス

第二條 召集事務ニ關係アル職員ハ周到ノ注意ヲ以テ平素遺漏ナク各分擔業務ヲ完整シ動員實施ニ當リ實義ヲナシ又ハ訓示ヲ請フコトヲ許サズ

第三條 前條規定ニヨリ警察署長分署長ハ動員實施ニ當リ執行スヘキ業務ヲ計畫シ動員手續(第一樣式)ニ其事項ヲ列記シ置クモノトス

但シ此手續ハ秘密ノ取扱ヲナシ且轉職等ノ場合ニ在テハ後任者ニ引繼クモノトス
第四條 平時充員召集ニ關スル書類ニシテ秘密ニ屬スルモノヲ發送スルニハ其封筒表面上(動)馬匹ニ關スル書類ハ(動馬)ノ字ヲ朱記シ且親展書トナシ更ニ之ヲ他ノ封筒ニ納メ宛名ノ左傍ニ「至急」ノ文字ノミヲ朱記ス

戰時充員召集補充召集國民兵召集馬匹徵發ニ關スル書類發送ニハ凡テ動員用封筒ヲ用ユルモノトス但秘密ヲ要スルモノハ更ニ他ノ封筒ニ入レ宛名ノ左傍ニ「至急」ノ文字ノミヲ朱記ス

第五條 某年何月何日ヨリ効力ヲ有スト記シアル書類ハ翌年四月一日發ヲ以テ發送官衙ニ返納スヘシ
第六條 充員召集事務ニ關スル書類ノ進達期日ハ總テ到達ノ日時ヲ指ス

第一款 召集準備

第七條 警察署長ハ聯隊區司令官及憲兵屯所長ト協議シ管內集合場ニ於ケル召集事務所其他必要ノ地ニ部下官吏ヲ派遣スヘキ箇所ヲ定メ知事ニ報告スヘシ

第八條 警察署長ハ徵發馬匹差出場所及全宿泊所表ヲ受レハ憲兵隊長ト協議ノ上其取締ニ關スル部下官吏ノ配置并ニ行務ヲ定メ知事ニ報告スヘシ

第九條 渡船場及橋錢ヲ要スル橋梁等使丁ニ限り深夜何時タリトモ出船若クハ通行ヲ容易ナラシメ且賃錢ヲ請求セサル様其關係者ニ通達シ請書ヲ徵シ置クヘシ

- 第十條 渡船場ニハ平素馬匹ヲ渡船セシムヘキ用意ヲ爲サシメ置クヘシ
- 第十一條 使丁ハ毎年三月三十一日迄ニ豫定シ契約書ヲ徴シ置クヘシ
- 第十二條 警察署長分署長ハ毎年二月軍用旅舎ニ就キ標旗標燈看板等ノ設備ヲ點檢シ其成績ヲ三月二十日迄ニ警部長ニ報告スヘシ
- 第十三條 警察署長分署長ハ其部下巡查ヲシテ在郷軍人名簿(第二樣式)第一國民兵人名簿(第八樣式)杜馬原簿(第九樣式)ヲ市役所町村役場ニ就キ調製セシメ且示后ノ異動ハ毎年四月十二月ノ二回該役所及役場ニ至リ加除セシムヘシ
- 第十四條 警察署全分署ニ備ヘ置クヘキ書類左ノ如シ
 - 一 在郷軍人名簿
 - 一 管區内略圖 (本圖ハ規程第七條第八條ノ箇所ヲ明記シ且使丁使用方法等ヲ圖解ニ掲クヘシ)
 - 一 使丁契約書
 - 一 渡船場管理者契約書(合綴ニナシ管區内界圖ニ添付シ置クヘシ)
 - 一 使丁差立豫定表
 - 一 軍用旅舎畧圖 (本圖ハ町名番地屋號姓名間取懸數等ヲ取調記載シ置クモノトス)
 - 一 動員令
 - 一 動員用封筒
 - 一 電報賴信紙
 - 一 急報紙
 - 一 戰時動員収發簿

- 一 平時收發簿
- 一 動員手簿
- 一 充員召集事務取扱規程
- 一 杜馬原簿
- 一 徵發馬匹配當表
- 一 徵發馬匹差立場所到着日數表
- 一 徵發馬匹宿泊所表
- 一 馬匹收發簿
- 一 第一國民兵人名簿
- 第十五條 前條圖面及諸表面ハ調製后直チニ一通テ警部長ニ報告スヘシ
- 第十六條 管區巡查ハ動員令達アリタル場合差支ナキ様豫テ家族又ハ隣人ニ托シ令達書ヲ受取出張先ヘ急報セシムルノ手續ヲ定メ置クヘシ
- 第十七條 本規程ノ諸帳簿諸表面ハ厚表紙ヲ付シ全ク他ノ書類ト區別シ動員用箱中ニ目錄ヲ付シ格納スヘシ
- 第三款 召集實施
- 第十八條 動員發令アルトキハ警察署長分署長ハ直ニ其事務ニ從事シ確實迅速ニ處理スヘシ
- 第十九條 馬匹ノ徵發ハ動員發令ノ時ヨリ實施セラルヘキヲ以テ警察署長分署長ハ發令全時ニ其事務ニ從事スルモノトス
- 第二十條 動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ封筒ニ受領月日時刻ヲ記入シ受領區畫ニ捺印ノ上使丁ニ返付スヘシ

但シ電報ノトキハ其全文ヲ掲ゲ確實ノ返電ヲナスヘシ

第二十一條 署員退出後又ハ休假日ニ於テ動員令ノ達アリタルトキハ宿直員ニ於テ前條ノ處置ヲナシ封筒ノ受領區畫ニ記名捺印ノ上使丁ニ返付スヘシ

第二十二條 動員令ノ達アリタルトキハ豫製ノ急報紙(第三樣式)ヲ以テ署員ニ急報シ豫定ノ使丁ヲ召喚シ其他必要ノ處置ヲナスヘシ

第二十三條 警察署長分署長ハ動員令(第四樣式)ニ所要ノ記入ヲ爲シ動員用封筒(第五樣式)ニ入レ發簡時刻ヲ記入シ使丁ヲシテ巡査派出所、全駐在所ニ速達スヘシ

第二十四條 前條ノ使丁ニハ必要ノ訓示ヲナシ且ツ豫テ調製シアル使丁心得書(第六樣式)ヲ持參セシムヘシ

第二十五條 警察署長分署長ハ豫定ノ箇所ヘ警部又ハ巡査ヲ派遣スルト全時ニ管區巡査及特務巡査ヲシテ軍用旅舎ニ就キ動員令達アリタル旨ヲ告ゲ直チニ豫製ノ標旗標燈看板ヲ掲出セシメ且客室其他差支ナキ様注意セシムヘシ

第二十六條 警察署長分署長ハ豫定ノ計畫ニ從ヒ部下巡査ヲ徵發馬匹差出場所及同宿泊所ニ派遣シ馬匹徵發委員及馬匹給養委員竝ニ郡市町村長ト協議ノ上現場ノ取締リ從事セシムヘシ

第二十七條 交通杜絶ノ箇所アル事ヲ認知シタルトキハ直チニ飛報セシメ署長ハ電信又ハ急使ヲ以テ師團長聯隊區司令官及警部長ニ急報シ一面郡市町村長ト協議シ其恢復ヲ速カナラシムルヲ要ス

前項ノ恢復ヲ終ヘタルトキハ直チニ前諸官ニ急報スヘシ

第二十八條 應召員ニシテ犯罪又ハ所在不明若クハ應召途中事故ノ爲メ到着ヲ遲延スル場合及應徵馬匹疾病ノ爲メ徵發ニ應スル熊ハサルトキハ第七樣式ニ依リ證明書ヲ與フヘシ

第二十九條 警察署長分署長ハ出納官吏及分任出納官吏ヨリ旅費支給場ニ至ル途中官金ノ護衛ヲ要求

三頁參看

シタルトキハ直チニ之レニ應スヘシ

第三十條 戰時補充召集ニ關シテハ本規程ヲ準用ス

第三十一條 第一國民兵召集ニ關スル規程ハ臨時之ヲ定ム

第二章 演習召集、教育召集、補缺召集、簡閱點呼

第三十二條 演習召集ニ關シ犯罪所在不明等ノ爲メ應召スルコト能ハサルモノ、證明書ヲ市町村長ヨリ要求シタルトキハ事實調査ノ上第七樣式ニ準シ證明書ヲ與フヘシ

第三十三條 應召員途中事故ノ爲メ到着ヲ遲延スル場合ハ第七樣式ニ準シ證明書ヲ與フヘシ

第三十四條 教育召集補缺召集簡閱點呼ニ關シテモ前二條ヲ準用ス

但シ簡閱點呼ノ際ハ警部又ハ巡査ヲシテ點呼場内外ノ取締ヲナスヘシ

(樣式畧ス)

第九十號 (訓令)

明治三十四年三月二十九日

警察署 同分署

巡査及書記ノ定員左表ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

但明治三十三年第三八號訓令(巡査書記定員ノ件)ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

名	署		名	別	職								
	古	屋											
八	五	七〇	一	三	四	一〇	二	一	一	二	一	五	三
部長	內勤	署所在地	駐在	刑事	特	水上	停車場	公庭	築港	監獄	雜務	計	書記
	受持區	受持區				取	取	取	取	取	取		

田口	新城	御油	豊橋	田原	富岡	合計
一	一	二	三	一	一	六八
一	一	二	二	一	一	六二
一	二	一	九	二	二	二六
八	七	〇	一	三	八	三三
一	一	一	一	一	一	六
一	一	一	一	一	一	八
一	一	三	三	一	一	三〇
一	一	一	一	一	一	一二
一	一	一	一	一	一	四
一	一	三	一	一	一	一二
二	二	三	二	一	二	八四
一三	一四	三〇	三五	一八	一四	九二
一	一	一	一	一	一	六

縣令第二十四號

明治三十四年四月二十四日

紹介營業取締規則左ノ通相定ム

但明治二十六年^{十一月}縣令第三十六號雇人口入營業取締規則明治二十九年^{一月}縣令第一號紹介人營業取締規則ハ本令實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

紹介營業取締規則

第一條 本則ハ藝妓娼妓仲居酌婦又ハ諸雇人(傭婢傭乳子傭職工又ハ徒弟ノ類)ヲ紹介スルヲ以テ營業トナスモノニ適用ス

第二條 紹介營業ヲサントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ但未成年者ニアツテハ法定代理人有夫ノ婦ニアツテハ夫ノ連署ヲ要ス

類集下一五
六頁參看

一 族籍住所氏名年齢屋號アルモノハ其名稱

二 營業ノ種類

三 營業所

第三條 前條各號ニ異動ヲ生シ又ハ廢業ヲナシタルトキハ七日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第四條 左ニ掲クルモノハ紹介ヲナスヘカラス

一 未成年者ニシテ法定代理人ノ承諾ナキモノ

二 妻ニシテ夫ノ承諾ナキモノ

三 身許不詳者ニシテ引請人ナキ者

四 精神病者又ハ懷妊ノ者

五 性質不良ト認ムル者

六 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

但雇主又ハ抱主ノ承諾アルモノハ此限ニアラス

第五條 娼妓紹介營業者ハ酌婦及諸雇人ノ紹介ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第六條 紹介營業者ハ左ノ營業ヲ兼ヌルヲ得ス

一 宿屋

二 待合茶屋

三 料理屋

四 飲食店

五 貸坐敷

六 遊技場

第七條 二個以上ノ營業所ヲ設クルトキハ自己ノ管理ヲ爲サ、ル營業所ニ管理人ヲ定メ七日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ其變更ヲナシタルトキ亦同シ

第八條 紹介營業者其代理者ヲシテ業務ヲ補助セシメントスルトキハ族籍氏名年齢ヲ記シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第九條 紹介營業者ハ被紹介人ト馴合ヒ又ハ之ヲ勸誘シ雇主又ハ抱主ヲ轉換セシムル等ノ行爲ヲ爲スヘカラス

第十條 紹介營業者ハ紹介ノ求メナキモノニ對シ勸誘スヘカラス

第十一條 紹介營業者ハ被紹介人ヲ欺罔シ又ハ逃亡セシメ若ハ教唆スル等ノ行爲ヲナスヘカラス

第十二條 紹介手数料ハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ營業所内見易キ場所ニ掲示スヘシ

第十三條 紹介營業者ハ被紹介人契約期限内中途亡又ハ外出シ歸來セサルトキハ既得ノ手数料ハ其日數ニ應シ雇主又ハ抱主ニ返金スヘシ

第十四條 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス手数料ノ外金銀物品ヲ受クルヲ得ス

第十五條 紹介營業者ハ被紹介人ニ金品ヲ貸與シ又ハ宿泊セシムヘカラス但所轄警察官署ノ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第十六條 紹介營業者ハ別紙所定ノ様式ニ依リ名簿ヲ調製シ出入ノ都度登録スヘシ

第十七條 紹介營業上ニ關シ家族雇人又ハ代理人ノ爲シタル行爲ハ營業者ノ行爲ト看做ス

第十八條 營業名簿ハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クルニアラサレハ廢業スルヲ得ス若シ亡失又ハ毀損シタルトキハ三日以内ニ其事由ヲ届出ツヘシ

第十九條 紹介人名簿ノ閲覧ヲ求ムルモノアルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第二十條 營業上ニ關シ風俗ヲ紊リ公安ヲ害シ又ハ不正ノ所爲アリト認メタルトキハ營業ヲ停止シ又ハ其認可ヲ取消スコトアルヘシ

ハ其認可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十二條 本則第三條第四條第七條乃至第十六條第十八條及第十九條ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第二十二條 本則ハ明治三十四年五月一日ヨリ施行ス

第二十三條 從來ノ營業者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第二條ニ據リ届出認可ヲ受クヘシ

紹介人名簿

番 號	紹介年月日	原籍現住所	身分職業	氏名年齢	法定代理人又ハ有夫ノ氏名	身元引受人職業	住所氏名	舊雇主又抱主ノ住所氏名	新雇主又ハ抱主ノ族籍職業氏名

被紹介ノ種類及 期限	酌婦、婢何々職工又ハ哺乳等ノ類
給料及手数料	
記事	

第四百一十一號 (訓令)

明治三十四年五月二日

警察部
警察署
全分署

紹介營業取締規則施行心得左ノ通相定ム

紹介營業取締規則施行心得

- 第一條 規則第二條、届出ヲ受理シタルトキハ各事項相違ナキヤ否ヲ調査シ左記各號ノ一ニ該當スルモノハ認可セサルモノトス
- 一 盜罪詐欺罪器物誘拐又ハ猥褻姦淫ノ罪ヲ犯シタルモノ但改悛ノ情狀アリト認めタルモノハ此限リニアラス
- 二 營業認可ヲ取消サレタルモノ但營業認可ヲ取消サレタル日ヨリ六ヶ月ヲ經過シ將來正當ニ營業ヲ爲スヘキ情狀アリト認めタルモノハ此限リニアラス
- 三 精神病者又ハ營業上其責任ヲ負擔スヘカラサルモノナルトキ其他認可ヲ與フヘカラサルノ事情アリト認めタルトキ
- 第二條 前條ノ規定ハ規則第八條代理者ニ準用ス

第三條 紹介手数料ハ豫メ認可ノ程度ヲ定メ置クヲ要ス

第四條 左記各號ハ其事由ヲ稟議スヘシ

- 一 本心得第一條第一項第二號第二號但書及第二項ノ事情アリシトキ
- 二 同第三條ノ手数料程度ヲ定ムルトキ其變更スルトキ亦全シ
- 第五條 規則第二十條ノ處分ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳具スヘシ
- 第六條 紹介營業者ニ對シテハ法令ノ範圍内ニ於テ時々臨檢又ハ視察ヲ加フヘレ但毎月二回ヲ下ルヲ得ス
- 第七條 開廢業改氏名轉居其他手数料等ハ其異動アル毎ニ加餘訂正スヘシ
- 第八條 別紙様式ノ名簿ヲ調製整理スヘシ

縣令第二十五號

明治三十四年五月三日

氷雪營業取締規則施行細則左ノ通定ム

氷雪營業取締規則施行細則

- 第一條 氷雪採收、製造營業ノ認可申請書ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ
- 一 氷雪ノ採收場、製造場、貯藏場ノ位置、坪數、構造設備ノ方法、圖面並工事落成期日
- 二 氷雪ヲ採收場、製造場ノ周圍ヨリ外方百二十間以内ノ地形圖
- 三 氷雪ノ貯藏方法
- 四 製造用器械ノ種類
- 五 原水ノ種類
- 前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受ク

ヘシ

第二條 氷雪卸賣營業ノ認可申請書ハ左ノ事項ヲ具シ買入先採收製造營業者ノ營業認可書寫ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

一 氷雪貯藏場ノ位置、坪數、構造方法、圖面並工事落成期日

二 氷雪ノ貯藏方法

前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

氷雪買入先ヲ變更セムトスルトキハ前項ノ例ニ依ルヘシ但其ノ届書ニハ買入先營業者ノ營業認可書寫ヲ添付スルヲ要ス

第三條 氷雪採收場製造場又ハ貯藏場落成シタルトキハ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出検査ヲ受クヘシ

前項ノ検査ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス

第四條 氷雪採收製造營業者又ハ卸賣營業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ七日以内ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ但死亡ノ場合ハ其ノ遺族ヨリ届出ヘシ

一 住所氏名ヲ變更シタルトキ

二 廢業休業シタルトキ又ハ休業後就業シタルトキ

三 死亡シタルトキ

第五條 氷雪製造場又ハ貯藏場ハ左ノ構造設備ヲ爲スヘシ

一 製氷ノ原水ヲ濾過シ得ヘキ装置ヲ爲スコト

二 製造場又ハ貯藏場ノ地盤ハ不滲透質ノ材料(石、煉瓦、漆喰、灰ノ類)ニテ敷設シ適當ノ勾配ヲ付シ

排水溝ヲ設ケ且ツ内部ノ周圍ハ板張トナシ藨芥其他不潔物ノ入ラサル様構造スルコト

第六條 結水池ハ藨芥其他不潔物ノ入ラサル様装置ヲ爲スヘシ

第七條 氷雪請賣營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ營業開始前ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

一 營業ノ場所露店呼賣又ハ行商ヲ爲スモノハ其ノ區別

二 買入先採收製造營業者又ハ卸賣營業者ノ住所氏名

第八條 氷雪請賣營業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ但死亡ノ場合ハ其ノ遺族ヨリ届出ヘシ

一 前條各號ノ事項ヲ變更シタルトキ

二 住所氏名ヲ變更シタルトキ

三 廢業シタルトキ

四 死亡シタルトキ

第九條 氷雪採收場又ハ製造場ノ異ナル氷雪ヲ同一ノ貯藏場ニ貯藏セムトスルトキハ厚板ヲ以テ其ノ區域ヲ爲シ各別ニ入口ヲ設ケ其ノ區別ヲ標記スヘシ

第十條 明治三十三年内務省令第三十七號氷雪營業取締規則第三條ノ規定ニ適合セサル氷雪ヲ飲食用ノ外ニ使用スル目的ヲ以テ貯藏セムトスルトキハ其ノ目的量目貯藏ノ場所等ヲ詳記シ所轄警察官署

ヲ經テ縣廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ營業ノ認可ヲ取消シ又ハ其ノ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

一 工事落成期日後二ヶ月ヲ經過スルモ尙落成セザルトキ

二 休業十二ヶ月ニ及フトキ

三 採收場製造場又ハ貯藏場ノ改修若シハ掃除ヲ命セラレ之レヲ履行セザルトキ

第十二條 本則第一條第二項第二條第三項第三條第二項第四條第七條乃至第十條ニ違背シタルモノハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十三條 從來ノ氷採收場製造場又ハ貯藏場ニシテ本則ニ適合セザルモノハ明治三十四年十二月三十一日マテニ改築スヘシ

第一三二號 (訓令)

明治三十四年四月二十二日

知事官房
警察部

明治三十四年四月第一三〇號訓令愛知縣職務細則第四條ニ依リ警察部長ヲシテ處理セシムヘキ事項左ノ通定ム

- 一 巡查及月俸拾五圓以下ノ雇員其他給仕使丁工夫水夫ノ進退賞罰并ニ願伺屈處分ニ關スル事項
- 二 部員管内出張巡回ニ關スル事項
- 三 各署在勤警部ヲ本廳ヘ召喚ニ關スル事項
- 四 警察賞與ニ關スル事項
- 五 巡查精勤證書授與ニ關スル事項
- 六 巡查ニシテ軍籍ニ在ルモノ召集免除ニ關スル事項
- 七 警察及衛生ニ係ル統計書報告書様閱ニ關スル事項
- 八 巡查雇配置ニ關スル事項
- 九 部署勤務方法ニ係ル細目ニ關スル事項

十 集會結社及偽造紙幣ニ係ル月報ニ關スル事項

十一 新聞紙雜誌及出版物ニ係ル通報告達并ニ諸届進達ニ關スル事項

十二 藥用阿片拂下ニ關スル事項

十三 醫師藥劑師產婆試驗及開業願ニ關スル事項

十四 屠獸醫及種痘醫ニ關スル事項

十五 產婆試驗期日及產婆登錄人名告示ニ關スル事項

十六 死体解剖願處分ニ關スル事項

十七 飲食物玩弄品着色料検査ニ關スル事項

十八 部員及各署在勤警部急行ヲ要スルトキ若クハ道路險惡等ノ場合ニ於テ船車馬賃實費拂認可ニ關スル事項

關スル事項

十九 金額百圓以内ノ物件ノ賣買貸借ニ關スル事項

二十 前各號ノ外急迫ノ事件ニシテ決裁ヲ請フノ違ナキモノハ直ニ處理シ其旨具申スルコトヲ得

縣令第二十九號

明治三十四年六月十三日

工場ニ於ケル疾病者負傷者及死者届出規則左ノ通定ム

工場ニ於ケル疾病者負傷者及死者届出規則

第一條 本則ニ於テ工場ト稱スルハ職工徒弟十人以上ヲ雇使スル工場ヲ謂フ

第二條 工場ニ於テ左ノ種類ニ屬スル負傷者ヲ生シタルトキハ工業主ハ負傷ノ性質部位大小形狀豫后ノ見込等ヲ詳記シタル醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即時所轄警察官署ニ届出ヘシ但負傷者ヲ病院ニ入院セシメ又ハ其ノ他ノ場所ニ移シ治療セシムルトキハ其ノ場所ヲモ届書ニ記載スヘシ

- 一 骨折脱臼
- 二 諸内臓或ハ貴要神経系統ノ損傷及其ノ疑アルモノ
- 三 耳目ノ官能ヲ廢疾ニ歸セムトスルノ外傷
- 四 危険ナル出血或ハ不良合併症ヲ醸スヘキ創傷
- 五 重大ナル熱傷及腐蝕

第三條 寄宿舎又ハ社宅アル工場ニシテ其ノ舎宅内ニ在ル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工業主ハ其ノ疾病者負傷者ノ職名氏名年齢及病症ヲ具シ所轄警察官署ニ届出ヘシ

- 一 疾病又ハ負傷ノ爲メ解雇セムトスルトキ
- 二 疾病又ハ負傷ノ爲メ休業三十日以上ニ涉リタルトキ

前項ノ届出ハ第一號ノ場合ニハ三日前ニ第二號ノ場合ニハ三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第四條 寄宿舎又ハ社宅アル工場ノ工業主ハ其ノ舎宅内ニ在ル職工數並ニ其ノ疾病者負傷者及死者ノ數ヲ毎月左ノ様式ニ依リ取調翌月五日迄ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ但死者及第三條第一項ノ各號ニ該當スル者アリタルトキハ其ノ職名氏名年齢及病症ヲ届書ノ備考ニ記載スヘシ

第五條 第二條乃至第四條ニ違背シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第六條 明治三十二年縣令第六十五號工場ニ於ケル負傷者及病者届出規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

(様式)

工場職工疾病者負傷者及死者表 (用紙半紙)

名	職	工	數	疾病者數	全死者數	負傷者數	全死者數
---	---	---	---	------	------	------	------

何々紡績會社又ハ何々探糸場何々精米所等

備考

記載例

- 一 職工數ハ寄宿舎又ハ社宅内ニアル者ノミヲ記載シ以下ノ數欄ニハ其ノ職工ニシテ欄名ニ該當スルモノヲ記載スルモノトス
- 一 疾病者數負傷者數ハ回数ヲ以テ人ニ換算ス乃チ二回ナレハ二人五回ナレハ五人ト算シ記載スヘシ但重複セル數ハ備考ニ附記スルモノトス
- 一 職工數ハ毎月末日現在數ヲ記載シ其ノ他ノ數ハ其月中ニ發生シタル數ヲ記載スルモノトス
- 一 職工中疾病者負傷者及死者ナキトキハ職工數ノミヲ記載スルモノトス

訓令第二十九號

明治三十四年六月十三日

警察部
警察署
分署

工場ニ於ケル疾病者負傷者及死者届出規則執行心得左ノ通定ム

第一條 規則第二條ニ依リ届出ヲ受ケタルトキハ巡查部長以上ニ於テ直ニ現場ニ臨ミ負傷ノ模様及救護ニ關スル頗末ヲ見届クヘシ

第二條 規則第三條第一項ノ届出ヲ受ケタルトキハ速ニ巡查部長以上ニ於テ現場ニ臨ミ救護ニ關スル

顛末ヲ見届クヘシ
 前項ノ届出ヲ受ケサルモ舍宅内ニ在ル患者多數ニ及ヒタルトキハ時々現場ニ臨ミ治療ノ狀況ヲ視察スヘシ
 第三條 前二條ニ依リ現場ニ臨ミタルトキハ其ノ狀況番ヲ作り後日ノ參考ニ供シ置クヘシ
 第四條 舍宅内ニ在ル疾病者負傷者及死者多數ニ及ヒタルトキ又ハ規則第二條第一項第五號ニ該當スルモノアルトキ若クハ傳染性疾患流行ノ虞アルトキハ速ニ警察部長ニ申報スヘシ
 第五條 疾病者負傷者救護ノ概況並ニ最モ行届ケル救護ノ方法等ハ各工場毎ニ區別シ半年報トシテ毎年一月十日及七月十日迄ニ警察部長ニ申報スヘシ但紡績業ハ工場別ニ依リ其ノ他ハ別紙製品類別ニ依リ調製シ其ノ以外ノモノハ其ノ例ニ準シ適宜類別スヘシ
 第六條 工場ノ職工並其ノ疾病者負傷者及死者ノ數ハ左ノ様式ニ依リ半年表ヲ調製シ毎年一月十日及七月十日迄ニ警察部長ニ申報スヘシ但紡績業ハ工場別ニ依リ其ノ他ハ別紙製品類別ニ依リ調製シ其ノ以外ノモノハ其ノ例ニ準シ適宜類別スヘシ

工場職工疾病者負傷者及死者表

明治 年 自 月 至 月

有、病、工、場 (紡績ノ部)

工場名	種別	職工數						計
		一(七月)	二(八月)	三(九月)	四(十月)	五(十一月)	六(十二月)	
何紡績會社	職工數							
	疾病者數							
	全上死者數							
	負傷者數							
	全上死者數							

無、病、工、場 (同)

工場名	種別	職工數						計
		一(七月)	二(八月)	三(九月)	四(十月)	五(十一月)	六(十二月)	
何々	職工							
	疾病者							
	全上死者							
	負傷者							
	全上死者							

一有病工場トハ其報告期間ニ疾病者負傷者及死者アリタル工場ヲ云ヒ無病工場トハ其ナカリシモノヲ云フ

一 第一項職工數ハ寄宿舎又ハ社宅内ニアルモノトシ第二項以下ハ其ノ職工中ニシテ之等該當スルモノヲ記載スヘシ
 一 職工數ハ毎月末日現在數ヲ其他ノ數ハ其月中ニ發生シタル數ヲ記載スヘシ
 一 記載事項ニシテ表中ニ記入シカタクモノハ表末ニ明記スヘシ

工場職工疾病者負傷者及死者表

明治

年自

月

有

病

工

場

(其他ノ部)

製品別及箇所數	種別	職工數											
		何々			何箇所			何々			何箇所		
計	種別	職工數			疾病者數			全上死者數			全上死者數		
		計	何箇所	何々	計	何箇所	何々	計	何箇所	何々	計	何箇所	何々
	一(七月)月												
	二(八月)月												
	三(九月)月												
	四(十月)月												
	五(十一月)月												
	六(十二月)月												
	計												

無病工場及附記前式ニ全シ

第六頁

◎衛生

告示第三百三十一號

明治三十二年八月二十一日

明治二十七年^{月十二}告示第五百一十一號縣立愛知病院患者規則並ニ縣立岡崎支病院患者規則第一章通則第二條中第二項ヲ削除シ第三項ヲ第二項ニ以下各項順次繰上シ

告示第七十三號

明治三十三年三月二十日

明治二十七年^{月十二}告示第五百一十一號縣立愛知病院患者規則中左ノ通改正シ來ル四月一日ヨリ施行ス
 第十條中特別上等ヲ一等、上等ヲ二等、中等ヲ三等、下等ヲ四等ト改正

告示第四十七號

明治三十四年三月三十日

明治二十七年十二月告示第五百一十一號縣立愛知病院患者規則中第二條第三條第十一條第二十二條第二十三條第二十四條第三十六條ヲ削除ス

告示第四十八號

明治三十四年三月三十日

縣立愛知病院ニ於テ明治三十四年四月一日ヨリ徴收ス可キ料金左ノ如シ
 一 診察料
 患者ノ初診 普通診察料 金拾錢
 特別診察料(來院ノ順序ニ拘ハラズ診察ヲ請フモノ) 毎診金參拾錢
 一 身体検査 檢査料 金參拾錢

- 一 乳汁検査 全 金參拾錢
- 一 診斷書一通ニ付 普通診斷書 金拾錢
精密診斷書 金五拾錢
- 一 處方書一通ニ付 金壹圓但入院患者ニシテ退院ノ際處方ヲ請フモノハ金五拾錢トス
- 一 種痘 一回ニ付、金拾錢
- 一 藥價 丙服藥一日分金拾錢十年未滿ノモノハ金七錢
但高價ノ藥品ハ一日分金拾貳錢十年未滿ノモノハ金拾錢
- 一 頓服藥 一回分 金四錢
- 一 外用藥 一劑 金八錢
但高價ノ藥品ハ一劑金拾貳錢
- 一 手術料 一回金五錢乃至金參拾圓
- 一 入院費
 - 一 等病室 一日 金壹圓四拾錢
 - 二 等病室 一日 金壹圓拾錢
 - 三 等病室 一日 金七拾錢
 - 四 等病室 一日 金五拾五錢
- 一 傳染病室 一日 金壹圓四拾錢
- 一 精神病室 一日 金壹圓拾錢
- 一 往診料 片道二里マテ金五拾錢其他一里以上ハ一里毎ニ金參拾錢ヲ加フ
- 一 蒸氣消毒費 一回金參拾錢

告示第百二十三號

明治三十四年六月二十六日

縣立愛知病院患者規則第十條但書ノ金額ヲ左ノ通り改正シ明治三十四年七月一日ヨリ施行ス

- 一 一 等病室 金拾五圓
- 一 二 等病室 金拾貳圓
- 一 三 等病室 金八圓
- 一 四 等病室 金六圓

訓令第六十九號

明治三十二年十一月二十日

郡 市 役 所
警 察 署
全 分 署
町 村 役 場

ベスト豫防ノ爲メ鼠驅除ノ件ニ關シテハ内務省訓令ノ次第モ有之凡ソ鼠ハベストニ感染スルコト人ト異ナルナク一朝該毒ニ感染スルコトアラシカ之カ媒介ニ由リ該病流行蔓延ヲ來シ以テ其撲滅殆ト期スヘカラサルナリ先年香港印度ニベスト發生シテヨリ尙未タ其流行ノ迹ヲ絶タス本年ニ至リテハ牛莊ニ亦ベスト發生猖獗ヲ逞シ臺灣ニ於テモ之レカ再燃ノ兆アル而已ナラス先般來神市戸ニベスト發生シ傳播ノ兆ヲ呈スルニ至レリ本縣ハ神市戸トハ交通頻繁ニシテ最モ危險ノ虞アルニ於テハ此際速カニ鼠ノ驅除方法ヲ講究シ場合ニ依テハ市町村費ヲ以テ之ニ充ツルノ必要可有之或ハ懸賞捕獲ノ方法ヲ探ルカ如キモ亦一策ナラント思考候條各地ノ狀況ニ應シベストノ侵入セサルニ先チ速カニ之カ術策ヲ講シ其目的ヲ達スヘシ

縣令第八十五號
 明治三十二年十一月二十一日
 ベスト病豫防上必要ニ付宅地内ニ於テ鼠ノ死体ヲ發見シタルトキハ該死体ニ觸レサル様注意シ直ニ最
 寄警察官署又ハ巡行巡查ニ書面若クハ口頭ヲ以テ届出テ警察官吏ノ指示ニ從ヒ相當ノ處置ヲナスヘシ
 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

縣令第九十號
 明治三十二年十二月五日
 本年十一月縣令第七十九號左ノ通改正ス
 ベスト病流行ノ虞アルニ付明治三十年法律第三十六條傳染病豫防法第二條ニ依リ其疑似症ニ對シ全法
 全部ヲ適用ス
 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

縣令第九十二號
 明治三十二年十二月十六日
 商店又ハ露店ニ陳列シ若クハ行商スル左記飲食物ハ蚊蠅及塵埃ヲ防クニ足ルヘキ適當ノ覆蓋ヲ爲スヘ
 シ違フ者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 一 菓子類 一 砂糖類 一 麪包類 一 團子餅類
 一 砂糖豆鹽煎餅類 一 餡類 一 煮豆類 一 鮮天麩羅類
 一 煮染類 一 味噌類 一 煮炙ヲ爲シタル魚鳥貝類
 一 殼皮ヲ去リタル果實
 本令ハ明治三十二年十二月二十六日ヨリ施行ス

縣令第九十五號
 明治三十二年十二月十八日
 市街地ノ塵芥下水掃除ノ請負營業ヲ爲スモノハ其掃除物ノ投棄場若クハ燒却場位置ノ圖面並ニ掃除物
 運搬器具ノ構造方法ヲ示シタル圖式ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由本廳ニ届出テ認可ヲ受クヘシ違フ者ハ
 壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 本令ハ明治三十二年十二月二十五日ヨリ施行ス

縣令第九十八號
 明治三十二年十二月二十五日
 ベスト病豫防上必要ト認ムルニ付明治三十年法律第三十六條傳染病豫防法第十九條第七號ニ依リ縣下
 各港灣ニ碇泊ノ船舶ハ左ノ區別ニ據リ警察官吏ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ且一般ニ船
 鼠ノ驅除ヲ爲スヘシ
 一 碇泊中ノ船舶ハ一般清潔方法ヲ施行スヘシ
 二 ベスト病發生地及該地ト交通頻繁ナル地ヨリ來リタル船舶若ハベスト病發生地ト交通シタル船舶
 ハ特ニ消毒方法ヲ施行スヘシ
 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第三百五號 (訓令)
 明治三十二年十二月二十八日
 名古屋市役所
 鼠驅除ニ關スシテハ巽ニ訓令スル所アリ各郡町村ニ於テハ既ニ實行候處過般豐橋驛ニ於テ斃鼠ヨリベ
 スト菌ヲ發見セルニ就テハベスト豫防上一日モ忽カセニスヘカラサルノ急務ハ消毒的清潔方法ノ施行
 ト鼠驅除トニアリ就中鼠驅除ハ斃鼠ノ發見ニ注意スルト共ニ最モ緊要ナリトス共市ニ於テハ速ニ驅除

ノ方法ヲ定メ之ヲ厲行シテ病毒ノ滋蔓ヲ防遏スルコトニ努ムヘシ

縣令第二號

明治三十三年一月八日

ペスト病豫防ノ爲メ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第十九條ニ據リ縣下ノ各鉄道停車場及ベ
スト發生地ト取引アル運送店並ニ商店ニ對シ左ノ各項ノ施行ヲ命ス

- 一 倉庫及貨物庫内ノ鼠ヲ驅除スル事
- 二 倉庫、貨物庫、貨車、客車其他一般ノ塵芥ハ燒却スル事

縣令第三號

明治三十三年一月九日

宿屋營業者ニアラナルモノハ乞丐、浮浪者又ハ巡禮ト稱スル輩ヲ止宿セシムルコトヲ得又但シ已ムラ
得サルノ事情アリテ其ノ止宿ヲ容認シ若クハ家屋、所有地内ニ於テ此等ノ輩カ止宿セルコトヲ發見シ
タルトキハ家主、地主又ハ管理人ヨリ即時警察官署、巡查派出所、巡查駐在所若シハ巡回警察官吏ニ届
出ヘシ

前項但書ノ止宿ニ供用シタル場所ハ警察官吏ニ於テ家主、地主又ハ管理人ニ對シ清潔方法、消毒方法
ノ施行ヲ命スルコトアルヘシ

第一項ニ違ヒタルモノ若シハ第二項ノ命令ニ從ハサルモノハ三日以内ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓貳拾五錢
以下科料ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

縣令第十三號

明治三十三年二月五日

產婆試驗規則施行細則左ノ通定ム

產婆試驗規則施行細則

第一條 產婆試驗ハ毎年春秋二回之ヲ舉行ス

但試驗願出ノ期日舉行ノ期日及場所ハ一ケ月前ニ告示ス

第二條 產婆試驗ヲ受ケントスルモノハ別紙様式ニ據リ市町村長ノ與印ヲ受ケ郡市役所ヲ經由シ常廳
ニ願出ヘシ

第三條 產婆試驗願書ハ本人之ヲ自書スヘシ

第四條 試驗中一科以上欠席ノ者ハ其期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス
(別紙)様式

產婆試驗願

何郡市町村番戶(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)士族平民(外國人ナレハ國籍)

氏 名

何年何月生

自分義何年何月產婆(實地)試驗相受度別紙規定ノ書類相添此毀相願候也

年 月 日 氏

名 印 (外國人ナレハ捺印ヲ要セス)

愛知縣知事 殿

市町村長與印

第六十六號 (訓令)

明治三十三年三月九日

警察部

產婆試驗委員職務規程左ノ通定ム

產婆試驗委員職務規程

第一條 產婆試驗委員ハ知事ノ監督ニ歸シ產婆試驗ニ關スル事務ニ從事ス

第二條 產婆試驗委員ハ委員長一人主事一人委員若干ヲ以テ組織ス

產婆試驗委員長ハ警部長產婆試驗主事ハ技師產婆試驗委員ハ醫師及警部ヲ以テ之ニ充ツ(三三訓一

四七改正)

第三條 產婆試驗委員長ハ產婆試驗主事及產婆試驗委員以下ヲ監督試験ニ關スル事務ヲ掌理ス

第四條 產婆試驗委員長ハ產婆試驗委員ノ提出シタル試験ノ成績ヲ査定シ合格シタルモノニ合格證書

ヲ附與ス(三三訓一四七第二項削除)

第五條 產婆試驗主事ハ產婆試驗委員長ノ指揮ヲ受ケ試験ニ關スル庶務ヲ整理シ產婆試驗委員長事故

アルトキハ其職務ヲ代理ス

第六條 產婆試驗委員ハ產婆試驗委員長ノ指揮ヲ受ケ委員醫師ハ學說試験及實地試験ヲ掌リ全警部ハ

庶務ニ從事ス

縣令第二十二號

明治三十三年三月十二日

產婆試験問題數並採点法左ノ通定ム

第一條 學說試験ハ筆答トス

第二條 學說試験問題數左ノ如シ

第一 正規妊娠分娩及其取扱法

二問

第二 正規産後ノ経過及生兒看護法

二問

第三 異狀ノ妊娠分娩及其取扱法

二問

第四 妊婦産婦娠婦生兒ノ疾病消毒ノ方法及產婆心得

二問

第三條 實地試験ハ當分摸型試験ヲ行フ

第四條 實地試験問題ハ二問トス

第五條 採点法左ノ如シ

第一 學說試験ハ一問ノ満点ヲ拾点トシ每項点數五點以上ヲ得而ノ各項ノ点數ヲ合算シ其全点數四

拾点以上ヲ得タル者ヲ合格トス

第二 實地試験ハ一問ノ満点ヲ拾点トシ一問ノ点數二點半以上ニシテ其合点數拾点以上ヲ得タル者

ヲ合格トス

告示第六十四號

明治三十三年三月十二日

產婆試験受験人心得左ノ通定ム

第一條 產婆試験受験人心得

第一條 試験ハ午前九時ニ始メ午後三時ニ終フ

但臨時時間ヲ變更スルトキハ其都度告知スヘシ

第二條 受験人ハ試験時間三十分前迄ニ到着シ試験委員ノ差圖ニ從ヒ順次着席スヘシ

第三條 試験場ニ着席シタル上ハ互ニ談話シ又ハ不正ノ行爲アルヘカラス

第四條 受験人ハ筆墨ノ外書類ヲ携帶シ試験場内ニ入ルコトヲ得ス且試験委員ノ許可ヲ得ルニアラサレハ試験場外ニ出ルコトヲ得ス

第五條 問題答記ノ時間ハ一問ニ付二時間以内トス

第六條 答記書ニハ各問題毎ニ自己ノ氏名ヲ記入シ試験委員ニ差出スヘシ但答記ヲ爲シ能ハサル者ハ其旨ヲ記シ本項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 試験中不都合ト認ムヘキ所爲アルモノハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

縣令第二十九號

明治三十三年三月二十六日

明治三十三年法律第三十一條汚物掃除法第五條ニ依リ名古屋市ニ汚物掃除監視吏員ヲ設置セシム其定員及俸給額ハ左表ノ通相定ム

區別	定員	月給額
掃除監督長	一人	參拾圓以上五拾圓以下
掃除監督	五人	拾五圓以上參拾圓以下
掃除巡視	二十人	九圓以上拾五圓以下

第九十九號 (訓令)

明治三十三年三月二十八日

名古屋市役所

其市ニ設置スル掃除巡視服務規律左ノ通相定ム

掃除巡視服務規律

第一條 掃除監督長又ハ掃除監督ノ指揮監督ヲ受ク忠實ニ其職務ヲ執行スヘシ

第二條 職務ノ執行ハ公平ヲ旨トシ嚴正ニシテ苟モ愛憎偏頗ノ處置ヲ爲シ若ハ職權ヲ濫用スルカ如キ行爲ヲ爲スヘカラス

第三條 平素品行ヲ慎ミ殊ニ勤務中醉態ヲ露ハシ若ハ疎暴ノ言語動作ヲ爲スヘカラス

第四條 職務執行ノ際道路通行又ハ營業ノ妨ケト爲ラサル様深ク注意スヘシ

第五條 職務執行ノ爲メ私人ノ土地ニ立入りタルトキ無用ノ場所ニ注目シ又ハ濫リニ休憩雜話シ又ハ飲食等ヲ爲スヘカラス

第六條 掃除義務者ニ對談スルトキハ相當ノ禮儀ヲ守リ若シ掃除執行上ニ關シ指示ヲ請フモノアルトキハ懇切ニ之ヲ指示スヘシ

第七條 市參事會又ハ市長ノ許可ナクシテ其職務ニ關シ何等ノ名義ヲ以テスルテ拘ハラズ總テ他人ノ贈遺ヲ受クヘカラス

第八條 本規定ノ外尙ホ一般市吏員ノ服務規律ニ從フヘシ

訓令第十八號

明治三十三年三月二十八日

名古屋市役所

其市ニ設置スル掃除巡視採用規則左ノ通相定ム

掃除巡視採用規則

第一條 掃除巡視ハ試験ノ上採用スヘキモノトス但シ左ニ記載シタル者ハ此限ニアラス

一 判任官以上ノ職ニ在リタル者及文官任用令第三條ニ依リ判任官タルノ資格ヲ有スル者

二 巡查看守ノ職ニ在リタル者

- 三 陸軍兵卒ニシテ現役滿期トナリ又ハ戰時召集ヲ解除セラレ下士適任證書ヲ有スル者
 - 四 一ケ年以上官公署衛生事務雇員タリシ者
 - 五 市書記又ハ附屬員ニシテ一ケ年以上勤務セシ者
- 第二條 掃除巡視ハ品行方正身體強健年齡二十年以上五十年未滿ニシテ徵兵ニ相當セス左ノ諸項ニ牴觸セサルモノタルヘシ
- 一 重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ若ハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ附セラレタル者及輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經過セサル者但シ舊法ニ依リ施体ノ刑ニ處セラレタル者ハ總テ本項ニ準ス
 - 二 賭博犯處分規則ニ據リ懲罰ニ處セラレタル者
 - 三 巡查看守懲罰例又ハ官吏懲罰例ニ依リ免職セラレ若ハ故ナシ巡查看守ヲ辭職シ二年ヲ經過セサル者
 - 四 身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者又ハ從前身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
 - 五 酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アル者
- 第三條 掃除巡視ノ試験ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス
- 一 衛生法規等ノ大要ニ通スル者
 - 二 假名交リノ論文及普通往復文ヲ作り得ル者
 - 三 算術加減乗除ヲ爲シ得ル者
 - 四 普通ニ楷書又ハ行書ヲ書キ得ル者
- 第四條 掃除巡視ノ試験ハ掃除監督二名以上立合ソ上掃除監督長之ヲ施行スヘシ

類集下四〇
頁參看

第五條 掃除巡視ニ採用スヘキ者ハ相當ノ年限ヲ定メ一端就職ノ上ハ一身ノ事故ヲ以テ就職年限内ニ辭職スルカ如キコト決シテアルヘカヲサル誓書ヲ徴シタル上採用スヘシ

第百一十一號 (訓令) 明治三十三年四月四日 名古屋市役所

掃除監視吏員ノ服制ハ明治三十三年三月三十一日內務省訓令第三號ニ依リ制定スヘシ
但帽及鈕釦ノ徽章ヲ定メタルトキハ其圖式ヲ添ヘ報告スヘシ

縣令第三十八號 明治三十三年四月九日

明治三十二年四月縣令第三十八號衛生組合規則第二條第一項及第十一條第十二條左ノ通改正追加ス

第二條 衛生組合ニ組合長副組合長各一人組合幹事若干人ヲ置キ組合長副組合長ハ組合公民中ヨリ撰舉スヘシ

第十一條 但書追加
但市ハ警察署又ハ分署ノ區域ニ依リ聯合衛生組合會ヲ設クルコトヲ得

第十二條 但書追加
但市ニ數箇ノ聯合衛生組合會ヲ設ケタルトキハ特ニ總聯合會長及副會長各一人ヲ置キ該會長ニハ市長ヲ以テ之レニ充テ副會長ハ各聯合會役員中ヨリ互撰テ以テ之レヲ定ム

縣令第三十九號 明治三十三年四月九日

醫師ニ於テ麻疹患者又ハ流行性感胃ニ罹リタル者ヲ診察シタルトキハ毎十日ヲ以テ一期トシ(月末ハ日數ノ多少ニ拘)

ハラス一期)其員數ヲ市町村長ニ届出ヘシ其轉歸ノ場合亦同シ
トナスコト)前項ノ届出ヲ受ケタル町村長ハ郡役所ニ郡長及市長ハ本廳ニ直ニ報告スヘシ
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第三百三十一號 (訓令)

明治三十三年四月十三日

名古屋市役所

掃除監視吏員ノ職務章程中ニ左ノ條項ヲ規定スヘシ

掃除監督長ノ職務

- 第一 掃除監督長ハ掃除監督掃除監視及掃除人ノ勤務作業服裝等ヲ監視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ
- 第二 掃除監督長ハ市内ヲ巡回シ左ノ事項ヲ視察スヘシ
 - 一 掃除監督以下ノ配置ノ適否
 - 二 掃除人ノ數及其配置ノ適否
 - 三 塵芥焼却場、汚物仮置場ノ狀況
 - 四 公共溝渠公共便所ノ狀況
 - 五 其ノ他市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況
 - 六 私人ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況其ノ他掃除ニ關スル法令ノ行否
- 第三 掃除監督長ハ公共溝渠、公共便所、塵芥焼却場、汚物場仮置場等ノ築造修繕浚渫等ヲ要スト認
ムルトキハ市參事會ニ具申スヘシ
- 第四 掃除監督長ハ汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及私人ノ履行スヘキ事
項ヲ施行スヘシ
- 第五 掃除監督長私人ニ戒告スルトキハ左ノ事項ヲ除ク外市長ノ指揮ヲ受クヘシ

一 溝渠、便所、井戸流其ノ他ノ場所ノ掃除及汚物ノ處分ニシテ人夫何人以内ニテ履行シ得ヘキ見
込ナルモノ

二 溝渠、便所、井戸流ノ築造修繕等ニシテ何圓以内ノ費用ヲ以テ履行シ得ヘキ見込ナルモノ

三 塵芥容器ノ備付、取替等

第六 掃除監督長戒告書ヲ送達セシムルトキハ領收證ヲ徴セシムヘシ

第七 掃除監督長汚物掃除法施行規則第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキ又ハ警察官署ノ協議アリタルト
キハ掃除監督又ハ掃除監視ヲシテ臨檢セシメ必要ト認ムルトキハ自ラ臨檢スヘシ

第八 掃除監督長ハ掃除監視ノ受持區畫ヲ定メ二以上ノ受持區ヲ以テ受持組合ヲ設クヘシ

第九 掃除監督長ハ掃除監視ニ受持ノ區又ハ勤務ノ場所ヲ命スヘシ

第十 掃除監督長ハ臨時必要ナルトキハ掃除監督ヲシテ他ノ掃除監督ノ擔任ニ屬スル事務ヲ補助代理
セシメ又ハ掃除監視ヲシテ掃除監督ノ事務ヲ補助代理セシムルコトヲ得

第十一 掃除監督長ハ掃除監督及掃除監視ノ進退賞罰ヲ市參事會ニ具申スヘシ

第十二 掃除監督長ハ掃除人ヲ雇入レ及之ヲ解雇シ又ハ人夫請負人ニ命シテ掃除人ヲ解雇セシムルコ
トヲ得

第十三 掃除監督長ハ人夫請負人ニシテ不都合アリト認ムルトキハ市參事會ニ具申スヘシ

第十四 掃除監督長ハ毎月一回左ノ事項ヲ調査シ翌月十五日マテニ市長ニ報告スヘシ

- 一 使用シタル掃除人ノ延人員(掃除區別塵芥焼却場等ニ使
用スル者ハ別ニ之ヲ示スヘシ)
- 二 搬出シタル塵芥及汚泥ノ各見積重量又ハ容量(掃除區
別)
- 三 焼却シタル塵芥ノ見積重量又ハ容量(塵芥焼
却場別)
- 四 公共溝渠公共便所塵芥焼却場汚物仮置場等ノ築造修繕浚渫等ニ着手シ又ハ落成シタル個所其ノ

狀況

五 掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數(溝渠便所并戸流其ノ他地域内ヲ特ニ視察シタルモノ)

六 掃除監視吏員巡回視察中私人ニ與ヘタル注意ノ件數

(イ) 塵芥容器ハ其ノ使用方ニ付

(ロ) 溝渠ニ付

(ハ) 便所ニ付

(ニ) 地域内ノ掃除ニ付

(ホ) 其ノ他 (前各號ニ準シテ項目ヲ分ツテ要ス以下同シ)

七 私人ニ戒告シタル數

(イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ) 溝渠ニ付

(ハ) 便所ニ付

(ニ) 地域内ノ掃除ニ付

(ホ) 其ノ他

八 戒告ヲ受ケ私人ノ履行シタル件數

(イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ) 溝渠ニ付

(ハ) 便所ニ付

(ニ) 地域内ノ掃除ニ付

(ホ) 其ノ他

九 代執行シタル件數

(イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ) 溝渠ニ付

(ハ) 便所ニ付

(ニ) 地域内ノ掃除ニ付

(ホ) 其ノ他

十 掃除監視吏員申告ニ依リ臨檢シタル件數

(イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ) 溝渠ニ付

(ハ) 便所ニ付

(ニ) 地域内ノ掃除ニ付

(ホ) 其ノ他

十一 掃除監視吏員警察官署ノ協議ニ依リ臨檢シタル件數

(イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付

(ロ) 溝渠ニ付

(ハ) 便所ニ付

(ニ) 地域内ノ掃除ニ付

(ホ) 其ノ他

十二 掃除監視吏員施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル廳府縣令ニ依リ告發シタル者ノ數

(イ) ハ、ハ、ハ、ハ、第何條ニ依リ

- (ロ) 〃、〃、〃、〃、〃、第何條ニ依リ
- (ハ) 〃、〃、〃、〃、〃、第何條ニ依リ
- (ニ) 〃、〃、〃、〃、〃、第何條ニ依リ
- (ホ) 其ノ他

第十五 掃除監督長ハ毎年掃除事務年報ヲ調製シ翌年六月マテニ市長ニ提出スヘシ

第十六 掃除事務年報ニ記載スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 掃除區畫ノ數各區ノ面積戸數人口(戸數人口ハ城近調査ニ據ル)
- 二 各掃除區畫内ノ受持區畫ノ數
- 三 年未現在掃除監視吏員ノ員數俸給別
- 四 毎月使用シタル掃除人ノ延人員(掃除區畫別塵芥焼却場等ニ使
用スル者ハ別ニ之ヲ示スヘシ)
- 五 毎月搬出シタル塵芥汚泥ノ各見積重量又ハ容量(掃除區
畫別)
- 六 焼却シタル塵芥ノ見積重量又ハ容量(塵芥焼
却場別)
- 七 公共便所塵芥焼却場汚物假置場等ノ數(公共便所汚物假置場ハ
掃除區畫別年未現在)
- 八 公共溝渠公共便所塵芥焼却場汚物假置場等ノ築造修繕浚渫等ニ着手シ又ハ落成シタル箇所其ノ
狀況

九 汚物掃除法施行規則第五條ニ依リ市ニ於テ汚物ヲ蒐集スル戸數

毎日何回蒐集、何戸
毎二日一回全上

塵芥容器、塵

十 汚物掃除法施行規則第廿一條ニ基キ土地ノ占有者ヲシテ汚物ヲ處分セシムル箇所ノ數(掃除區畫別
年未現在)

十一 毎月掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數(溝渠便所并其ノ他地域
内ヲ特ニ視察シタルモノ)

十二 掃除監視吏員毎月巡回視察中私人ニ與ヘタル注意ノ件數

- (イ) 塵芥容器又ハ其使用方ニ付
- (ロ) 溝渠ニ付
- (ハ) 便所ニ付
- (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
- (ホ) 其ノ他

十三 毎月私人ニ戒告シタル件數

- (イ) 塵芥容器又ハ其使用方ニ付
- (ロ) 溝渠ニ付
- (ハ) 便所ニ付
- (ニ) 地域内ノ掃除ニ付
- (ホ) 其ノ他

十四 戒告ヲ受ケ私人ノ履行シタル件數 (毎月)

- (イ) 塵芥容器又ハ其ノ使用方ニ付
- (ロ) 溝渠ニ付
- (ハ) 便所ニ付
- (ニ) 地域内ノ掃除
- (ホ) 其ノ他

十五 代執行シタル件數 (毎月)

- 四 公共溝渠公共便所ノ狀況
- 五 其ノ他市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況
- 六 私人ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況其ノ他掃除ニ關スル法令ノ行否
- 第二十 掃除監督ハ公共溝渠公共便所塵芥焼却場汚物仮置場等ノ築造修繕浚渫等ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第二十一 造除監督ハ汚物掃除法第七條ニ依リ私人ニ戒告ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第二十二 掃除監督ハ私人ニ於テ掃除監督長ノ戒告ヲ履行スルヤ否ヲ監視シ掃除監督長ニ報告スヘシ
- 第二十三 掃除監督ハ掃除監督長ニ於テ私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スルトキハ掃除巡視ヲ指揮シテ其ノ事務ニ従前スヘシ
- 第二十四 掃除監督ハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキ又ハ警察官吏ノ協議アリタルトキハ掃除巡視ヲシテ臨檢セシメ必要ト認ムルトキハ自ラ臨檢スヘシ掃除監督長ノ命アリタルトキ亦同シ
- 第二十五 掃除監督ハ法令又ハ市參事會若ハ市長ノ訓令又ハ掃除監督長ノ指示ニ關シ行務ノ統一ヲ圖ル爲隨時部下ノ掃除巡視ニ必要ナル訓授ヲ爲スヘシ
- 第二十六 掃除監督ハ部下ノ掃除巡視ノ受持區内ニ於ケル巡行線路ヲ定メ掃除監督長ニ報告スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第二十七 掃除監督ハ掃除巡視ノ出勤簿及勤務日誌其ノ他必要ナル簿冊ヲ整理スヘシ
- 第二十八 掃除監督ハ臨時必要アルトキハ掃除巡視ヲシテ他ノ掃除巡視ノ受持ニ屬スル事務ヲ補助代理ヒシムルトキ得

- 第二十九 掃除監督ハ部下ノ掃除巡視ノ進退賞罰ヲ掃除監督長ニ具申スヘシ
 - 第三十 掃除監督ハ掃除人ノ解雇ヲ要スト認ムルトキ又ハ人夫受負人ニシテ不都合アリト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ
 - 第三十一 掃除監督ハ毎月三回左ノ事項ヲ掃除監督長ニ報告スヘシ
 - 一 使用シタル掃除人ノ延人員
 - 二 搬出シタル塵芥及汚泥ノ各見積重量又ハ容量
 - 三 焼却シタル塵芥ノ見積重量又ハ容量
 - 四 公共溝渠公共便所塵芥焼却場汚物仮置場等ノ築造修繕浚渫等ニ着手シ又ハ落成シタル箇所其ノ狀況
 - 五 掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數
 - 六 掃除監視吏員巡回視察中私人ニ與ヘタル注意ノ件數
 - 七 掃除監視吏員申告ニ依リ臨檢シタル件數
 - 八 掃除監視吏員警察官署ノ協議ニ依リ臨檢シタル數
 - 九 掃除監視吏員施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル廳府縣令ニ依リ告發シタル者ノ數
- 掃除巡視ノ職務
- 第三十二 掃除巡視ハ掃除區内ノ受持區ヲ担任シ又ハ塵芥焼却場汚物仮置場等ニ勤務スヘシ
 - 第三十三 掃除巡視ハ常ニ受持區内ヲ巡回シ又ハ所屬ノ場所ニ出務スヘシ
 - 第三十四 掃除巡視ハ毎日掃除人其ノ被服及掃除用器具ヲ点檢シ勤務日誌ニ記載スヘシ
 - 第三十五 掃除巡視ハ掃除人ノ作業等ヲ監視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ

第三十六 掃除巡視ハ必要ト認ムルトキハ掃除人ノ作業服裝掃除用器具ニ關シ視察シタル事項ヲ掃除監督ニ報告スヘシ

第三十七 掃除巡視ハ公共溝渠公共便所其ノ他市ノ掃除スヘキ場所ヲ視察シ其ノ狀況ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ但シ溝渠便所塵芥焼却場汚物仮置場等ノ築造修繕浚渫ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督ニ報告スヘシ

第三十八 掃除巡視ハ塵芥容器塵芥溜等ヲ検査シ汚物停滞シタルトキハ掃除人ニ指揮シテ搬出セシムヘシ其ノ破損シタルトキハ家人ニ注意ヲ與ヘ取替又ハ修繕ヲ爲サシムヘシ

第三十九 掃除巡視ハ溝渠便所非戸流其ノ他私人ノ掃除スヘキ場所ヲ視察シ家人ニ注意ヲ與ヘ又ハ時宜ニ依リ衛生組長ニ交渉シ其ノ狀況ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ但シ汚物掃除法第七條ニ依リ私人ニ戒告ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督ニ報告スヘシ

第四十 掃除巡視ハ私人ニ於テ掃除監督長ノ戒告ヲ履行スルヤ否ヲ監視シ掃除監督ニ報告スヘシ

第四十一 掃除巡視ハ掃除監督長ニ於テ私人ノ履行ヘキ事項ヲ施行スルトキハ上司ノ指揮ヲ受ケ其ノ事務ニ従事スヘシ

第四十二 塵芥焼却場又ハ汚物仮置場所屬ノ掃除巡視ハ毎日出入ノ汚物舟車數其ノ見積重量又ハ容量ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ

第四十三 掃除巡視ハ汚物掃除法第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキハ二十四時間以内ニ臨檢シ直ニ其ノ事實ヲ掃除監督ニ報告スヘシ掃除監督長又ハ掃除監督ノ命アリタルトキ亦同シ若シ期限内ニ臨檢シ難キ事由アルトキハ掃除監督ニ具申スヘシ

第四十四 掃除巡視ハ毎日一定ノ時刻ニ掃除事務所又ハ出張所ニ參集シ出勤簿ニ捺印シ諸般ノ報告等ヲ爲スヘシ

第四十五 掃除巡視ハ受持區内ノ戸數及塵芥容器塵芥溜ノ數ヲ調査ノ上記録シ常ニ之ヲ加除スヘシ

第四十六 掃除巡視ハ勤務中給與シ手帳ヲ携ヘ大小ノ事故ヲ之ニ記入スヘシ手帳ハ上司ノ求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第四十七 掃除巡視ハ前各項ニ掲クルモノ、外毎日勤務ノ要領及勤務中ノ事故ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ

訓令第三十八號

明治三十三年六月十九日

名古屋市役所

明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第十九條ニ依リベスト豫防ノ爲メ警察官吏ニ於テ必要ト認ムル家屋倉庫及貨物庫其他ニ對シ左ノ清潔方法及消毒方法施行手續ニ基キ市費ヲ以テ清潔方法及消毒方法ヲ施行スヘシ

清潔方法及消毒方法施行手續

第一條 市ハ清潔方法施行ノ區域及日時ヲ豫メ施行區域内ノ各戸ニ通告シ家人ヲシテ其施行時限マテニ家具家財等ヲ家屋外ニ搬出セシムルコト

第二條 市ハ吏員ヲシテ警察官吏ノ指示ニ從ヒ人夫ヲ指揮シ左ノ各項ニ依リ清潔方法ヲ施行セシムルコト

一 各戸ニ就キ先ツ床板ヲ剝離シ次ニ天井裏ニ於ケル糞鼠ノ有無ヲ檢索スルコト

二 糞鼠ヲ發見セザルトキモ天井裏ノ塵芥ヲ掃除シ次テ室内床下ニ及ホシ全家ノ塵芥ヲ床下ニ集メ採收スルコト

三 糞鼠ヲ發見シベスト菌ヲ認メタルトキハ更ニ其家屋及隣接家屋ニ對シ消毒方法ヲ行フヘシ

- 四 斃鼠ヲ發見セサルモ家宅内及其構内不潔ナル場所ニシテ特ニ危險ノ虞アリト認ムルトキハ消毒方法ヲ施行スルコト
- 五 毎戸又ハ土地ヨリ採集シタル塵芥ハ直ニ取片付ケ適當ノ場所ニ於テ燒却スルコト
- 六 清潔方法施行中斃鼠ヲ發見シタルトキハ其頭數及場所並ニ家人ノ住所氏名ヲ記シタル票札ヲ付シ一括ノ上消毒ヲナシ檢疫本部ノ検査ヲ受ケタル后燒却ノ手續ヲ爲スヘシ

訓令第四十號

明治三十三年六月二十五日

渥美郡役所
 全 郡豐橋町役場
 全 郡花田村役場

ベスト豫防ノ爲メ警察官吏ニ於テ必要ト認ムル家屋、倉庫、貨物庫其他ニ對シ當該吏員ヲシテ燐及亞砒酸ヲ鼠驅除ノ目的ニ使用セシメ左ノ鼠驅除及藥品取扱手續ニ依リ施行スヘシ

鼠驅除及藥品取扱手續

- 第一條 町村ハ鼠ヲ驅除スヘキ區域内ノ各戸ニ共着手ノ日時及驅除方法等豫知セシメ置クヘシ
- 第二條 町村ノ當該吏員ハ警察官吏ノ指示ニ從ヒ左ノ各項ニ依リ鼠驅除及藥品ノ取扱ヲナスヘシ
 - 一 鼠驅除藥ハ醫師又ハ藥劑師ヲシテ調製セシメ其調製方ハ藥品ヲ軟膏又ハ糊等ニ混和セシムルコト
 - 二 但燐ノ使用ハ可成避クルコト
 - 三 驅除藥ハ當該吏員ヲシテ各戸ニ就キ適當ノ場所ニ裝置セシムルコト
 - 四 驅除藥使用ノ場所ニハ飲食食物飲器又ハ水其他危險ノ虞アルモノハ總テ之ヲ取除キ置クコト

- 四 驅除藥使用ノ場所ハ棚ノ上又ハ天井裏ノ如キ常ニ鼠ノ來集スル箇所ヲ撰ムコト
 - 五 驅除藥ハ筒ヲ以テ取扱ヒ鼠ノ持去ル能ハサルモノヲ撰ヒ之レニ塗布シ置クコト
 - 六 驅除藥ヲ裝置シタルトキハ其危險物タルコトヲ家人ニ懸示シ就中幼者ニハ慎重ニ警戒ヲ加ヘシメ尙ホ翌日當該吏員ノ監査ヲ終ルマテハ之レニ觸接セシメサルコト
 - 七 驅除藥ハ家屋ノ大小廣狹ニ由リ豫メ一定シ難シト雖モ普通各家ニ對シ二個以上十個迄ヲ配置スルコト
 - 八 當該吏員ハ毎日日没ヨリ驅除藥ヲ配置シ其翌日午前八時迄ニ必ラス各戸ヲ查了シ其殘藥ハ勿論痕跡タリトモ之レヲ收集シ危險ナカラシムルコト
 - 九 當該吏員ハ翌日監査ノ際斃鼠ノ有無ヲ檢シ發見シタルトキハ其頭數及場所並ニ家人ノ住名氏名ヲ記シタル票札ヲ付シ一括ノ上消毒ヲナシ適當ノ容器ニ收集シ檢疫委員事務所ノ検査ヲ受ケタル后燒却ノ手續ヲナスコト
 - 十 若シ監査終了後家人ニ於テ斃鼠ヲ發見シタルトキハ箸ノ類ヲ以テ容器ニ收メ町村役場又ハ警察署巡查派出所巡查駐在所ノ内へ便宜持參セシムルカ若クハ届出ヘキ旨指示シ置クコト
 - 十一 驅除藥ヲ取扱ヒタル者ハ其都度手ヲ充分流滌スルコト
- 第三條 町村長ハ鼠ノ驅除終了後五日以内ニ左ノ様式ニ依リ成績表ヲ製シ檢疫委員事務所長ヲ經由シ知事ニ報告スヘシ

自明治 年 月 日

鼠驅除成績表

町村役場名

町名	種日	戸數	驅除藥使用戸數	斃鼠數	藥品數量	全上價格	雜費額	人夫數	全上雇給額	全上一人ニ對スル一日
				有菌	無菌	亞砒酸	燐	亞砒酸	燐	